

2022 年度
早稲田大学学生生活・学修行動調査報告書

2023 年 3 月

早稲田大学 大学総合研究センター

研究倫理番号 2020-169

目次

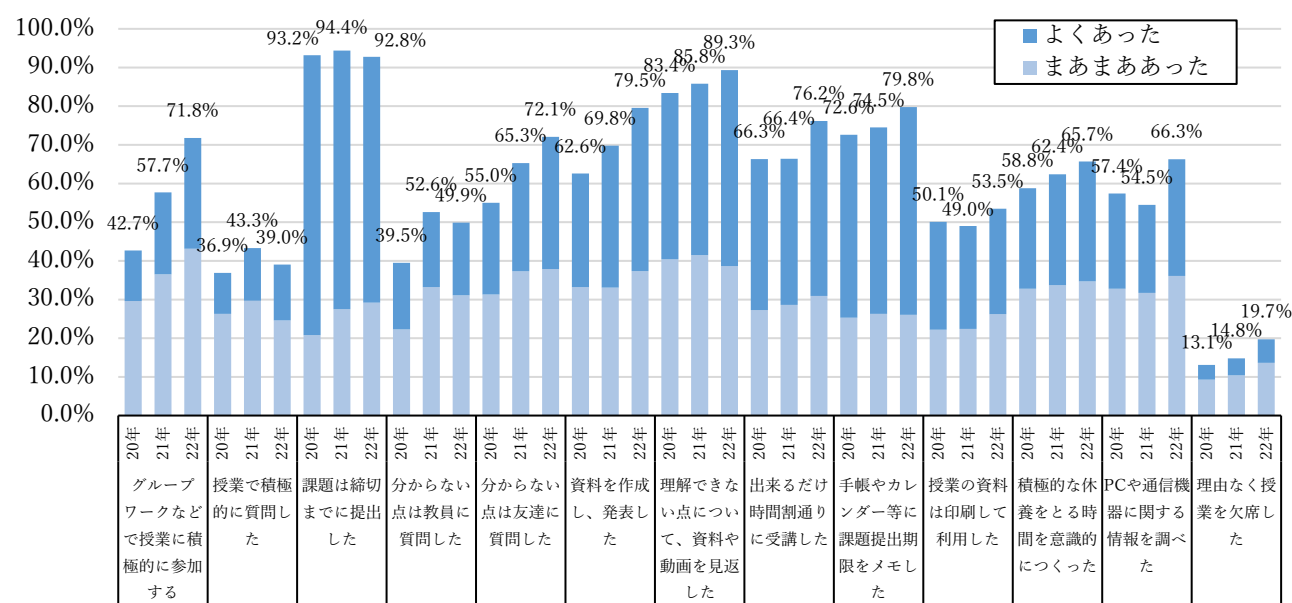
報告書概要	p. 2
第1章 調査概要と対象について	p. 3
1－1．調査概要	p. 3
1－2．調査対象時期と第3回調査の変更点	p. 3
第2章 2020年度からの比較	p. 5
2－1．共通質問項目の推移	p. 5
2－2．パネルデータも含めた学修成果の推移	p. 8
第3章 入学前経験と在学時の学びの関係	p.13
3－1．高校時の経験	p.15
3－2．進学理由とアドミッション・ポリシー	p.25
3－3．在学時の学び	p.34
3－4．入学前経験と在学時の学びの関係	p.41
第4章 高校と大学のリーダー経験の関係	p.43
4－1．高校と大学のリーダー経験の比較	p.43
4－2．リーダー経験と関連項目の関係	p.45
4－3．リーダー経験と出身高校タイプの関係	p.48
4－3．まとめ	p.53
集計表	p.55

報告書概要

学生生活・学修行動調査は、2019年度まで38回にわたって行われてきた学生生活調査を継承し、2020年度から新たに企画、実施されたものである。第3回目となる本調査は2022年6月24日から7月22日まで、オンライン調査ツール（クアルトリクス）を用いて日英両言語で作成し、実施された。対象は、早稲田大学の全学生（45,587名）で、回答総数は14,535名（回収率：31.9%）となった。

本報告書では、まず2020年度から実施した前回までの調査との比較を通して、コロナ禍以降の学修や学生生活の変化を整理した（第2章）。また、大学入学前の経験と大学在学時の経験間の関係について分析した（第3章）。さらに、大学入学前の経験のなかでもリーダー経験に焦点をあて大学在学時のリーダー経験との関係を検証した（第4章）。

前年度までの比較分析の結果、教育経験や学修行動では各項目の経験について肯定的な回答がより高くなった。特に、学修行動（図一概要）においては「グループワークなどで授業に積極的に参加する」の項目の肯定的な割合が42.7%（2020年）から57.7%（2021年）、そして71.8%（2022年）へと大きく増加した。また、「分からない点は友達に質問した」の項目においても、55.0%（2020年）から72.1%（2022年）へと増加し、「資料を作成し、発表した」経験についても62.6%（2020年）から79.5%（2022年）へと増加した。



図一概要 学修行動

※2021年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

大学入学前の経験と大学在学時の経験間の関係については、高校時の学習経験と進学理由は、大学在学時の主体的な学修行動に繋がっていることが示された。また、リーダー経験に関する分析では、高校と大学のリーダー経験の相関はいずれも小さいが、その中では特に高校と大学の課外活動のリーダー経験の相関が、他のリーダー経験より比較的大きいことが示された。

第1章 調査概要と対象について

1-1. 調査概要

学生生活・学修行動調査は、2019年度まで38回にわたって行われてきた学生生活調査を継承し、2020年度から新たに企画、実施されたものである。第3回目となる本調査は2022年6月24日から7月22日まで、オンライン調査ツール（クアルトリクス）を用いて日英両言語で作成し、実施された。対象は、早稲田大学の全学生（45,587名）で、回答総数は14,535名（回収率：31.9%）となった。

調査にあたっては、以下に示すように、全学の幅広い大学政策に資するような調査分析を行い、教育の一層の充実を通して、学生の成長に繋げ、それらを早稲田大学のステークホルダーである社会に対して示すことを目的とする。

- ・ **計画策定・政策形成への活用**：奨学金や学費などの大学政策検討時の基礎資料など
- ・ **社会的評価への活用**：在学時の満足度との相関分析など ※将来的に、卒業生調査より得られるデータと連結した分析も検討する
- ・ **評価活動への活用**：教学マネジメント検証、内部質保証検証など ※学修時間・学修行動の把握、公表および分析結果の授業等教育活動の見直しにも活用する
- ・ **学生の実態把握への活用**：入試形態別の学修成果等パフォーマンス分析や附属校・系属校出身学生のGPA以外での評価など ※学修成果の把握を通して、授業等教育活動の見直しに活用するのみならず、全体の集計結果を公表し、学生に周知することで学生本人の学修等の動機付けにも繋げる
- ・ **各種広報への活用**：入試説明会などの広報、および卒業生（校友）への広報など

なお、学生生活・学修行動調査は、学内の研究倫理を遵守の上実施し（研究倫理番号：2020-169、研究責任者：吉田文、実施代表者：遠藤健）、本報告書の全体の編集・執筆を遠藤健（大学総合研究センター）、第4章の執筆を山田寛邦（同）、編集補助・集計表の作成を丸川拓己（同学生スタッフ）が担当した。

1-2. 調査対象時期と第3回目調査の変更点

ここでは、調査対象者となる学生の学修・生活環境の基本情報について、国内と早稲田大学のおもな動向を表1-1に示す。2020年度初めに新型コロナウイルス感染症が国内に拡大し、早稲田大学では、4月の緊急事態宣言を受けキャンパスが立入禁止となるなど全面的なオンライン授業が実施され、拡大が収まると徐々に対面授業へ戻す方針が示されるなど、調査実施時期の新型コロナウイルス感染症拡大から3年目にあたる時期まで教育や課外活動へ影響があった。2022年度における学生生活・学修行動調査の調査（6月～7月）では、調査終了時になる7月20日頃には東京都で3万人を超える感染者が出ており、いわゆる第7波に入っていくものの、調査実施前の授業期間中の感染拡大の状況は比較的収まっていた。

表 1－1 2022 年調査期間における早稲田大学の学生を取り巻く状況

国内	早稲田大学
	6 月 15 日：新型コロナウイルス感染拡大防止のための早稲田大学行動制限指針「A：キャンパス立入制限」の危機レベル引き下げについて 6 月 20 日以降の本学におけるイベントの制限について（イベントの制限を一部緩和）
6 月 23 日：東京都新型コロナウイルス新規陽性者 7 日間平均が 5 週間ぶりに増加。	
	6 月 24 日～7 月 22 日：学生生活・学修行動調査（第 3 回）実施
7 月 28 日：東京都新型コロナウイルス新規陽性者が 4 万 406 人で第 7 波最多。	

このように、感染拡大が始まった 2020 年度当初からすると、教育や学生生活はコロナ禍以前の状況に戻りつつあったため、本調査では新型コロナウイルス感染症の影響を直接尋ねる質問項目を削除した。とはいえ、これまでの 2 回の調査から継続して尋ねている項目を基本にしているため、それらの経年比較を通じた分析は可能である。また、これまで質問項目は 2019 年までの学生生活調査の質問項目を中心に使用していたこともあり、分析の際に変数として活用することが難しい点もあった。それをより活用しやすくするように、第 3 回の調査においては、質問項目について大分類の枠組みと入学前・入学後の 2 軸における大分類の繋がりを次のように整理した（図 1－1）。この整理内容に基づき、入学前に関する内容の追加や教示文の修正、複数回答方式から項目ごとのリッカード尺度への変更等を行い、分析の変数として活用しやすい項目を増加させ、学修成果の可視化の分析等により活用しやすい構造とした。

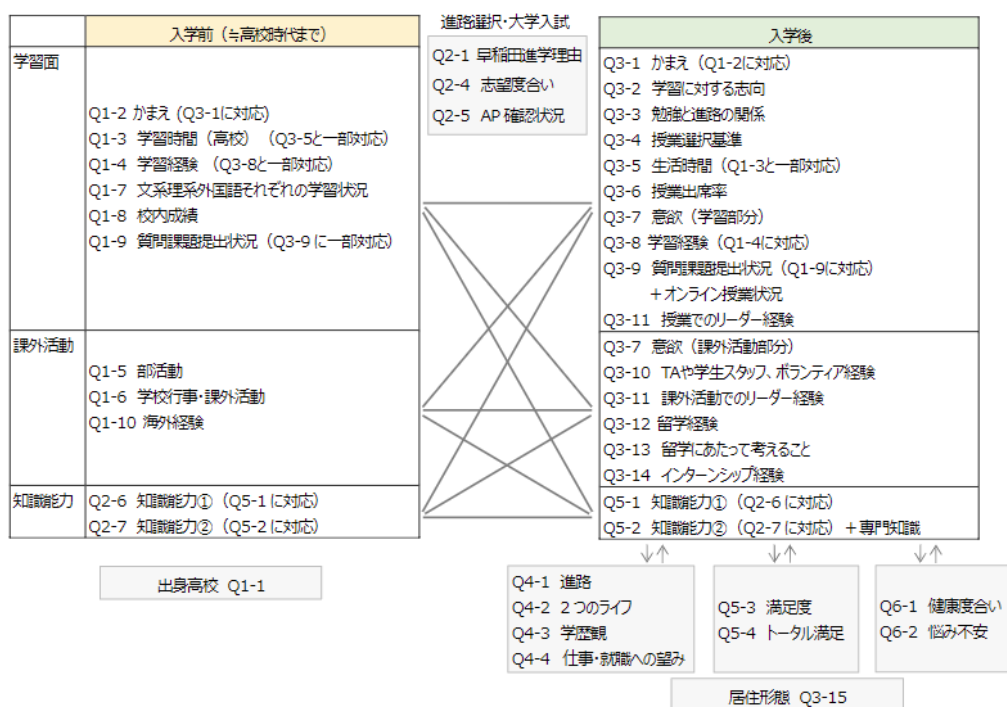


図 1－1 2022 年度調査における質問項目間の関連

第2章 2020年度からの比較

本章では、コロナ禍における学生の学修や学生生活の動向について前回調査と比較する。2020年度は11月～12月、2021年度は6月～7月にかけての調査結果である。各項目は、同様の項目ではあるものの、2021年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている。従って、学生の経験値がより蓄積される2022年の方が数値が高くなることが予想される。解釈する際には、この点に留意したい。2-1では学士課程の共通する項目の3年間の推移を、2-2では学修成果について、3年間回答した学生のパネルデータを活用した結果も示す。

2-1. 共通質問項目の推移

まず、授業の平均的な出席率についてこの3年間の推移を見ると（図2-1）、「90～100%」の回答が最も高かった77.3%（2020年）から65.9%（2022年）に減少している。この間の全面的なオンライン授業から対面授業への移行が関係しているとも考えられるし、2020年時に各行動制限があったことによって、学生が授業に出席しやすい状況にあったのかもしれない。

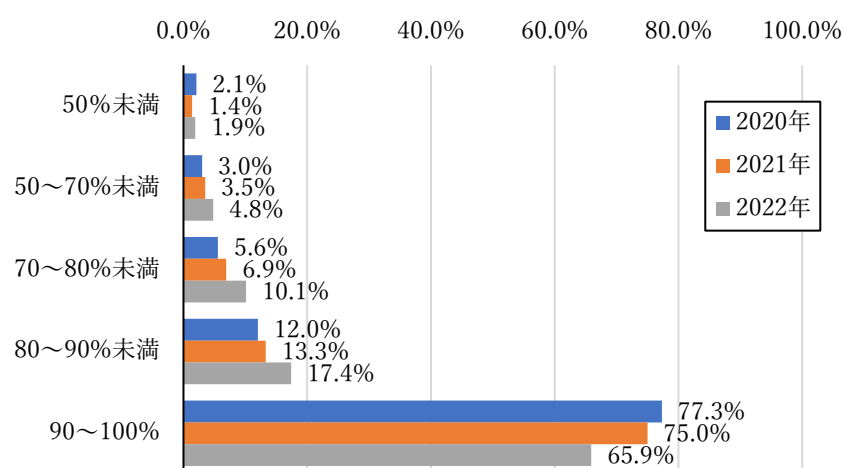


図2-1 授業の平均的な出席率

※2021年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

次に、教育経験の推移を見ると（図2-2）、いずれの項目も増加傾向にあることが分かる。オンライン授業や行動制限等で難しかった授業（フィールドワーク等）が可能になったことによりこの3年間で学生たちはより従来の授業を受けられるようになったと考えられる。特に増加が大きいのは、「社会や現実との関わりから学問の意義を学ぶ」であり、肯定的な回答の割合が22.6%（2020年）、29.0%（2021年）から73.4%（2022年）へと大きく増加した。おそらくフィールドワーク等、大学外での活動を含めた教育経験と推察され、2022年にはこれらの学生の教育経験が「回復」した段階に達したと言える。また、「異文化について学ぶ」経験についても増加幅が大きく、総じて教育経験については学生たちの経験がコロナ禍の時期よりも大きく高まった。

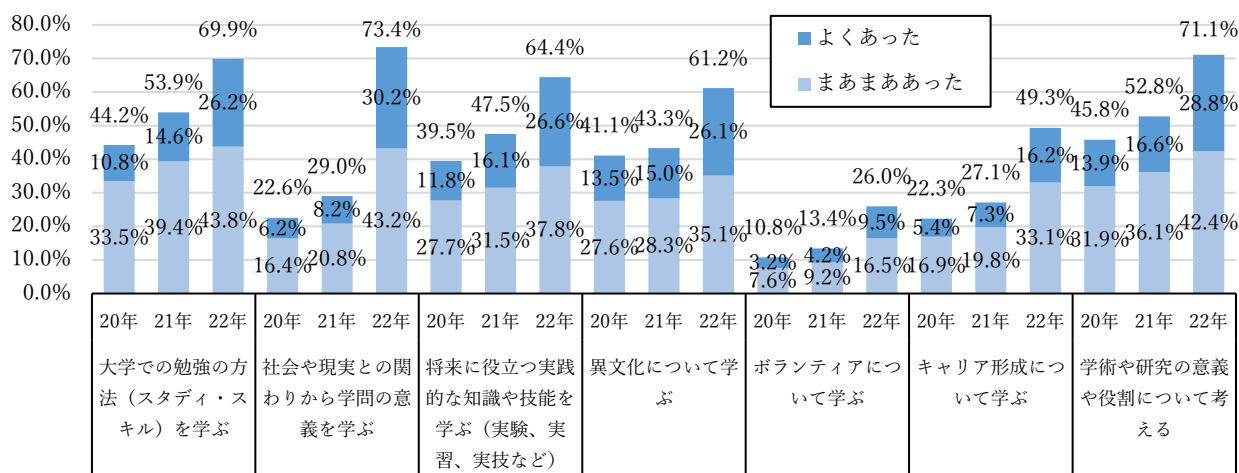


図 2－2 教育経験

※2021 年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022 年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

では、学修行動はどのように変化していったのだろうか。図 2－3 を見ると、増加傾向にある項目が目立つ。なかでも「グループワークなどで授業に積極的に参加する」の項目の肯定的な割合が 42.7%（2020 年）から 57.7%（2021 年）、そして 71.8%（2022 年）へと大きく増加した。もちろんオンライン授業においてもグループワークは可能であり、それらの手法もこの間洗練されたことに加え、対面授業が全面的に実施されたことも大きいと考えられる。「分からない点は友達に質問した」の項目を見ても、55.0%（2020 年）から 72.1%（2022 年）へと増加し、「資料を作成し、発表した」経験についても 62.6%（2020 年）から 79.5%（2022 年）へと増加した。

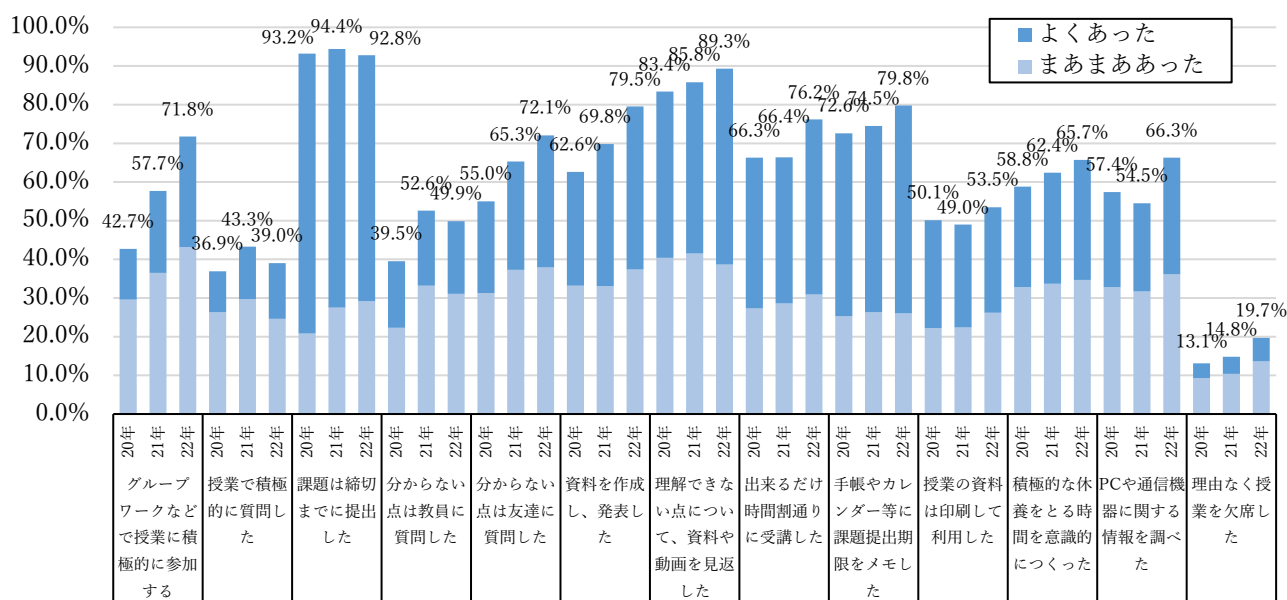


図 2－3 学修行動

※2021 年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022 年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

一方で、「授業で積極的に質問した」は 43.3%（2021 年）から 39.0%（2022 年）へと減少しており、「理由なく授業を欠席した」も上述した通り増加傾向であり、全面的な対面授業への移行で必ずしも学生が主体的に学修ができるようになったとは言えないのかもしれない。「出来るだけ時間割通りに受講した」や「手帳やカレンダー等に課題提出期限をメモした」の項目が増加していることを考えると、対面授業への行動に変容していく様子もうかがうことができ、一方ではこの 3 年間で 2022 年が最も「PC や通信機器に関する情報を調べた」の項目が高く（66.3%）、対面を基本としつつも、オンライン授業やハイブリッド型の授業への対応方法、周知がまだ必要なのかもしれない。

コロナ禍では学生の心身の健康も社会的な問題として懸念されたが、休学や退学等の意識はどのように変化していったのだろうか。図 2－4 を見ると、休学や退学、また他大学への編入、転部意識等はあまり変化がみられない。

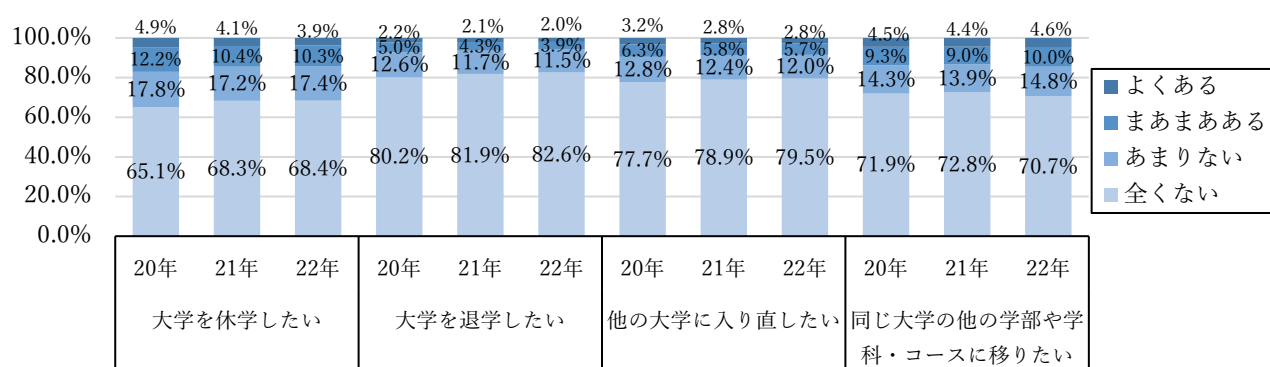


図 2－4 休学・退学等の意識

※2021 年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022 年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

身体・健康の面を見ると（図 2－5）、身体面では「とても健康である」の回答が 2022 年に 45.9%と若干高くなった。この点は、様々な行動制限が緩和されたことによる効果もあるのかもしれない。また精神面の健康についても「とても健康である」の項目が 29.3%（2020 年）、31.0%（2021 年）、35.8%（2022 年）と上昇している。この点は身体面での健康と合せて学生たちのメンタルヘルスが、コロナ禍の時期から傾向として改善されつつあると考えられる。

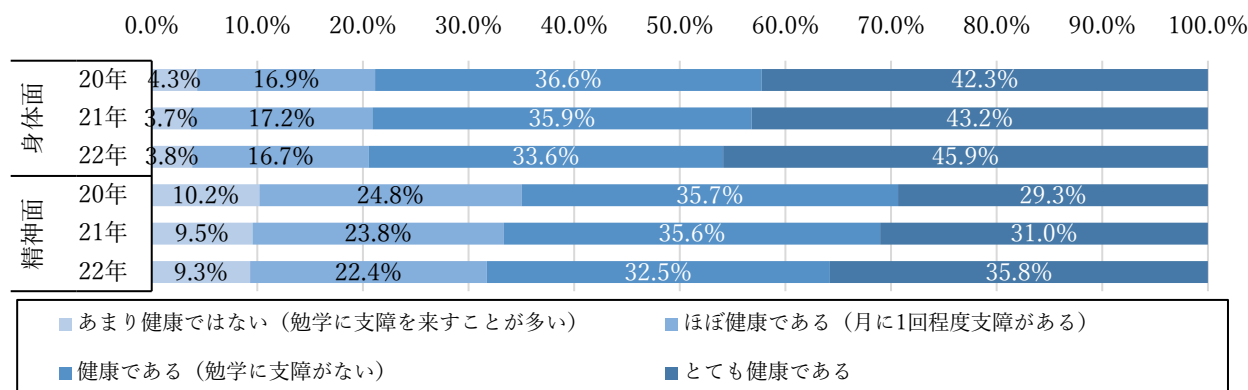


図 2－5 身体・精神面の健康

※2021 年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022 年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

2-2. パネルデータも含めた学修成果の推移

本節では、早稲田大学が全学で定めるディプロマ・ポリシーをもとに設定した学修成果の3年間の推移を示す。質問項目は、「【現在】あなたは、次のそれぞれについて、どれくらい身に付いたと思いますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。」として、それぞれ4件法で尋ねた。以下、前節と同様に3年間の集積されたデータの推移を示す（図2-6）。

結果を見ると、項目によっては若干の増減が見られる。この3年間では「新しいことに挑戦できる」が76.7%（2020年）から81.8%（2022年）に上昇し、「自分の考えを分かりやすく表現できる」についても76.3%（2020年）から81.1%（2022年）へ上昇している。さらに相対的に低い「外国語を理解し、話せる」についても54.7%（2020年）から58.1%（2022年）に上昇した。一方で、「既存の考え方にとらわれずに、新しいアイデアを生み出せる」については75.3%（2021年）から72.1%（2022年）に微減した。

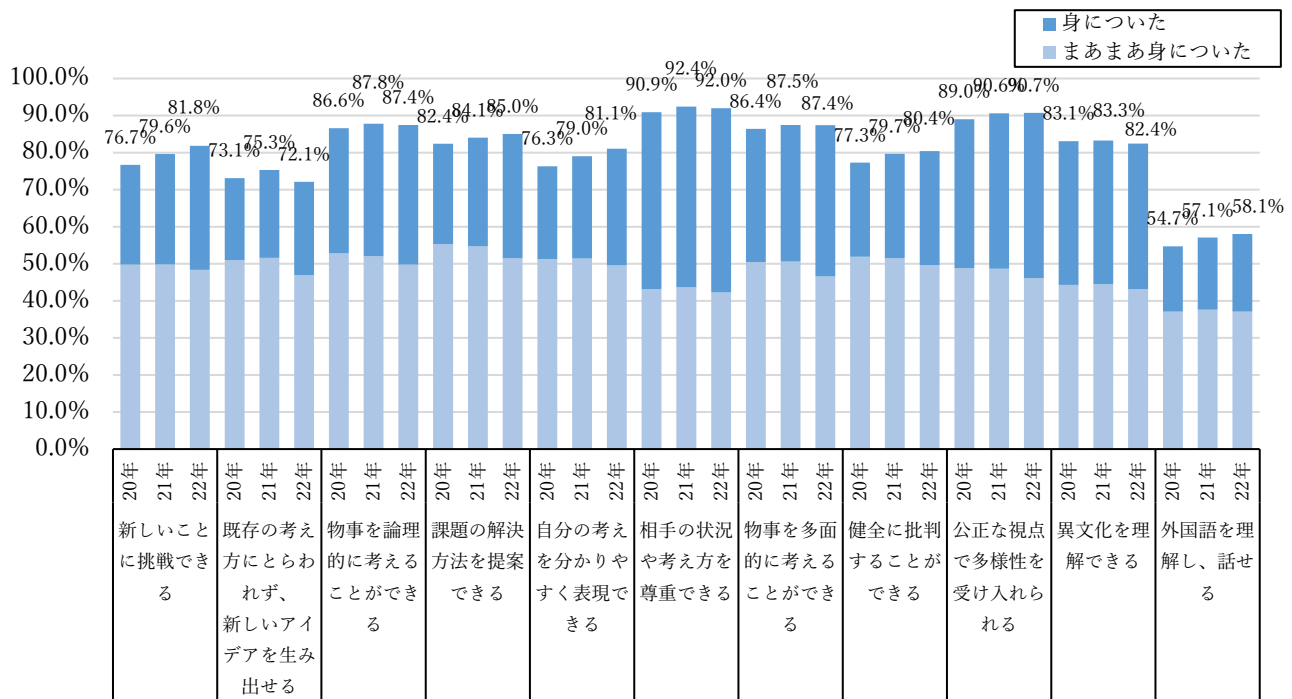


図2-6 学修成果

※2021年までは「当該調査が実施されている学期中の経験」を尋ねていたが、2022年の質問項目では、「入学以降の経験」を尋ねている

もっともこれらの結果は、集積されたデータの平均像である。そこで、以下では3年間回答した学生の回答の推移を、学年を基準に整理した。示すのは2019年入学者（2022年時は4年生相当）と2020年入学者（同3年生相当）である。前者は、599件、後者は730件の回答があった。毎年度3度の調査に回答している学生であるため、母集団と比べるとやや肯定的な回答が多いことも予想される点には留意する必要がある。なお、図の線グラフでは、「まあまあ身に付いた」と「身に付いた」の割合を入学年別に示している。相当する学年があがるにつれ、線グラフが右肩上がりになると、学修成果が高まったことになる。

まず、図2-7の「新しいことに挑戦できる」の項目については、入学年間であまり違いはない。1年生から4年生にかけて肯定的な回答の割合が6割から8割へと増加していく傾向にある。

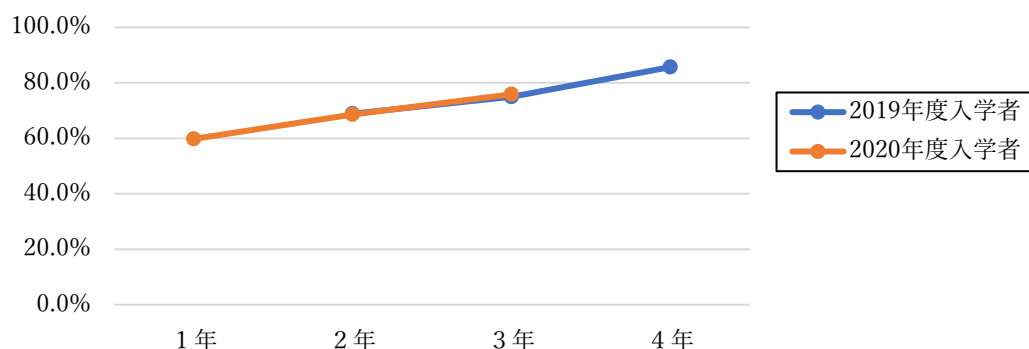


図2-7 学修成果の推移－新しいことに挑戦できる

次に、「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」の回答を示す。上述したように、この項目は3年目に微減した項目であった。図2-8を見ると、なかでも2020年入学者（3年生相当）の肯定的な回答が微減している。

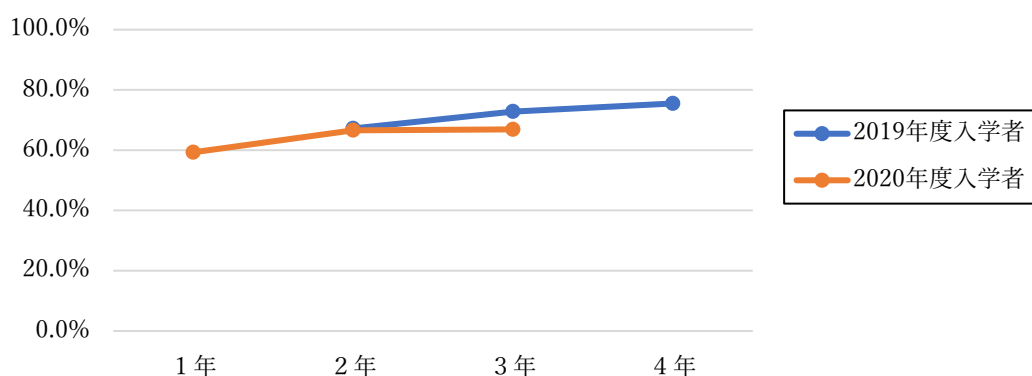


図2-8 学修成果の推移－既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

「物事を論理的に考えることができる」(図2-9)については、入学年間で違いは見られず、学年があがるにつれ、肯定的な回答が上昇している。

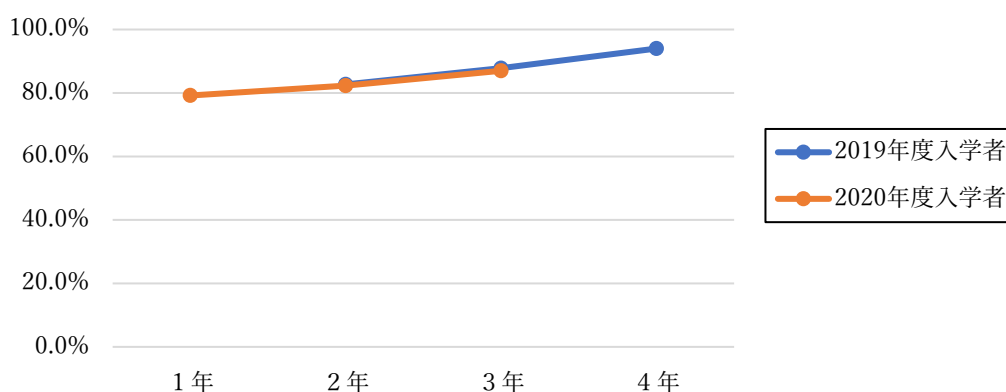


図2-9 学修成果の推移－物事を論理的に考えることができる

「課題の解決方法を提案できる」(図2-10)については、2020年入学者の3年時相当の方がやや高いが、顕著な差異は見られず、学年があがるにつれ、肯定的な回答が上昇する傾向にある。

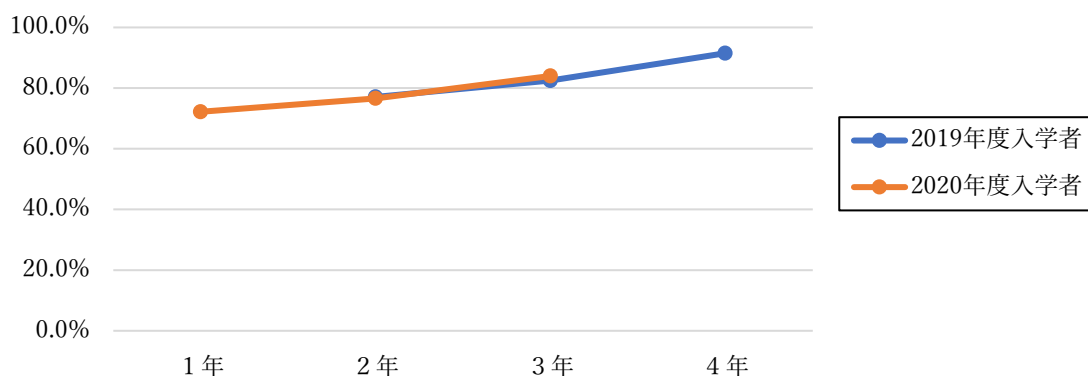


図2-10 学修成果の推移－課題の解決方法を提案できる

「自分の考えをわかりやすく表現できる」(図2-11)については2019年入学者に2020年入学者が重なるように、ほぼ同様の割合で上昇している。

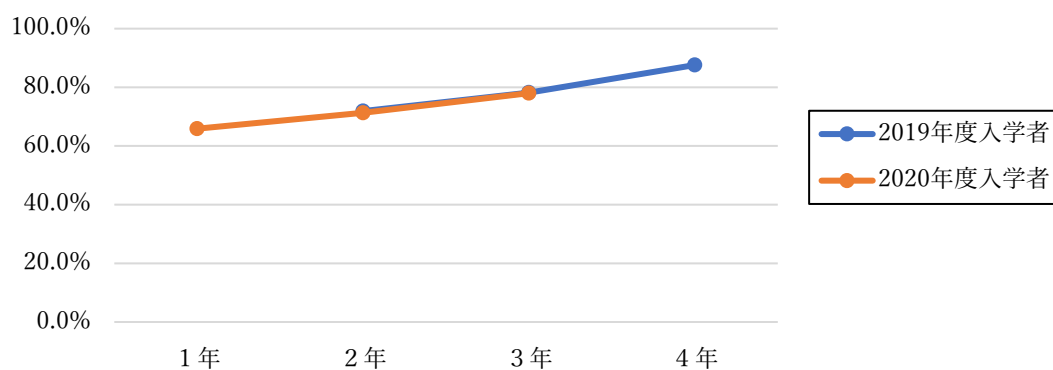


図2-11 学修成果の推移－自分の考えをわかりやすく表現できる

「相手の状況や考え方を尊重できる」(図2-12)については低学年での肯定的な回答の割合が既に高く、高学年での回答は「頭打ち」の回答状況である。

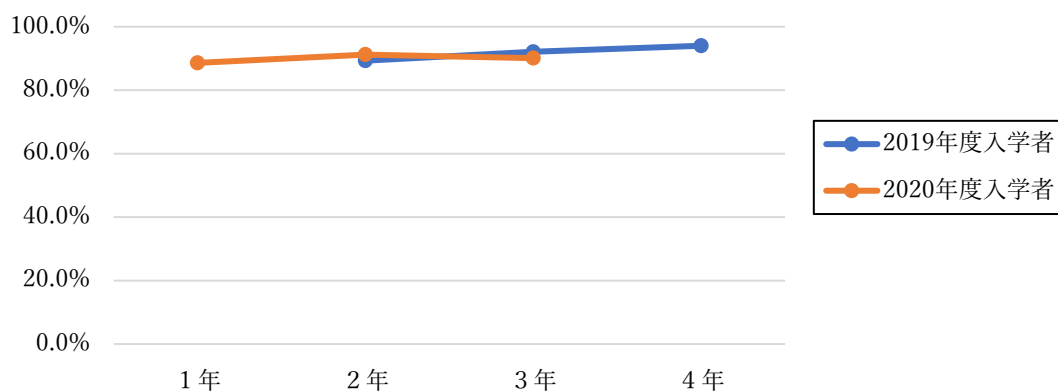


図2-12 学修成果の推移－相手の状況や考え方を尊重できる

「物事を多面的に考えることができる」（図2-13）についても、大きな入学年間での違いは見られず、学年があがるにつれ、肯定的な回答の割合が少しずつ上昇する傾向にある。

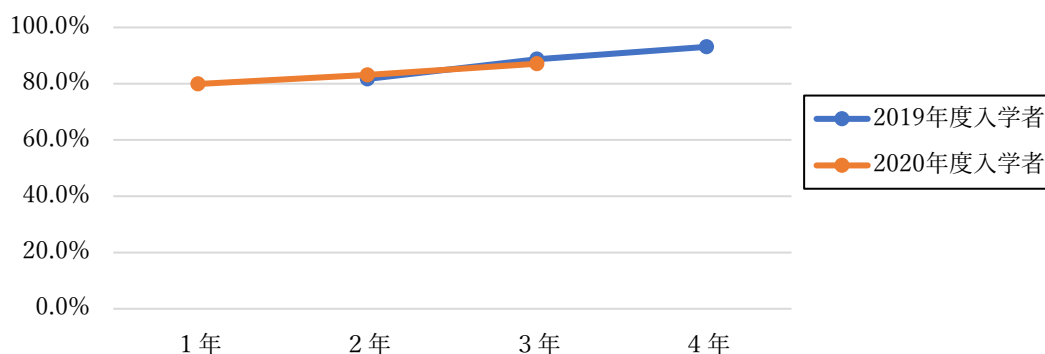


図2-13 学修成果の推移－物事を多面的に考えることができる

「健全に批判することができる」（図2-14）についても、入学年間でそこまで大きな違いが見られず、学年があがるにつれ、肯定的な回答の割合が高くなる。

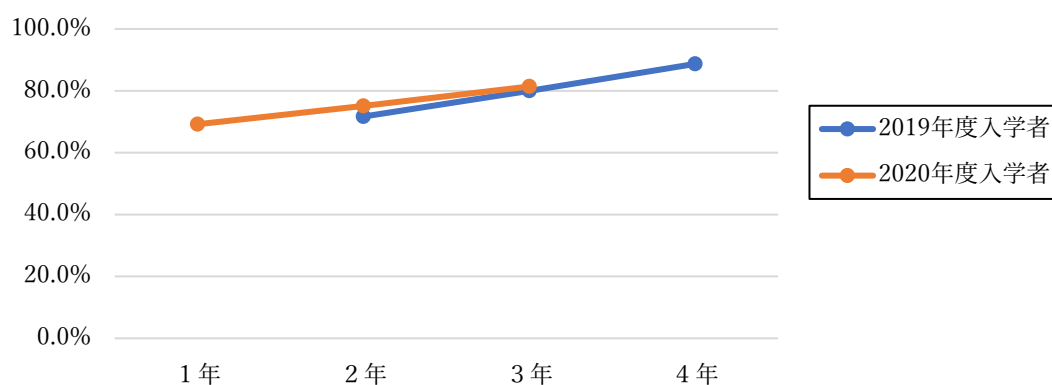


図2-14 学修成果の推移－健全に批判することができる

「公正な視点で多様性を受け入れられる」（図2-15）については、低学年時点での肯定的な回答の割合が高く、高学年では「頭打ち」のような状況にある。

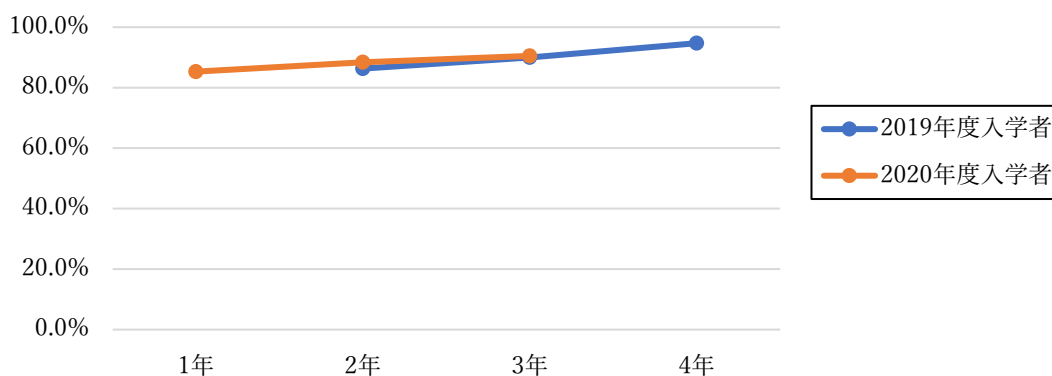


図2-15 学修成果の推移－公正な視点で多様性を受け入れられる

次の2項目については、ディプロマ・ポリシーのなかでも国際性に関する項目であり、相対的に低いものである。まず「異文化を理解できる」(図2-16)については、低学年時点で肯定的な回答の割合が8割程度あり、顕著な上昇傾向はない。入学年によらず8割程度で推移している。

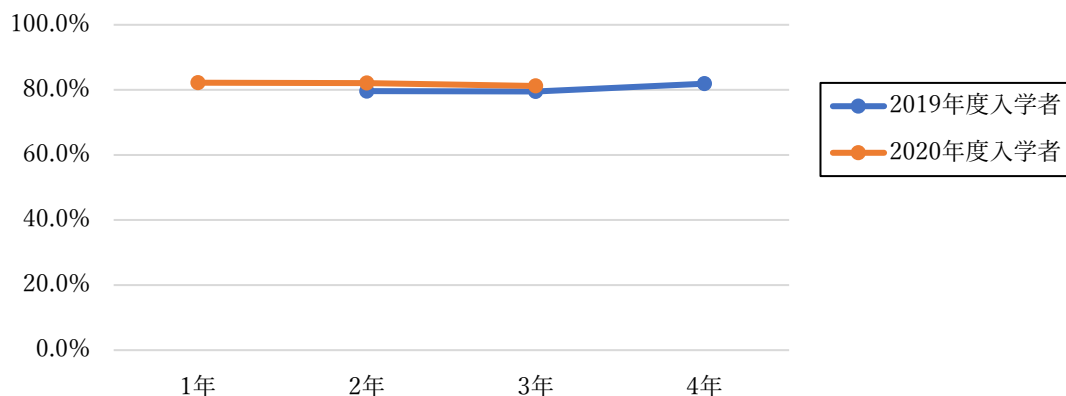


図2-16 学修成果の推移－異文化を理解できる

最後に「外国語を理解し、話せる」についてであるが、この項目が最も特徴的であり改善の余地が大きい(図2-17)。図2-6では調査年を経るに従って、肯定的な回答が若干増加しているものの、同一回答者の推移を見ると、2020年入学者においては肯定的な回答が減少傾向である。2019年入学者は学年があがるにつれ、上昇する傾向にあるが、肯定的な回答の割合が小さい。この点については、大いに改善の余地がある。

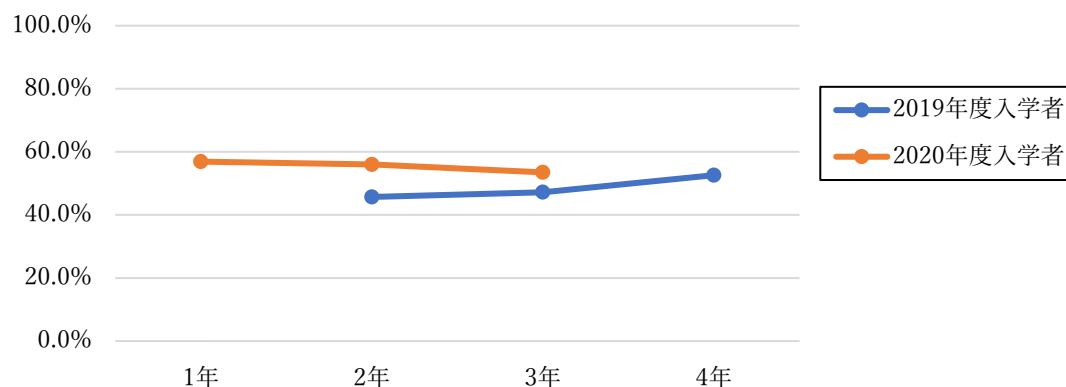


図2-17 学修成果の推移－外国語を理解し、話せる

第3章 入学前経験と在学時の学び

第3章では、早稲田大学に入学する前の経験と、在学時の学びの関係について、今回の調査によって得られたデータから示していく。まず、学生の中でも出身地や高校の設置主体によって学生のそれまでの経験が異なるものと考えられるので、出身地（高校所在地）と設置主体によって分類した高校タイプ間の違いを見ていく。その上で、各タイプ間で大学在学時の学ぶ姿勢や学修行動にどのような違いがあるのかを検証する。なお、ここでは学士課程の学生で、かつ出身高校が国内でデータが得られた回答のみを分析の対象とする。

まず、高校タイプを作成するにあたって、使用した学生の高校所在地について示す（図3-1）。ここでは、一都三県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）と国内のそれ以外の道府県に分けた。近年、早稲田大学において地方出身学生が減少しているなかで、本調査の回答者の分布も首都圏が7割程度で、非首都圏が3割弱という結果になった。

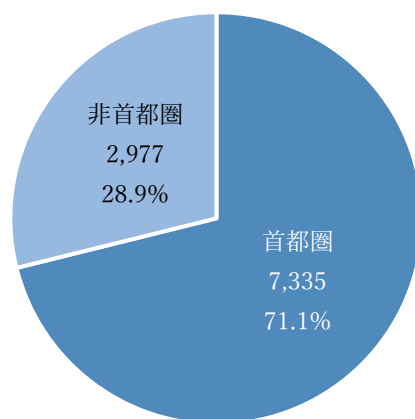


図3-1 学生の高校所在地

次に、高校の設置主体を国公立・私立に分けると、割合が多い順に首都圏私立（43.2%）、首都圏国公立（28.2%）、非首都圏国公立（18.1%）、非首都圏私立（10.5%）となった。首都圏では私立が、非首都圏では国公立から入学した学生が相対的に多い。

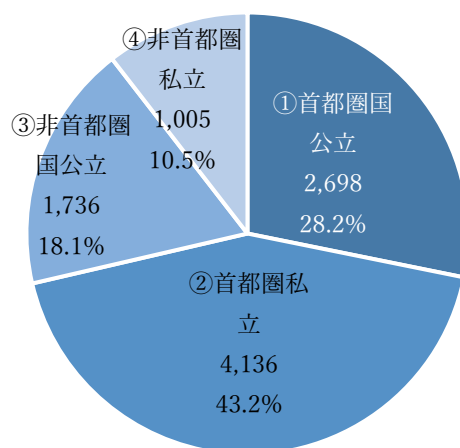


図3-2 学生の高校タイプ（高校所在地・設置主体別）

次に、中等教育のタイプを3年制の高校、中高一貫、その他に分けると、4つの高校タイプでは予想されるように、それぞれ特徴がある。首都圏国公立では3年制の高校が8割強であり、首都圏私立では中高一貫校（中学から進学）が55.7%と最も多い。ここには、早稲田大学の附属・系属校も含まれる。また非首都圏国公立では3年制の高校が86.6%であり、非首都圏私立の場合には、中高一貫校（中学から進学）が54.2%となった。以下の分析では3年制と中高一貫校の別は分析上考慮しない。

表3－1 高校タイプと3年制・中高一貫の別

	3年制の高校	中高一貫校 (中学から進学)	中高一貫校 (高校から進学)	その他	合計
首都圏国公立	83.2%	12.2%	3.7%	0.9%	100.0% (N=2,670)
首都圏私立	20.6%	55.7%	20.9%	2.7%	100.0% (N=4,124)
非首都圏国公立	86.6%	9.7%	3.3%	0.5%	100.0% (N=1,715)
非首都圏私立	23.7%	54.2%	20.4%	1.7%	100.0% (N=1,001)
合計	50.4%	35.0%	12.9%	1.7%	100.0%

3-1. 高校時の経験

ここでは、先に示した高校タイプに分けて高校時の経験について示していく。検討したのは、表3-2に示した①～⑬の項目であり、中分類として高校時代の学習に対する構え、高校時の学習経験、学習時間、中高時の校内成績、入学前の海外経験に分けた。

分析にあたって、各項目は基本的に、4件法で尋ね、肯定的な回答が高くなるよう1～4の数値を割り当てている。4件法でないものも、肯定的な回答（時間数が多いなど）が高いように数値を割り当てた。これら各項目の正規性を検定（Kolmogorov-Smirnov）した上で、高校タイプ間の平均値の差の検定を行った。Scheffの多重比較によってタイプ間で5%以下の有意差が確認できたものについては、表3-2で取り上げ、結果を簡易的に示した。なお、以降の節も同様の手続きで分析した。

表中の見方は、たとえば、「①少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した」の項目では、「3. 非首都圏国公立」が「1. 首都圏国公立」と「2. 首都圏私立」と比較して有意に高い結果が出ていることを示す。各項目の高校タイプ間で比較したクロス表は有意差が見られなかったものも含め、次ページ以降に示す。

表3-2 高校タイプ間の高校時の経験の差

	1.首都圏国公立	2.首都圏私立	3.非首都圏国公立	4.非首都圏私立
高校時の学習に対する構え				
①少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した			+(1, 2)	
②学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ			+(1, 2)	+(1, 2)
③なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた			+(1, 2)	
高校時の学習経験				
④勉強の方法を学ぶ				
⑤グループワークなどで授業に積極的に参加する	+(2, 4)	+(4)	+(2, 4)	
⑥授業中に自分の意見や考えを述べる	+(2)		+(2, 4)	
⑦社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ				
⑧異文化について学ぶ		+(1)		
⑨ボランティアについて学ぶ			+(1)	+(1, 2, 3)
⑩キャリア形成について学ぶ			+(1)	+(1)
⑪文系科目（国語・地歴・公民）についてしっかり学習した	+(2)		+(2)	+(2)
⑫理系科目（数学・理科）についてしっかり学習した		+(1)	+(1, 2)	+(1)
⑬外国語科目（英語等）についてしっかり学習した	+(2)		+(2)	
⑭授業で積極的に質問した			+(1, 2)	+(1, 2)
⑮課題は締切までに提出した				
⑯分からない点は先生に質問した			+(1, 2)	+(1, 2, 3)
⑰分からない点は友達に質問した		+(1)		
学習時間				
⑱「高校2年生の2学期」の頃、「平日（ふだん）」の学習時間。			+(1, 2)	+(1, 2)
⑲「高校2年生の2学期」の頃、「定期試験期間中」の学習時間。		+(1)	+(1)	+(1)
中高時の校内成績				
⑳中学3年の時	+(2, 4)		+(2, 4)	
㉑高校3年の時			+(1, 2)	+(1, 2, 3)
入学前の海外経験				
㉒親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在		+(1, 3, 4)		+(3)
㉓中高時代の留学		+(1, 3)		+(1, 2, 3)

ここでは各高校タイプの特徴を記述したい。まず、「1. 首都圏国公立」については「2. 首都圏私立」と比較して高い項目が複数確認できる。⑤グループワークなどで授業に積極的に参加する、⑥授業中に自分の意見や考えを述べる、において「2. 首都圏私立」あるいは「4. 非首都圏私立」と比べ高い。なお、この項目は「3. 非首都圏国公立」も同様の傾向がある。この結果は、国公立出身の方がいわゆる対話型授業で積極性を発揮してきた経験値は高いという結果であり、私立高校と比較して国公立高校においてより対話型授業が多い可能性もある。また、「2. 首都圏私立」と比べより⑪文系科目や⑬英語の学習に注力した点も特徴的である。

次に、「2. 首都圏私立」については「1. 首都圏国公立」と比較してより高い項目が複数あり、数学や理科といった⑫理系科目の学習に注力していたり、⑧異文化について学ぶ経験が高い。また、⑰分からない点は友達に質問した、という点も「1. 首都圏国公立」と比較して高く、高校時の友人同士の繋がりの強さも読み取れる。また、海外経験という点で、絶対数こそ少ないものの、他のタイプと比較して⑳親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在や㉑留学を経験している特徴がある。

「3. 非首都圏国公立」については4つのタイプのなかで相対的に高い項目が最も多く示された。まず、高校時代の学習に対する構えという点では、「1. 首都圏国公立」、「2. 首都圏私立」と比較して設定した3つの項目において有意に高い。高校時にはより前向きな学習態度が見られるものの、「3. 非首都圏国公立」は、入試区分では推薦入学者が他のタイプと比較して相対的に多いことも関係がある可能性もある（結果は省略）。この点は、㉒高校3年時の校内成績が首都圏の高校出身者よりも高いことも関係していると推察される。教育経験では、⑤グループワークなどで授業に積極的に参加する、⑥授業中に自分の意見や考えを述べる、において「2. 首都圏私立」、「4. 非首都圏私立」と比べ高く、⑨ボランティアや⑩キャリア形成に関して「1. 首都圏国公立」より高い。教科学習についても⑪-⑬文理、英語を問わず、より注力していたことがうかがえる。さらに、それらから予想される学習時間も⑱平日（ふだん）・㉓試験期間問わず「1. 首都圏国公立」、あるいは「2. 首都圏私立」よりも多い。

最後に、「4. 非首都圏私立」は「3. 非首都圏国公立」と類似した傾向にある。なかでも、⑨ボランティアについて学ぶ経験が高く、学校で特色のある授業がより展開されている可能性がある。また、⑰分からない点は先生に質問した、の項目がいずれのタイプよりも高い。このことから、より教師との距離が近い様子がうかがえる。海外経験という点では、「2. 首都圏私立」と同様、より高い傾向にあり、特に㉑留学を経験している特徴がある。

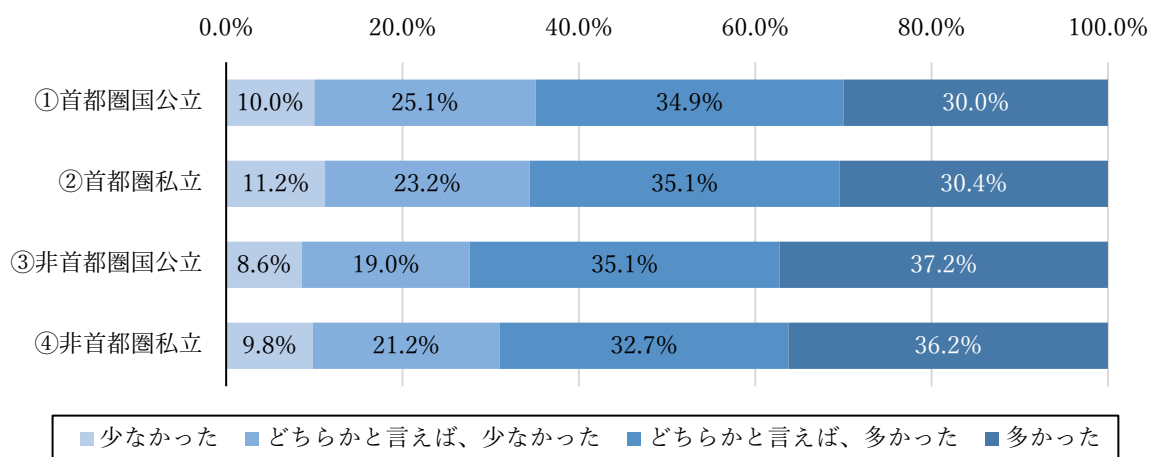


図 3－3 高校時経験__少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

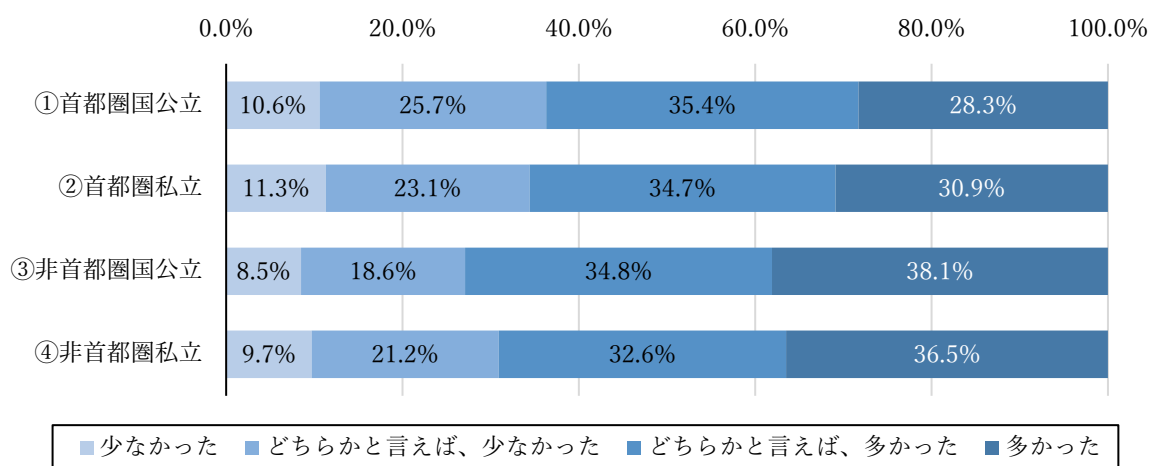


図 3－4 高校時経験__学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

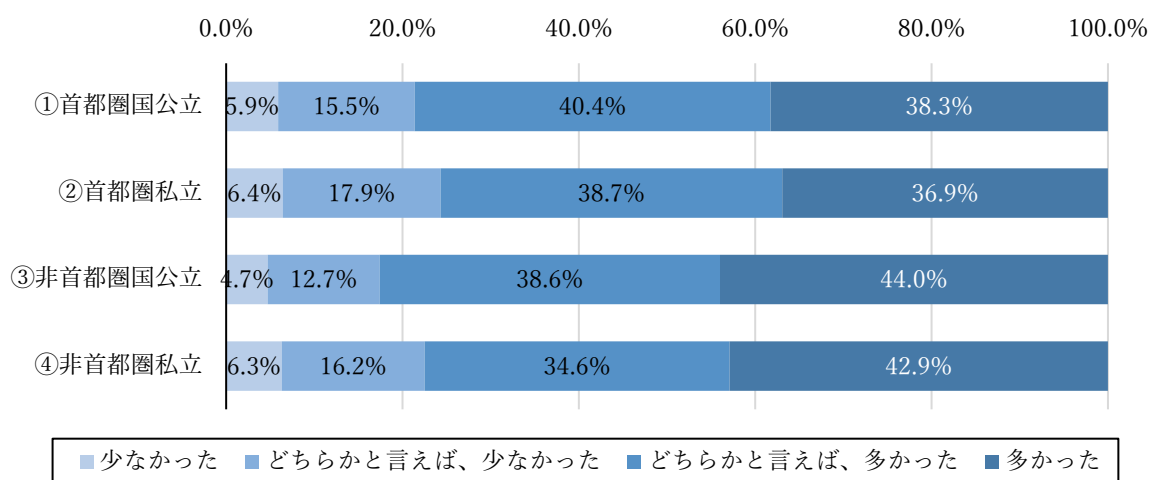


図 3－5 高校時経験__なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

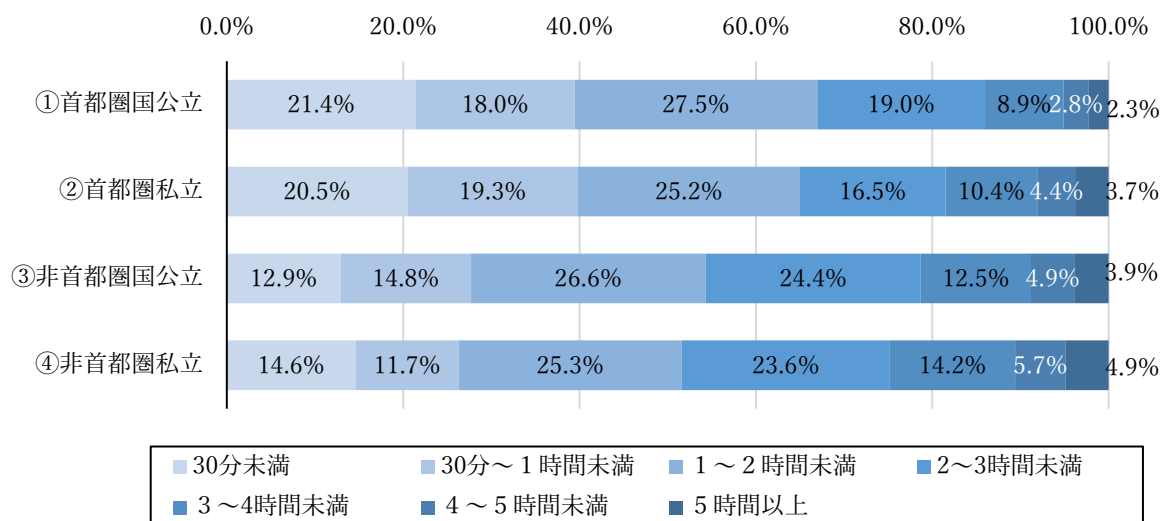


図 3－6 高校時経験__高校 2 年生の 2 学期の頃、学校の授業以外の学習時間－平日（ふだん）

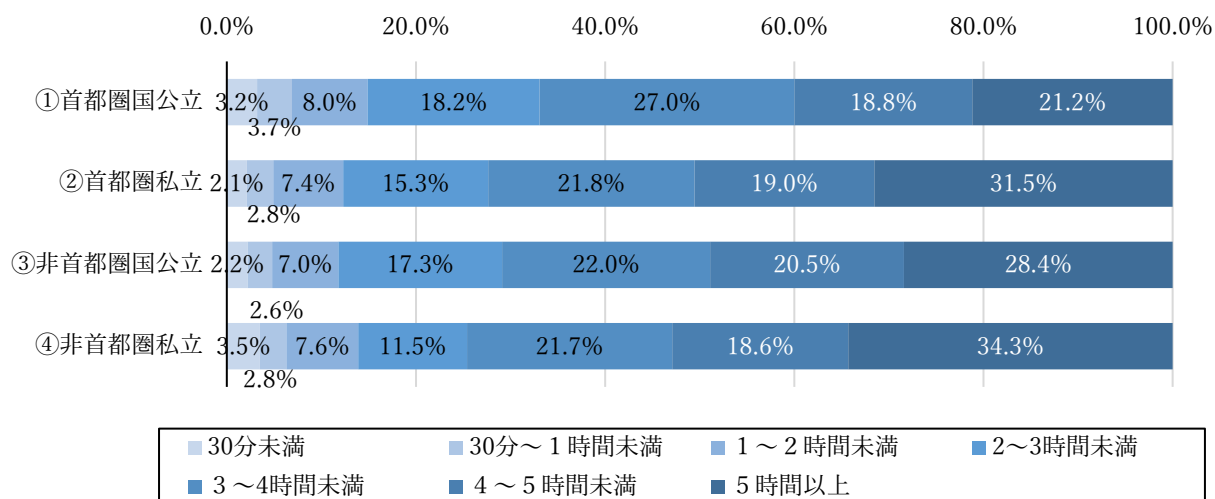


図 3－7 高校時経験__高校 2 年生の 2 学期の頃、学校の授業以外の学習時間－定期試験期間中

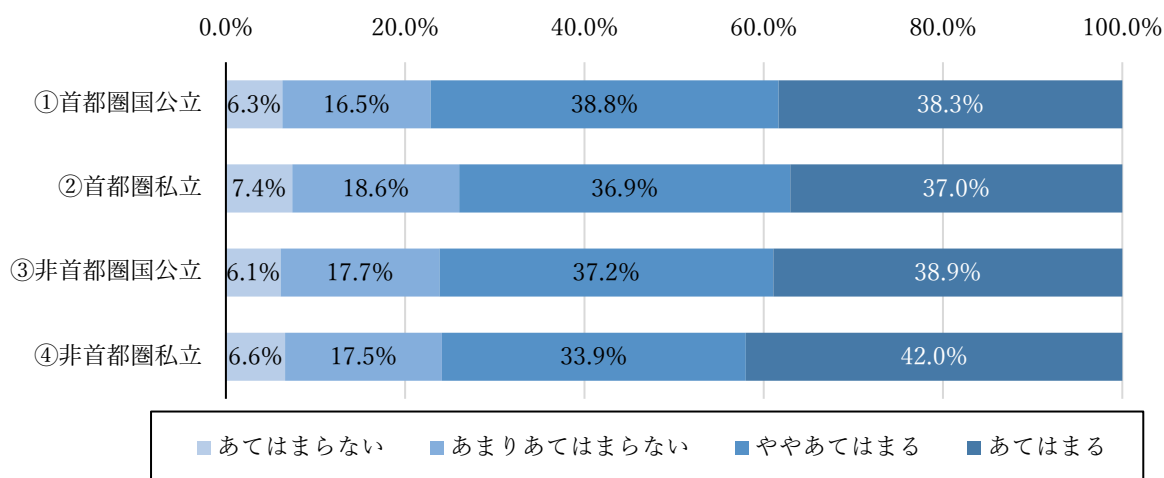


図 3－8 高校時経験__勉強の方法を学ぶ

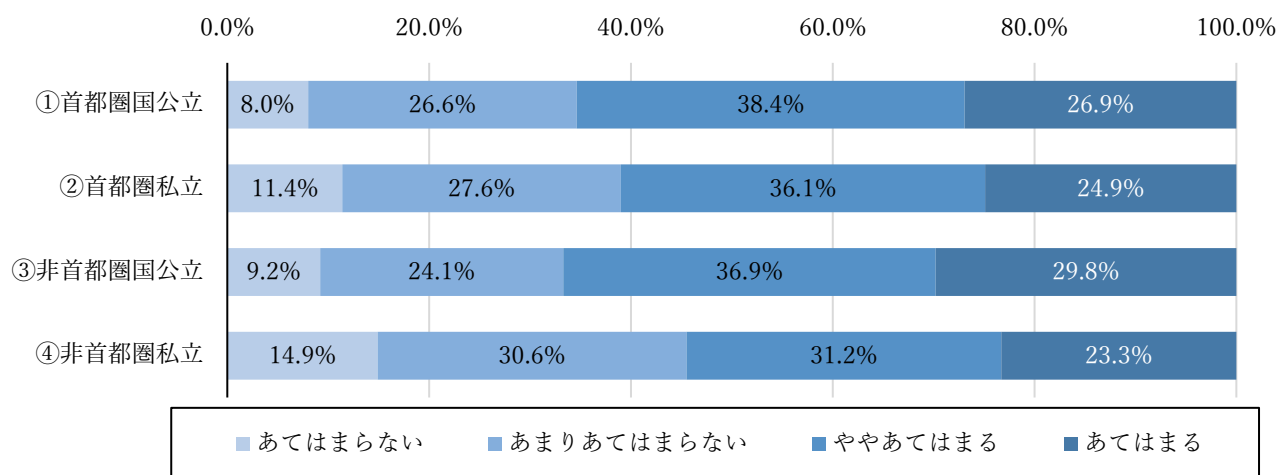


図 3-9 高校時経験__グループワークなどで授業に積極的に参加する

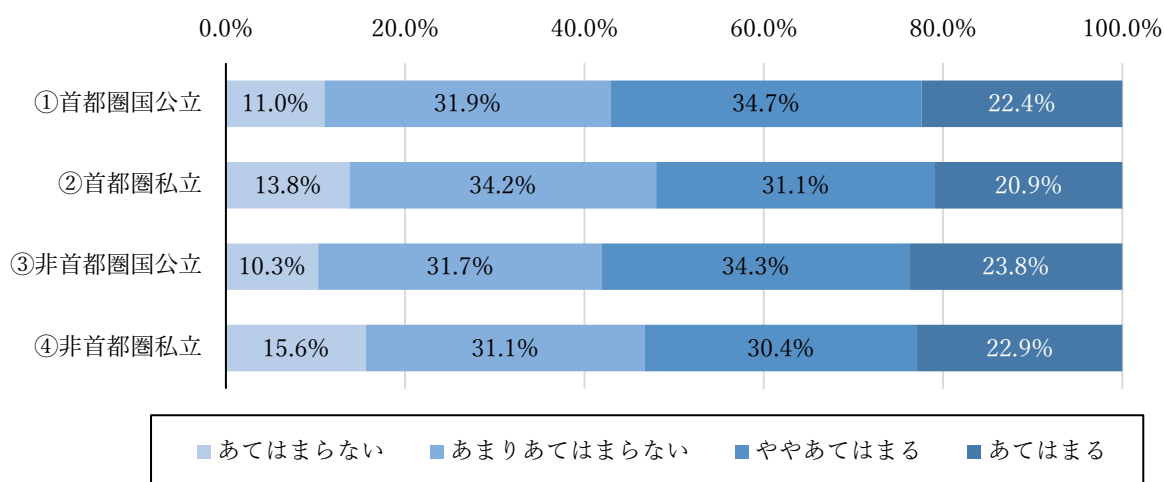


図 3-10 高校時経験__授業中に自分の意見や考えを述べる

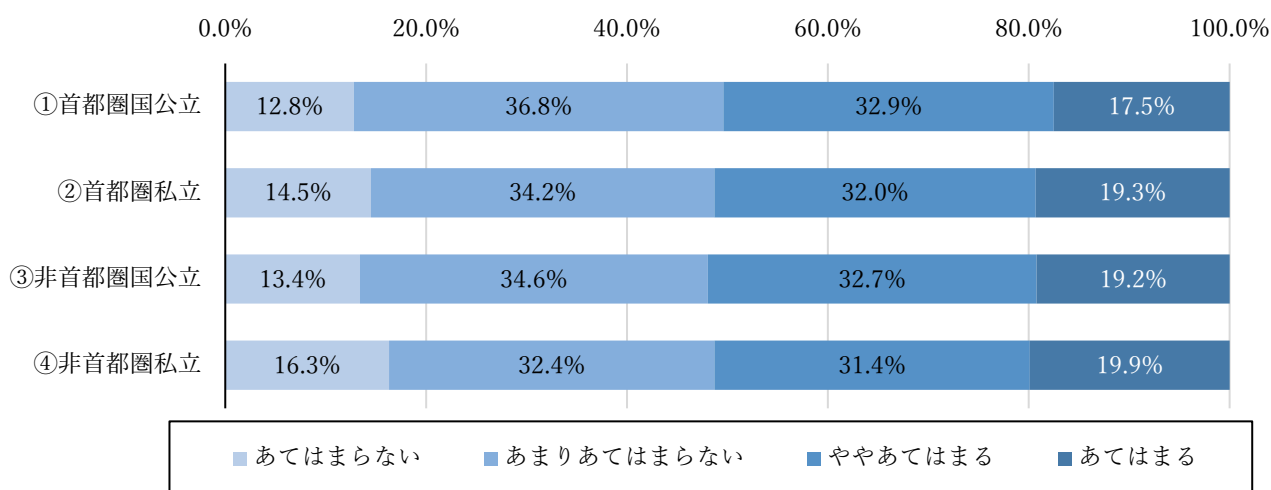


図 3-11 高校時経験__社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ

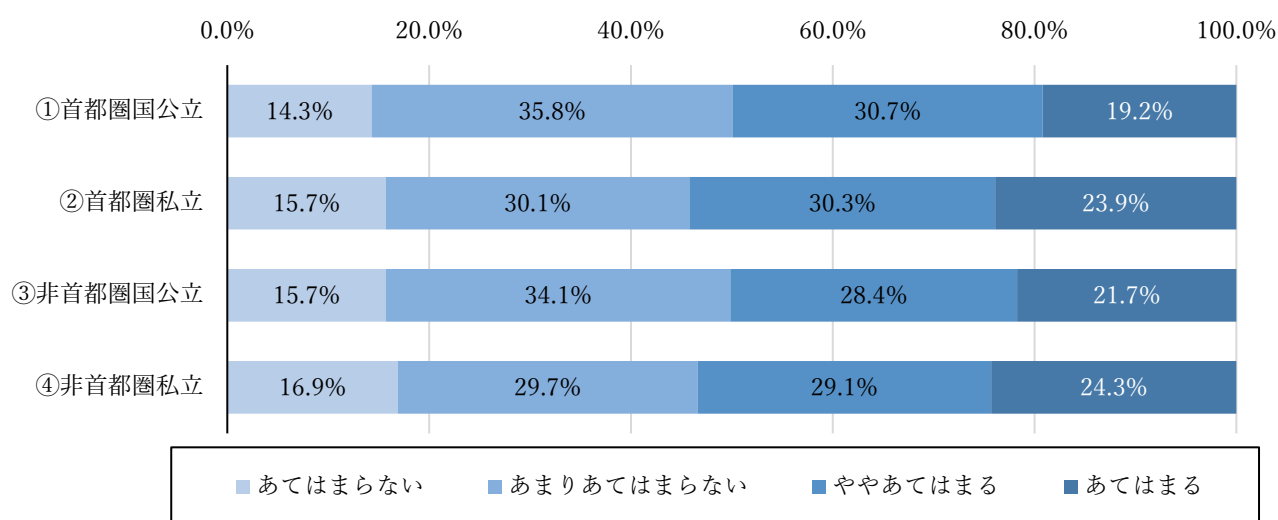


図 3-12 高校時経験__異文化について学ぶ

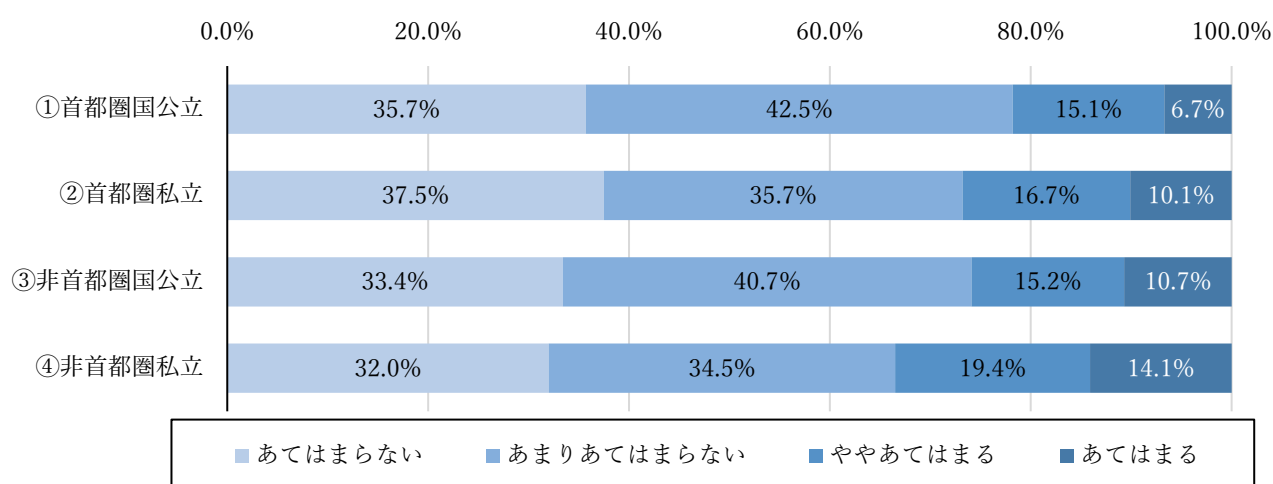


図 3-13 高校時経験__ボランティアについて学ぶ

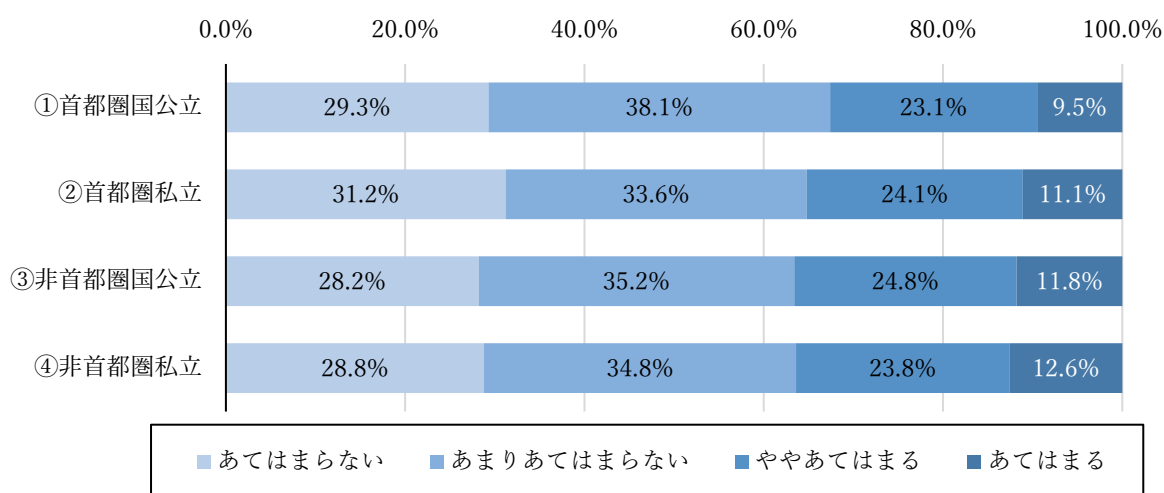


図 3-14 高校時経験__キャリア形成について学ぶ

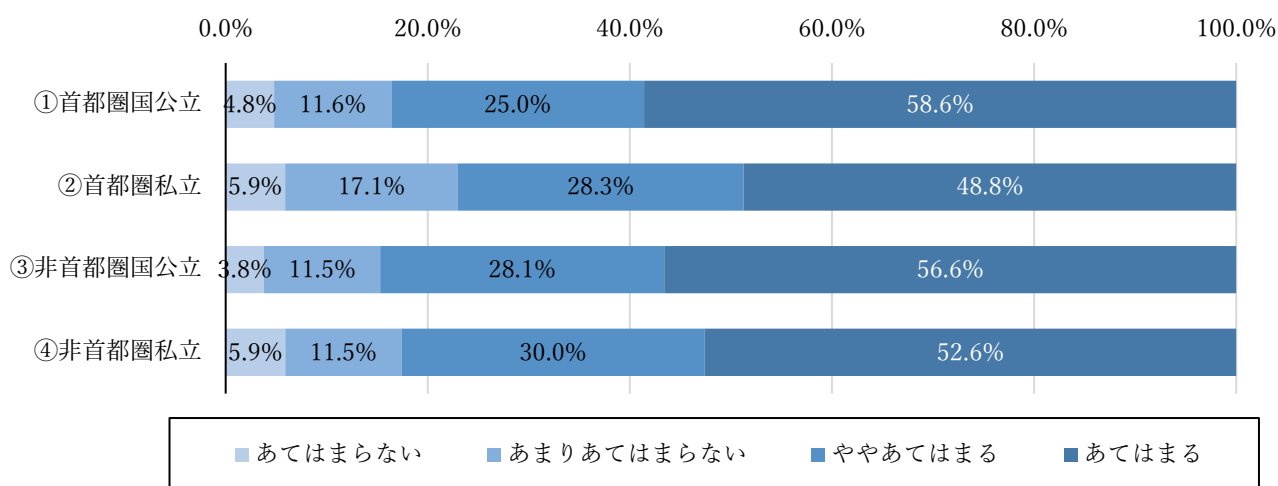


図 3-15 高校時経験__文系科目（国語・地歴・公民）についてしっかり学習した

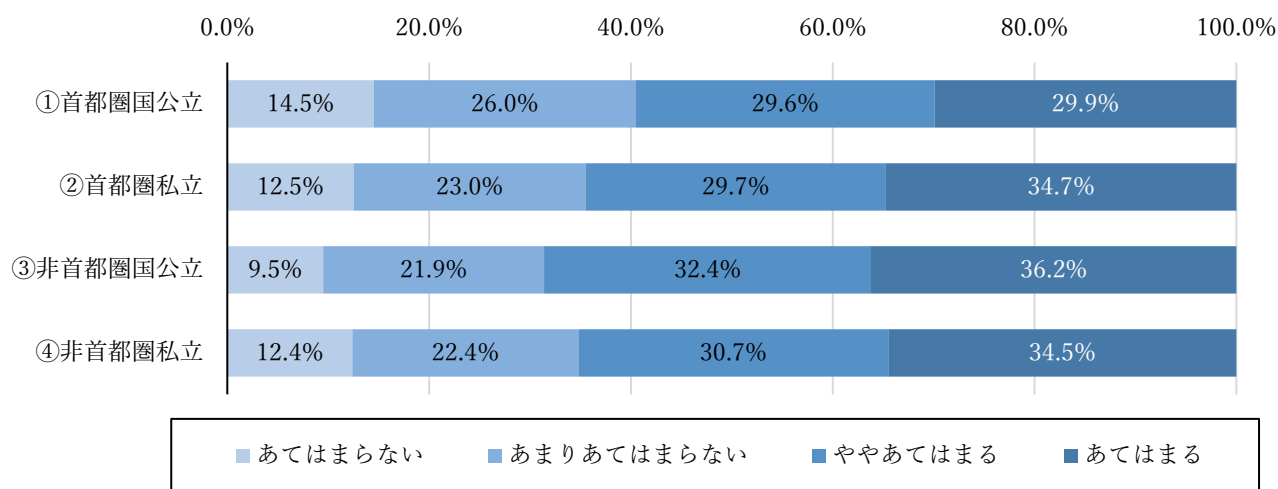


図 3-16 高校時経験__理系科目（数学・理科）についてしっかり学習した

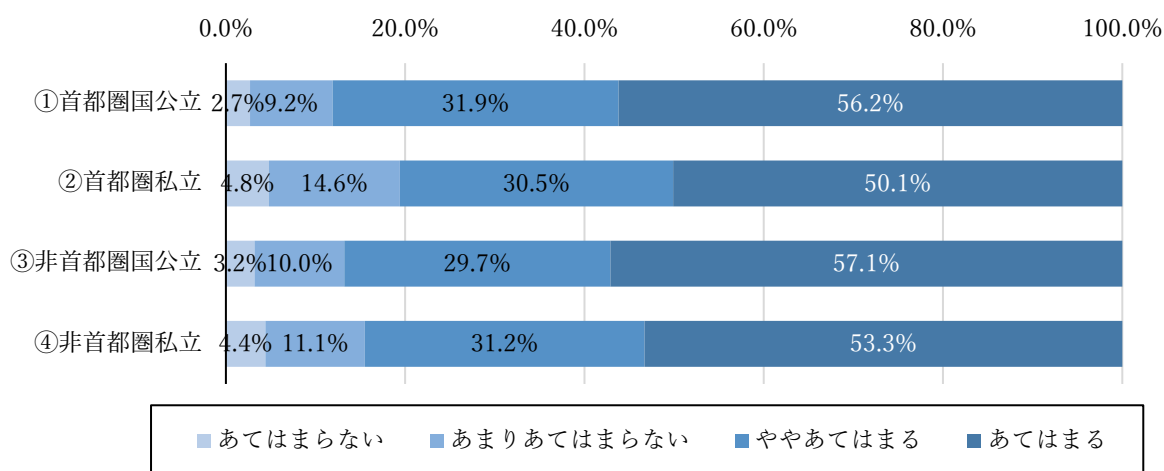


図 3-17 高校時経験__外国語科目（英語等）についてしっかり学習した

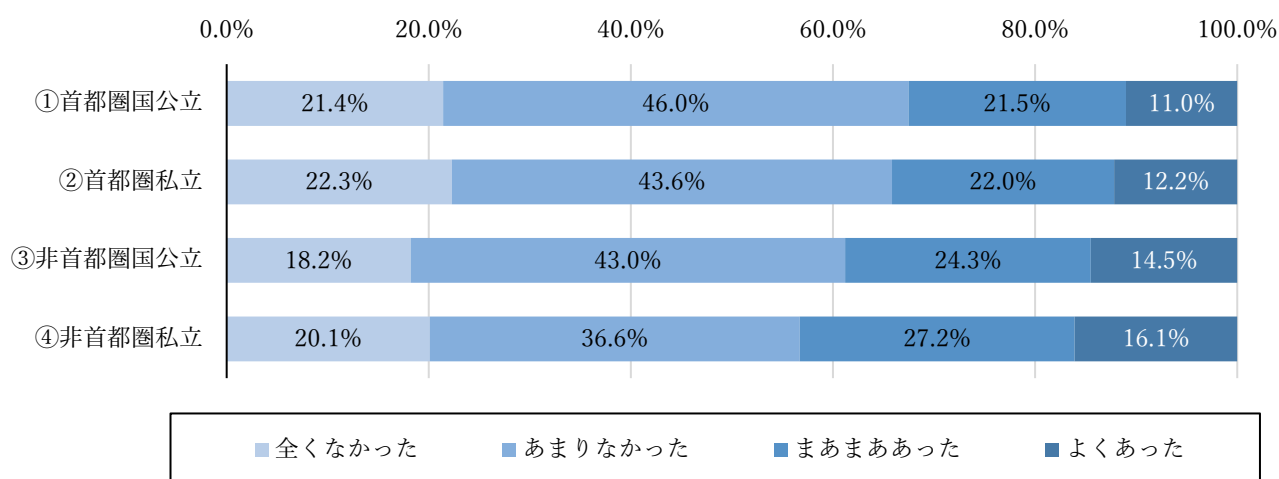


図 3-18 高校時経験__授業で積極的に質問した

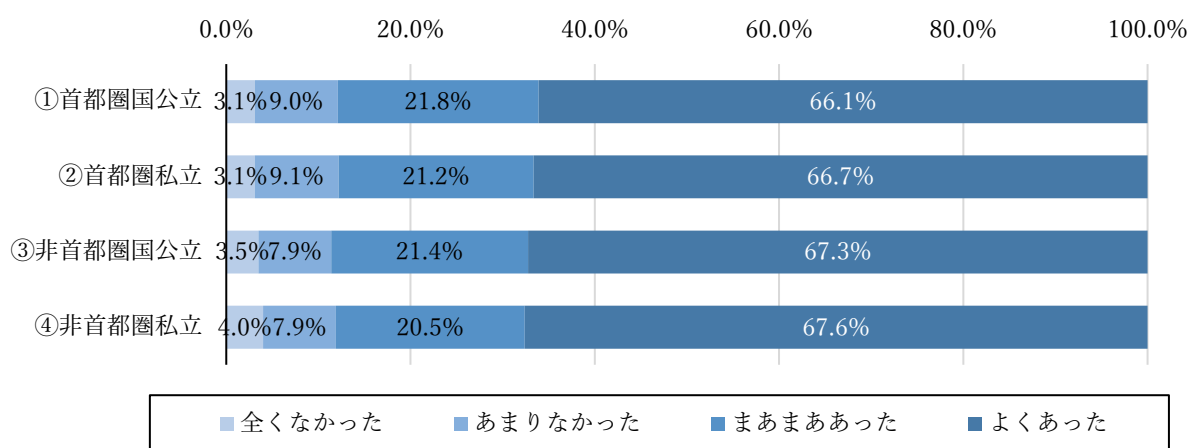


図 3-19 高校時経験__課題は締切までに提出した

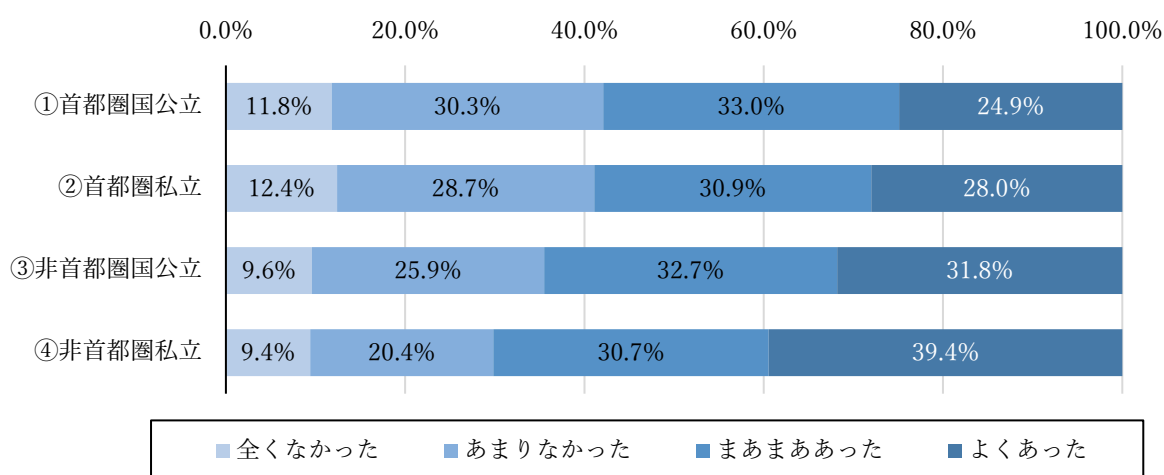


図 3-20 高校時経験__分からない点は先生に質問した

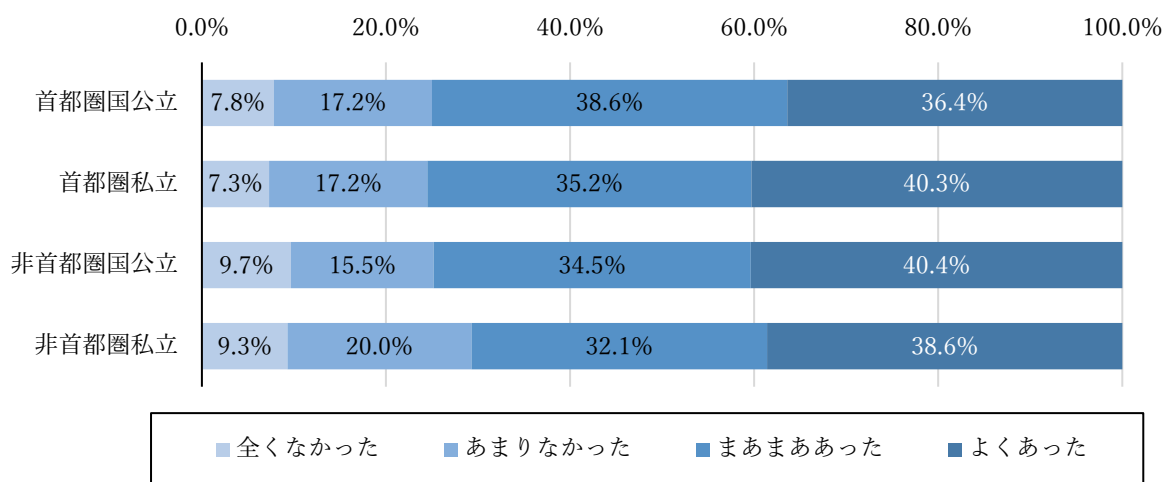


図 3-21 高校時経験__分からない点は友達に質問した

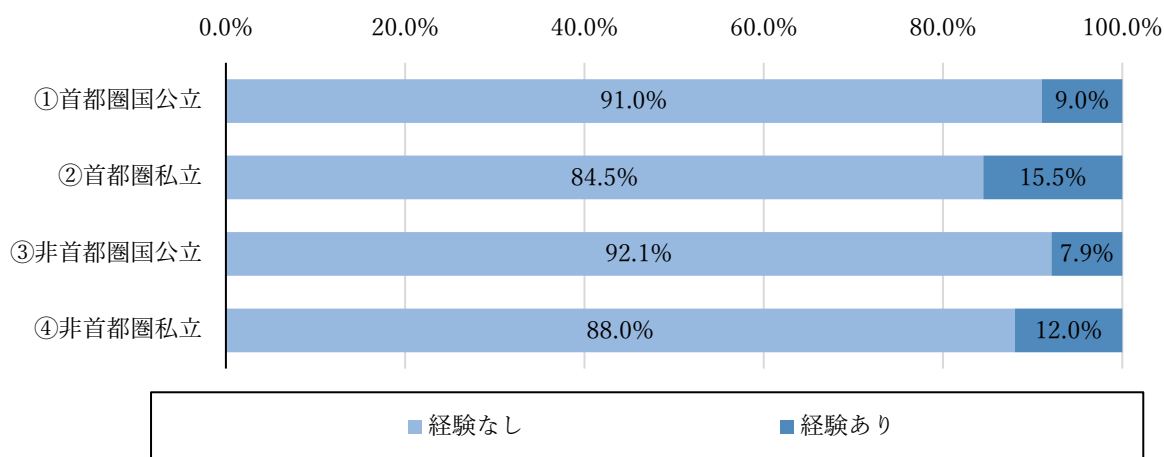


図 3-22 高校時経験__親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在

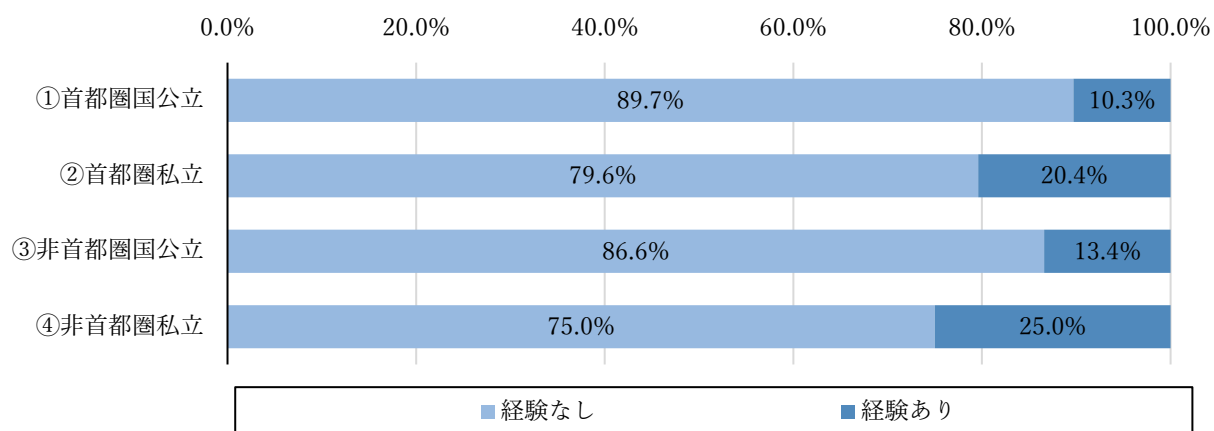


図 3-23 高校時経験__中高時代の留学

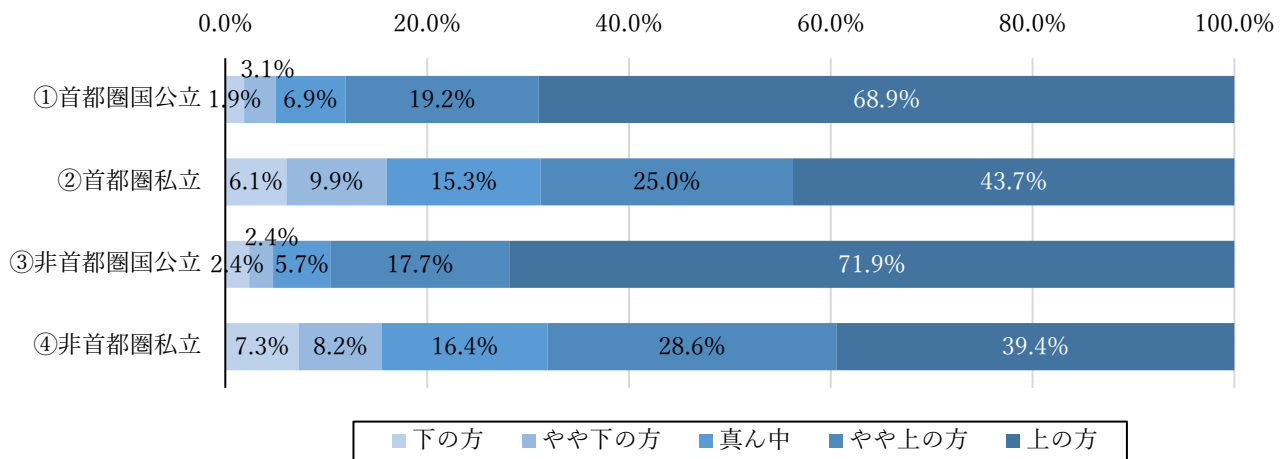


図 3 -24 高校時経験__中学 3 年の時

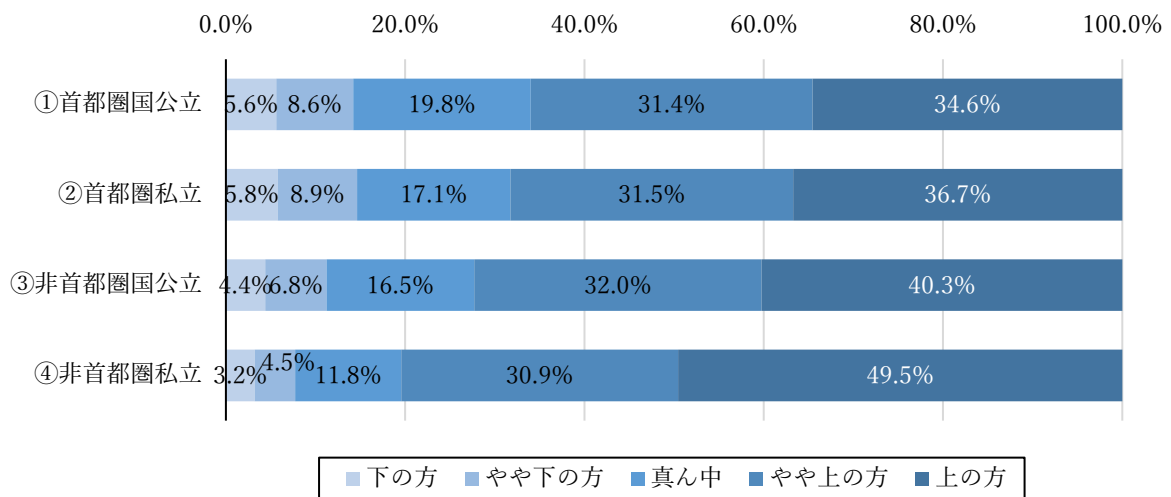


図 3 -25 高校時経験__高校 3 年の時

3-2. 進学理由とアドミッション・ポリシー

次に、高校タイプ間の早稲田大学の進学理由とアドミッション・ポリシーに関する項目の違いについて示していく。検討したのは、表3-3に示した①～⑭の項目であり、中分類として進学理由、アドミッション・ポリシー、志望度、入学時時点の力量・意識に分けた。入学時時点の力量・意識は、早稲田大学のアドミッション・ポリシーを質問項目に具体化したものとなっている（図参考）。高校タイプ間の比較をするために、前節と同様に平均値の差の検定を行った。表中の見方は前節と同様であり、以下、各高校タイプの特徴を記述する。

まず「1. 首都圏国公立」について注目したいのは、⑫⑬の大学及び学部の志望度である。特に学部についてはいずれのタイプよりも有意に低く、入学学部が不本意で進学した層が相対的に多い。②教わりたい教員がいた、の項目がいずれのタイプよりも低いのもこの点が影響している可能性はある。また、⑧利用可能な推薦・特別入試が他のタイプと比べて低いことから、推薦入試等の選抜の手段が構造的に限定されている可能性はある。また、入学時時点の力量・意識についてはあまりポジティブな結果は見られない。

「2. 首都圏私立」については、進学理由として⑤学校の先生や親など周りの勧めをあげる傾向にあり、この点は「4. 非首都圏私立」についても同様の傾向にある。また入学時時点の力量・意識という点では、⑭自分の考えを論理的に構成することができた、⑯口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現できた、といった項目が「1. 首都圏国公立」よりも高い点が特徴的である。

「3. 非首都圏国公立」については、「4. 非首都圏私立」とも共通することとして、「2. 首都圏私立」よりも④知名度・注目度の高さを進学理由にあげている。早稲田大学の認知度という点が非首都圏においても進学を目指す生徒にとって確かな理由となっているようだ。また、入学時時点の力量・意識という点では、⑰自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた、⑱同じ目標に向けて他者と協働することができた、⑳相手の立場や考え方に共感することができたの項目が「2. 首都圏私立」よりも高い。物事に取り組む姿勢や協働性が高いことが特徴的である。また、「4. 非首都圏私立」と同様に、㉑大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えていたの項目が首都圏の高校よりも高い。アドミッション・ポリシーでも掲げられている「社会に貢献する強い意志を支える高い勉学意欲」をより非首都圏出身者がもっている点は注目される。

「4. 非首都圏私立」の特徴としては、既に言及したものに加え、進学理由として㉒部・サークル活動の充実さや㉓伝統・校風といった点があげられる。非首都圏の特に私立高校において、早稲田大学の課外活動や文化といったものが伝達されているのだろう。㉑大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えていた、については上述した通り、首都圏高校出身者よりも高い傾向にある。

表 3-3 高校タイプ間の志望理由・アドミッション・ポリシーの差

	1.首都圏国公立	2.首都圏私立	3.非首都圏国公立	4.非首都圏私立
進学理由				
①自分の志望する専門分野があった	+(2)		+(2)	
②教わりたい教員がいた		+(1)	+(1, 2)	+(1)
③将来の進路・就職に有利				
④知名度・注目度の高さ			+(2)	+(2)
⑤学校の先生や親など周りの勧め		+(1, 3)		+(1, 3)
⑥部・サークル活動が充実している				+(1, 2)
⑦伝統・校風が好き				+(1, 2)
⑧利用可能な推薦・特別入試があった		+(1)	+(1)	+(1, 2, 3)
⑨希望した大学に入れなかった	+(2)			
アドミッションポリシー				
⑩アドミッションポリシーを確認した一大学	+(2)		+(1, 2)	+(1, 2)
⑪アドミッションポリシーを確認した一学部	+(2)		+(1, 2)	+(1, 2)
志望度				
⑫第一志望か否か一大学		+(1, 3)		
⑬第一志望か否か一学部		+(1)	+(1)	+(1)
入学時時点の力量・意識				
⑭自分の考えを論理的に構成することができた		+(1)		
⑮複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた				
⑯自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた		+(1)		
⑰自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた			+(2)	
⑱同じ目標に向けて他者と協働することができた			+(2)	
⑲他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた				
⑳相手の立場や考え方に共感することができた			+(2)	
㉑大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えていた			+(1, 2)	+(1, 2)

アドミッション・ポリシー

入学前に身につけることを求める能力

本学を志望する者には、入学前に以下の能力・素養を身につけてもらいたい。

初等・中等教育段階では

- ◆ 本学の教養教育および専門教育の基礎となる水準の知識・技能
- ◆ 本学での学修に必要な論理的思考力・判断力・表現力
- ◆ これらを身につけるための主体性・協働性

また、本学の理念に沿った

- ◆ 進取の精神に富んだ旺盛な知的好奇心とそれから導かれる独創性
- ◆ 自主独立の精神と他者への共感を育む豊かな感性
- ◆ 社会に貢献する強い意志を支える高い勉学意欲

これらを育んでおくことを期待したい。

図参考 早稲田大学のアドミッション・ポリシー

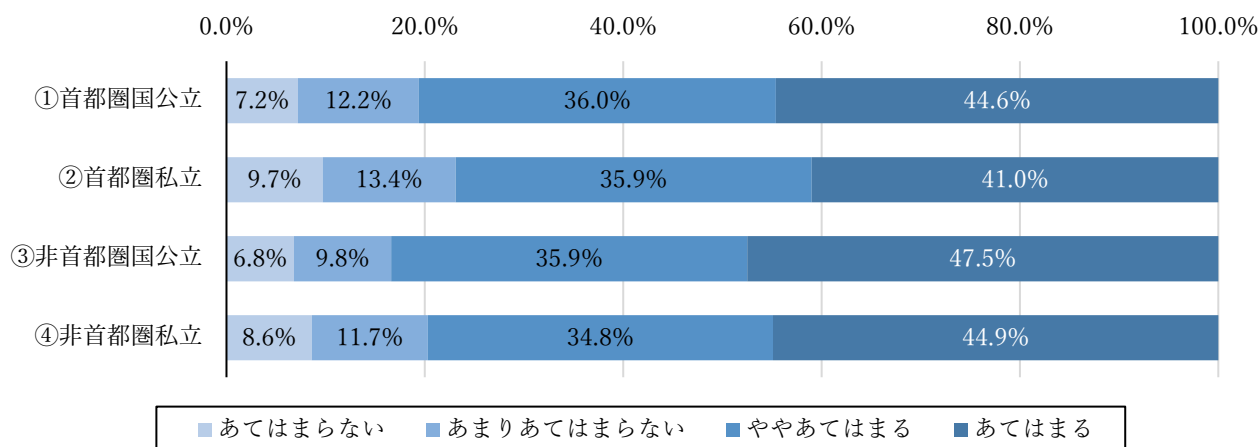


図 3-26 志望理由_自分の志望する専門分野があった

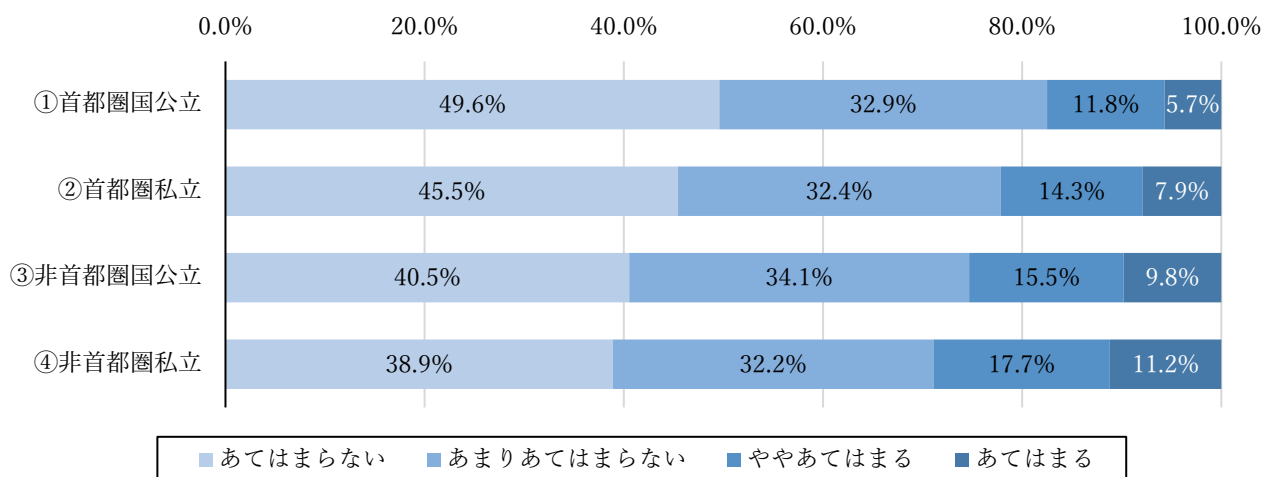


図 3-27 志望理由_教わりたい教員がいた

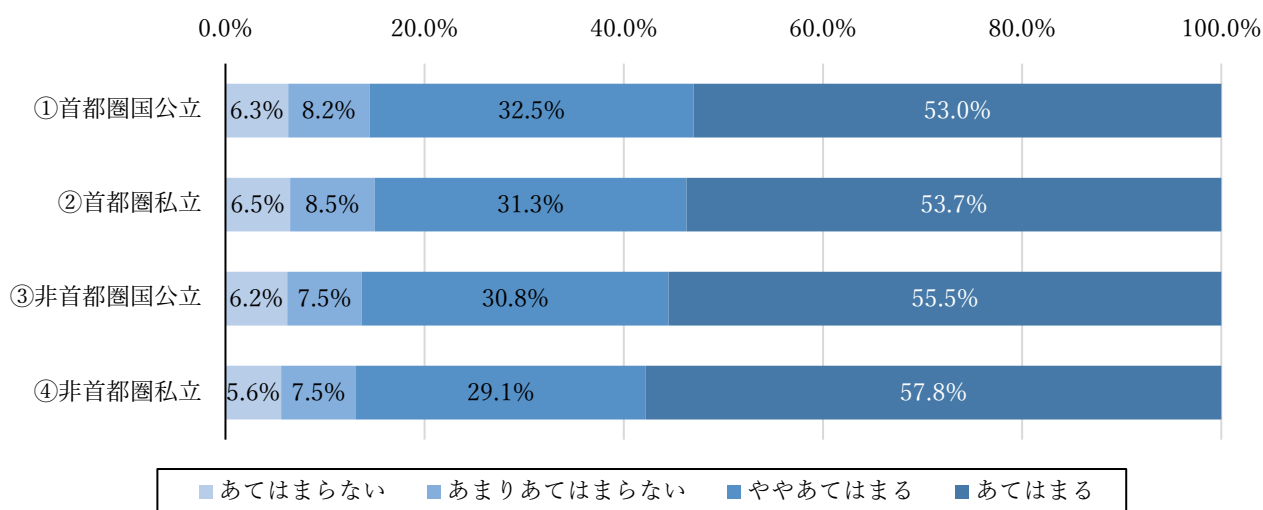


図 3-28 志望理由_将来の進路・就職に有利

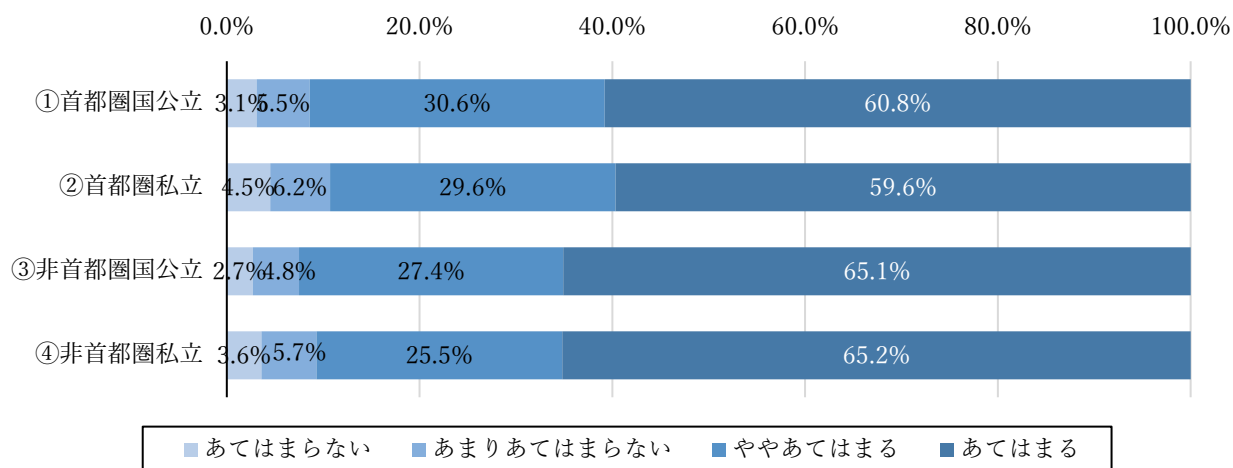


図 3-29 志望理由__知名度・注目度の高さ

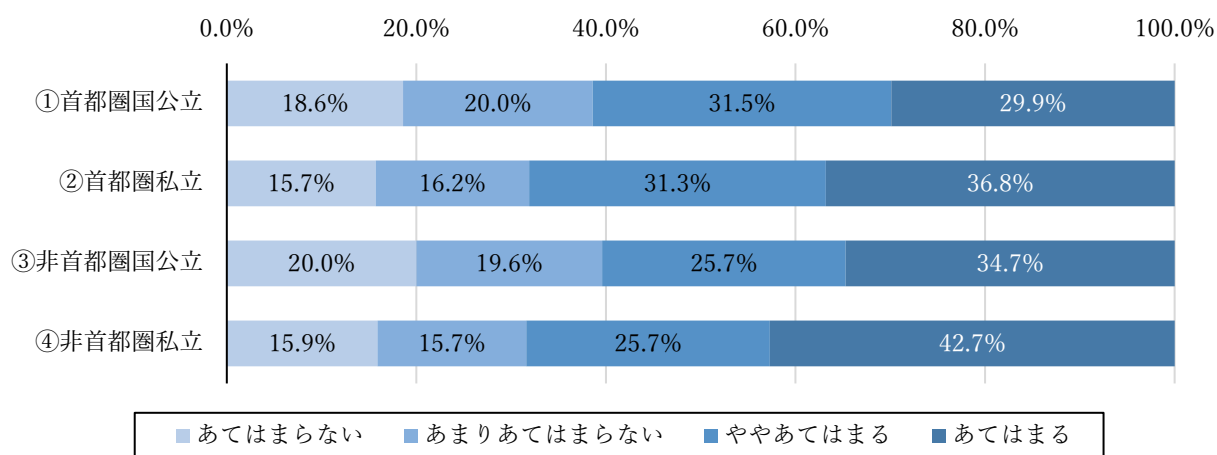


図 3-30 志望理由__学校の先生や親など周りの勧め

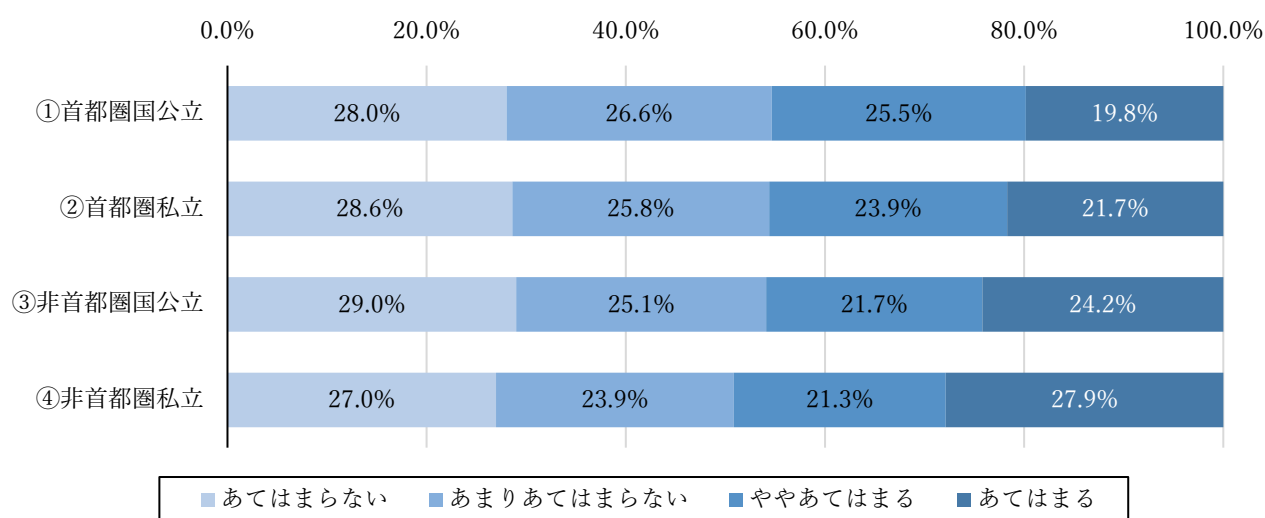


図 3-31 志望理由__部・サークル活動が充実している

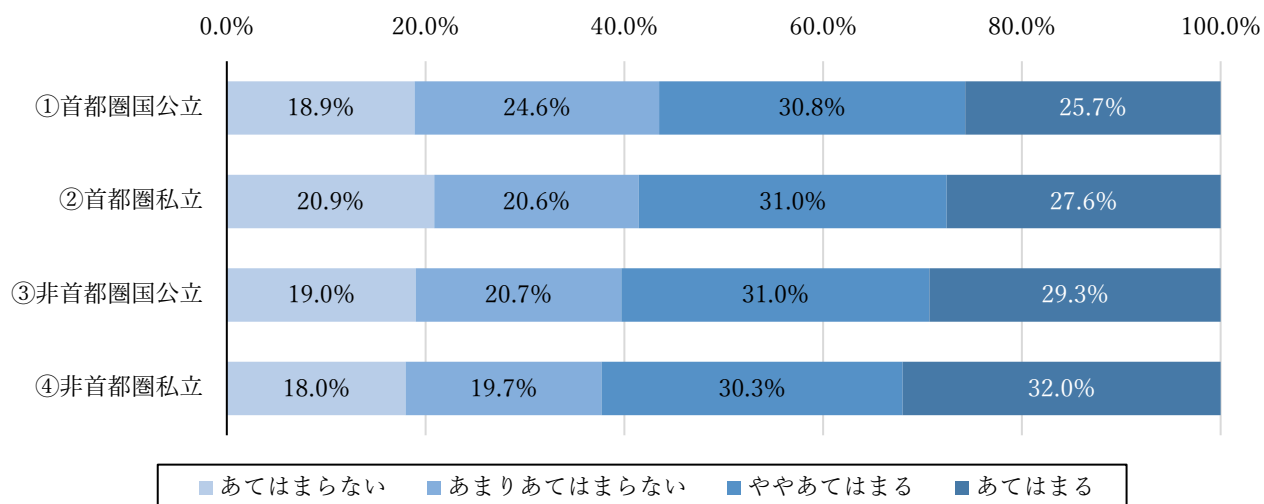


図 3-32 志望理由__伝統・校風が好き

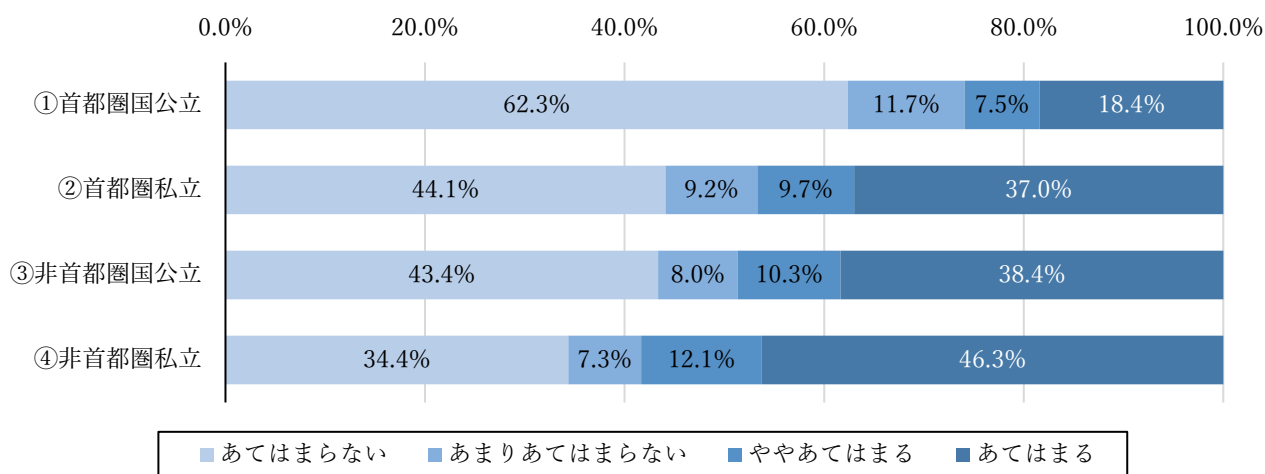


図 3-33 志望理由__利用可能な推薦・特別入試があった

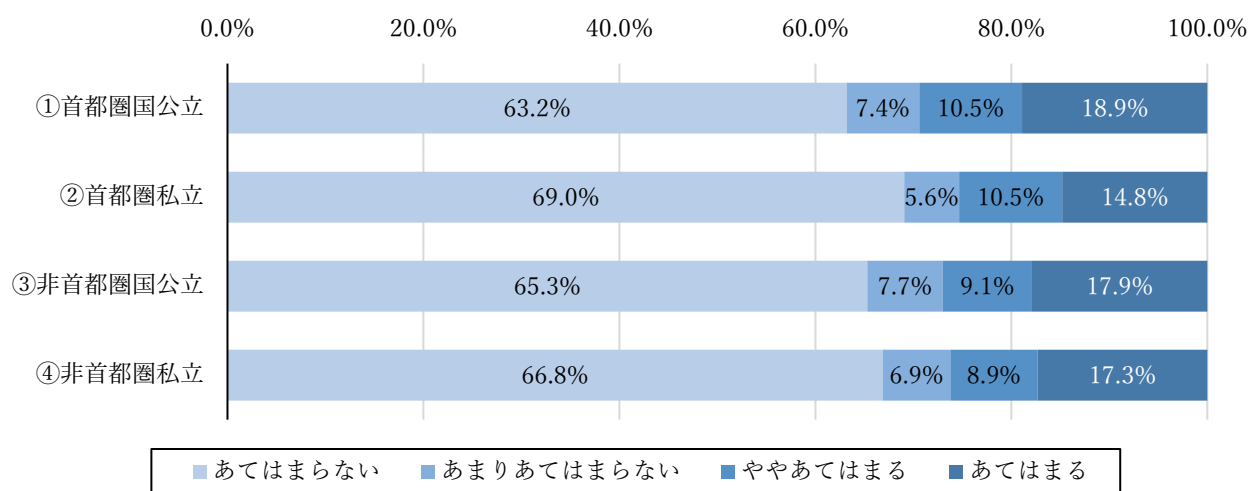


図 3-34 志望理由__希望した大学に入れなかった

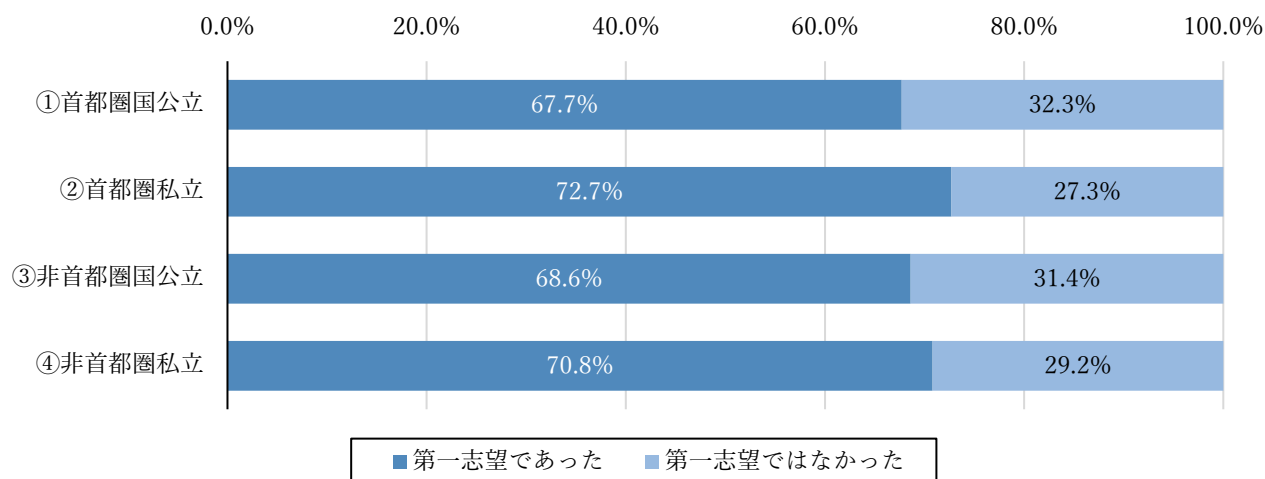


図 3-35 第一志望か否か__大学

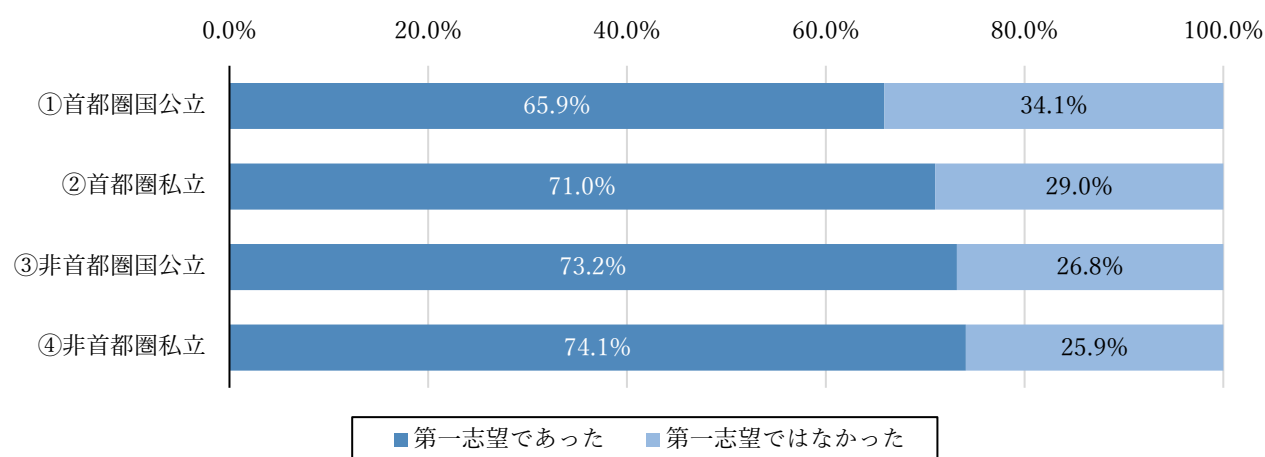


図 3-36 第一志望か否か__学部

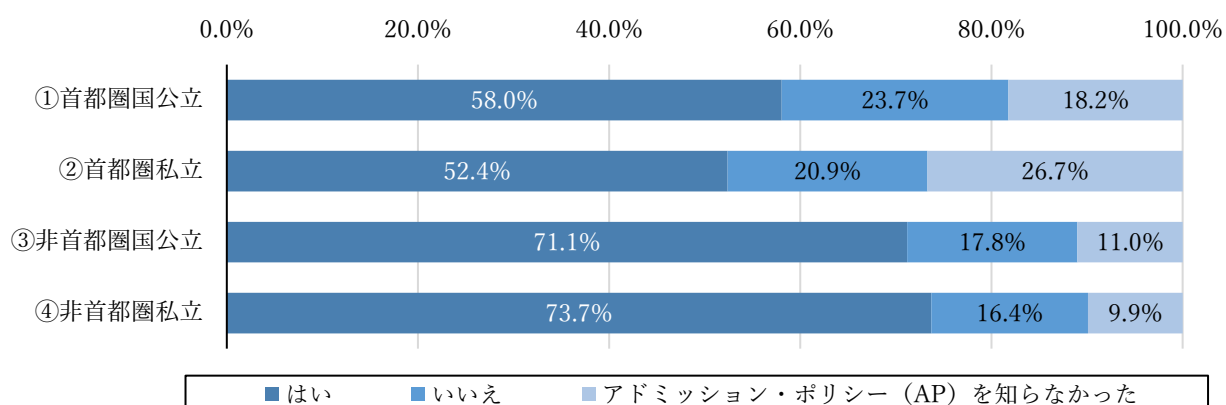


図 3-37 APを確認したか—早稲田大学

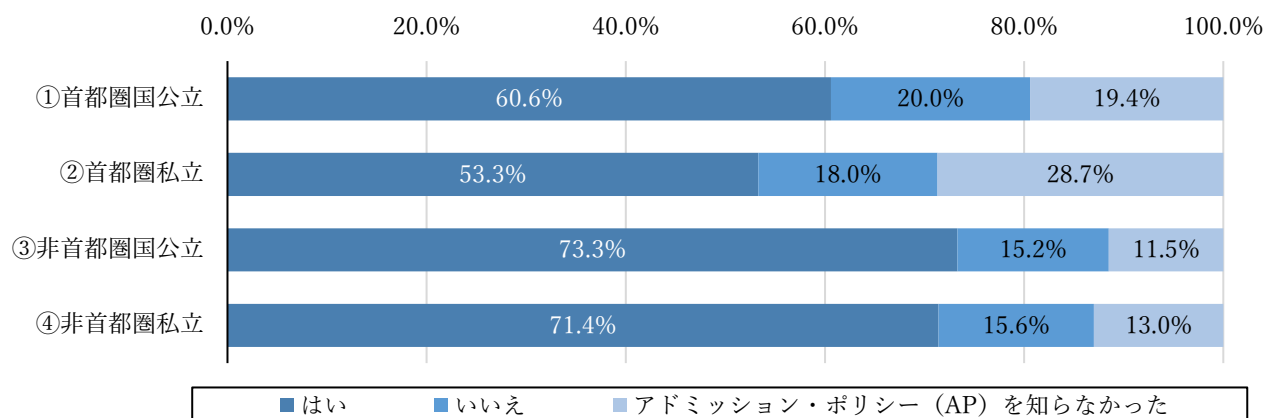


図 3-38 AP を確認したかー学部

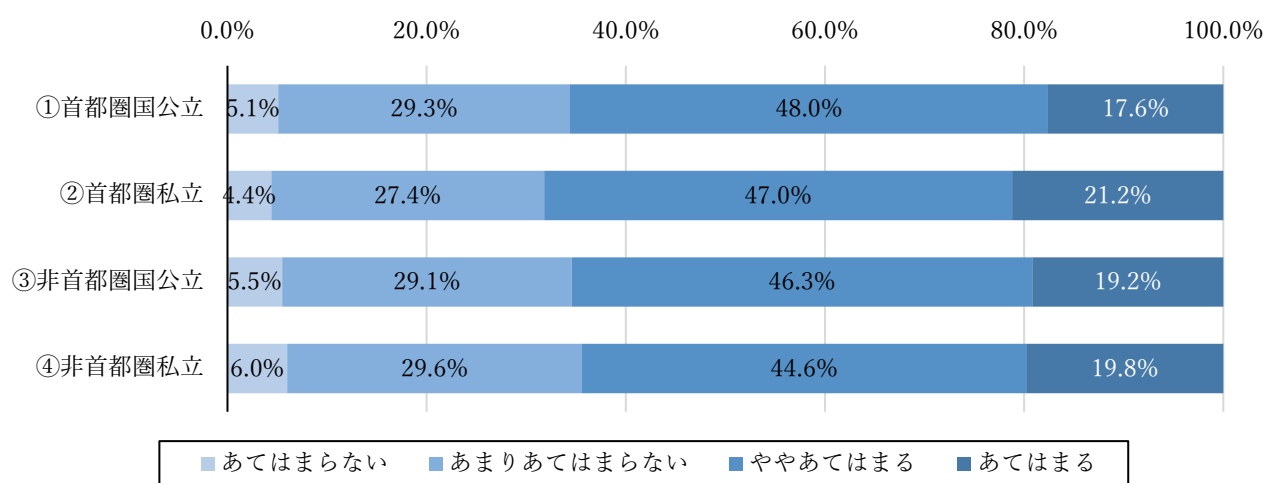


図 3-39 入学時時点の力量・意識__自分の考えを論理的に構成することができた

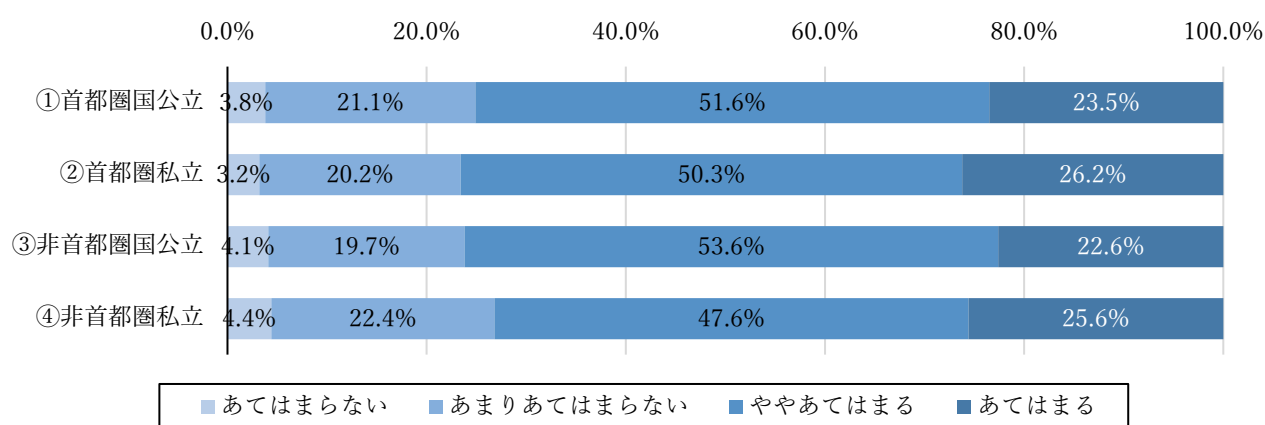


図 3-40 入学時時点の力量・意識__複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた

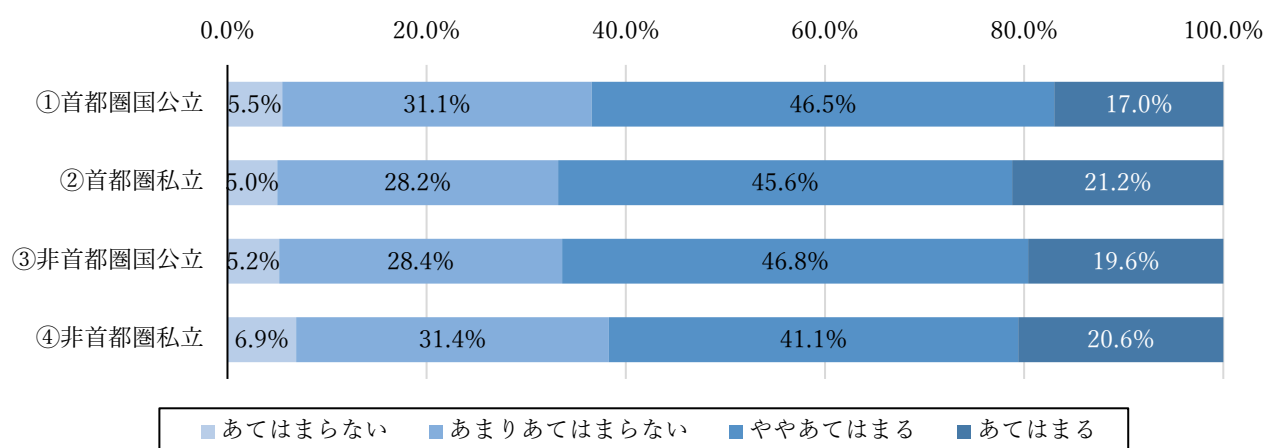


図 3-41 入学時時点の力量・意識__自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた

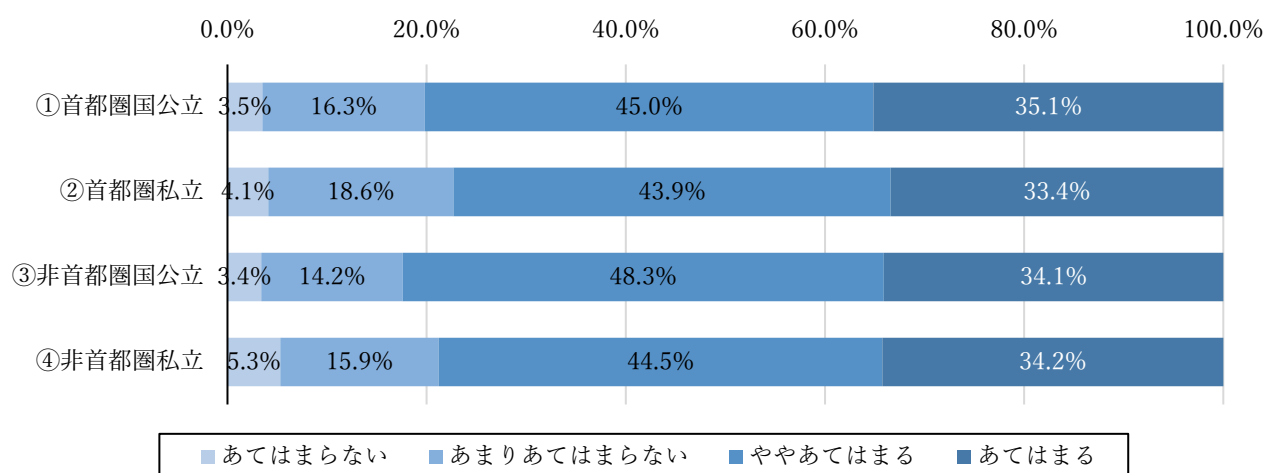


図 3-42 入学時時点の力量・意識__自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた

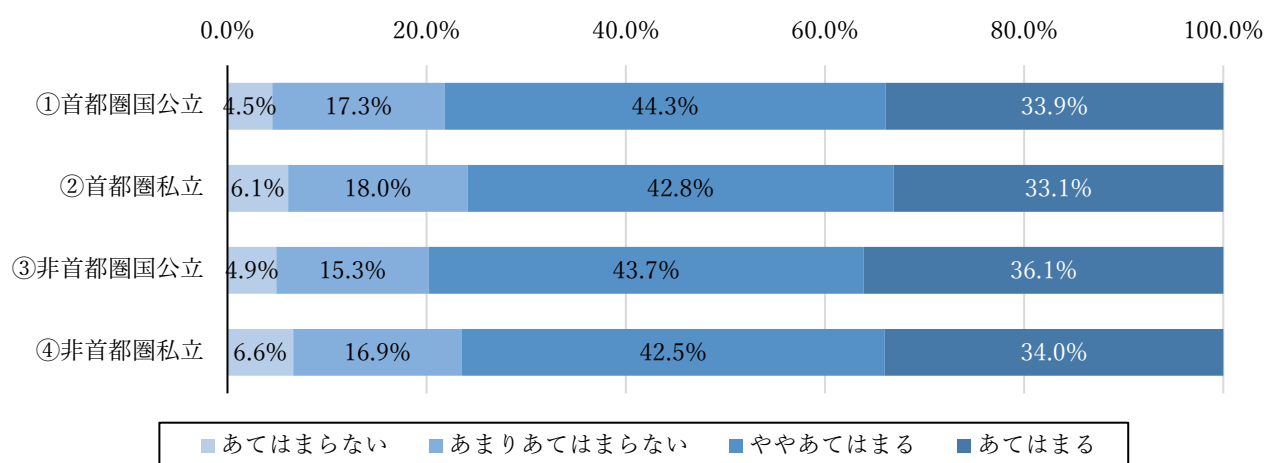


図 3-43 入学時時点の力量・意識__同じ目標に向けて他者と協働することができた

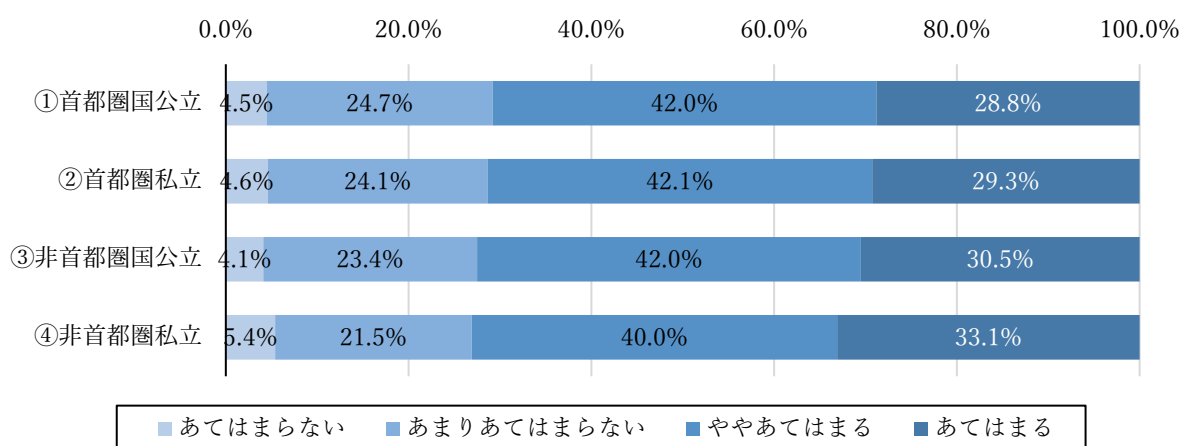


図 3-44 入学時時点の力量・意識__他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた

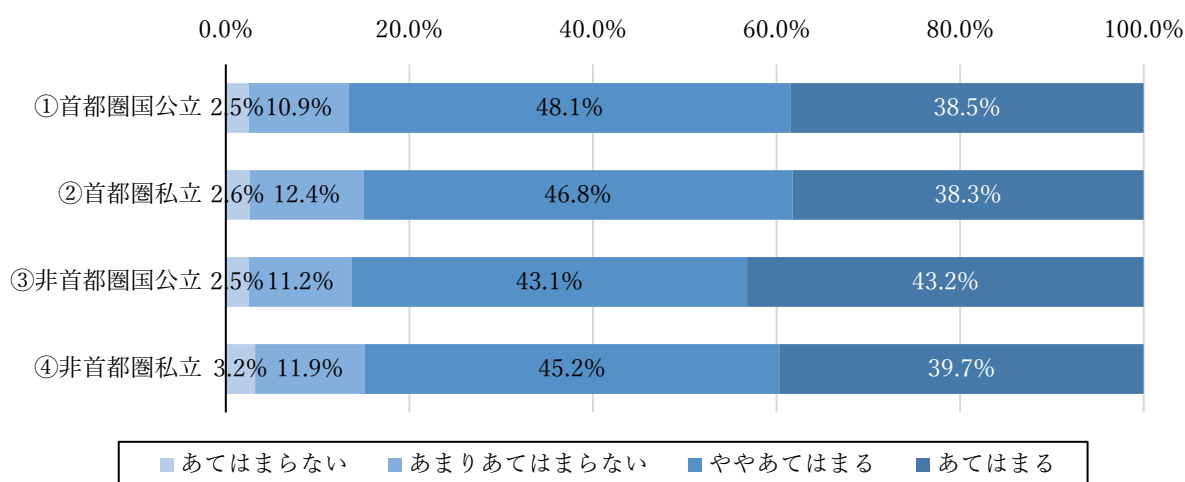


図 3-45 入学時時点の力量・意識__相手の立場や考え方に共感することができた

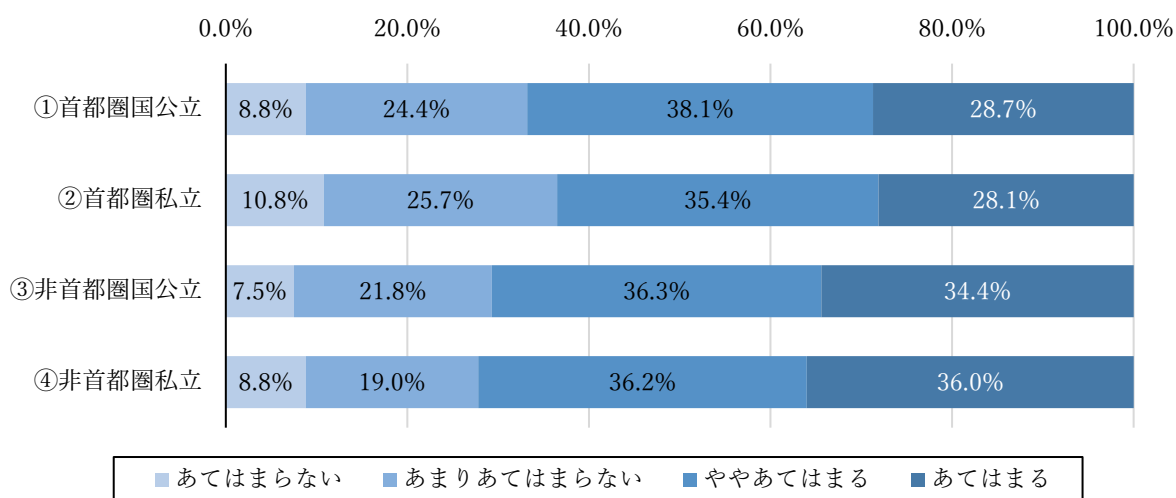


図 3-46 入学時時点の力量・意識__大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えていた

3-3. 在学時の学び

本節では、高校タイプ間の在学時の学びに関する項目の違いについて示していく。検討したのは、表3-4に示した①～⑦の項目であり、中分類として在学時の学習に対する構え、在学時の意欲的な取組、在学時の教育経験、在学時の学修行動に分けた。高校タイプ間の比較をするために、これまでと同様に平均値の差の検定を行った。表中の見方は前節と同様であり、以下、各高校タイプの特徴を記述する。

「1. 首都圏国公立」については、学習に関するポジティブな結果は得られず、他タイプと比較して唯一「⑧アルバイト／定職」に意欲的に取り組んでいる。当人たちにとっては、地元であり、かつ「2. 首都圏私立」と比べても平均値が高いゆえに、経済的な側面も理由にあると考えられる。

「2. 首都圏私立」についても、他タイプと比較してあまり学習に関するポジティブな結果は得られない。唯一、②分からない点は友達に質問した、の項目が「3. 非首都圏国公立」よりも高い。この点は、既にみた高校時の学習経験でも同様であり、この層は友人の繋がりが大学でも活かされている点に特徴がある。それと合さるように、在学時の意欲的な取組として、⑥部活動／サークル活動、⑩趣味／娯楽／交友が「1. 首都圏国公立」あるいは「3. 非首都圏国公立」よりも高く、学生生活を謳歌している学生像が捉えられよう。また、⑬異文化について学ぶ経験がいずれのタイプよりも小さい。高校時には、むしろ比較的高い項目としてあげられたものの、在学時の学びという点では低くなっている。

「3. 非首都圏国公立」については「4. 非首都圏私立」と重複している項目も多く、地方出身者は総じて学習に対する構え（①～③）、在学時の教育経験（⑪～⑬）が首都圏出身者よりも高い傾向にある。特に、⑤自身の専門分野以外の勉強にも首都圏出身者と比較して意欲的であり、②授業で積極的に質問するような学修行動も「2. 首都圏私立」と比べ高く、②課題提出もいずれのタイプよりも締切までに出すような特徴がある。

「4. 非首都圏私立」については「3. 非首都圏国公立」と重複する点があるので、その他に言及すると、「⑦資格試験のための勉強（塾や予備校含む）」が「1. 首都圏国公立」よりも高い。先程言及したように、⑧アルバイト／定職に相対的に意欲的ではない、あるいは必要がないのでやっていない点を合せて考えると、資格試験のために塾や予備校に通える経済的・時間的ゆとりがある層なのかもしれない。とはいえ、先程言及したように、もしゆとりが他のタイプに比べてあるにしても、平均的には首都圏出身者と比べ、学習に対する構えもより前向きで、在学時も⑭ボランティアについて学ぶ、⑯キャリア形成について学ぶ経験をよりしている。また、学修行動の③分からない点は教員に質問したは「2. 首都圏私立」よりも高い。この点は、高校時の教育経験でも他のタイプと比べ高かったことから、教員への質問行動がより習慣となっている可能性もある。

表 3－4 高校タイプ間の在学時の学びの差

	1.首都圏国公立	2.首都圏私立	3.非首都圏国公立	4.非首都圏私立
在学時の学習に対する構え				
①少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ授業に出席するよう努力している			+(1, 2)	+(1)
②大学の授業で、自分が好きではないものにも全力で取り組んでいる			+(1, 2)	+(1, 2)
③なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかり勉強をつづけている			+(1, 2)	+(1, 2)
在学時の意欲的な取組				
④自身の専門分野の勉強				
⑤自身の専門分野以外の勉強（グローバルエデュケーションセンターや所属学部の副専攻）			+(1, 2)	+(2)
⑥部活動／サークル活動		+(1)		
⑦資格試験のための勉強（塾や予備校含む）				+(1)
⑧アルバイト／定職	+(2, 3, 4)	+(4)	+(4)	
⑨就職に関わる活動				
⑩趣味／娯楽／交友		+(3)		
在学時の教育経験				
⑪大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ			+(2)	+(2)
⑫社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ			+(1, 2)	
⑬異文化について学ぶ	+(2)		+(1, 2)	+(2)
⑭ボランティアについて学ぶ			+(1, 2)	+(1, 2)
⑮将来に役立つ実践的な知識や技能を学ぶ（実験、実習、実技など）			+(1)	+(1)
⑯キャリア形成について学ぶ			+(1, 2)	+(1, 2)
⑰学術や研究の意義や役割について考える			+(2)	
⑱問題や課題について改善策や解決策を議論する				
⑲授業を通じて問題や課題を考えたり、見出したりする				
在学時の学修行動				
⑳グループワークなどで授業に積極的に参加する				
㉑授業で積極的に質問した			+(2)	
㉒課題は締切までに提出した			+(1, 2, 4)	
㉓分からない点は教員に質問した				+(2)
㉔分からない点は友達に質問した		+(3)		
㉕資料を作成し、発表した				
㉖理解できない点について、資料や動画を見返した				
㉗理由なく授業を欠席した				

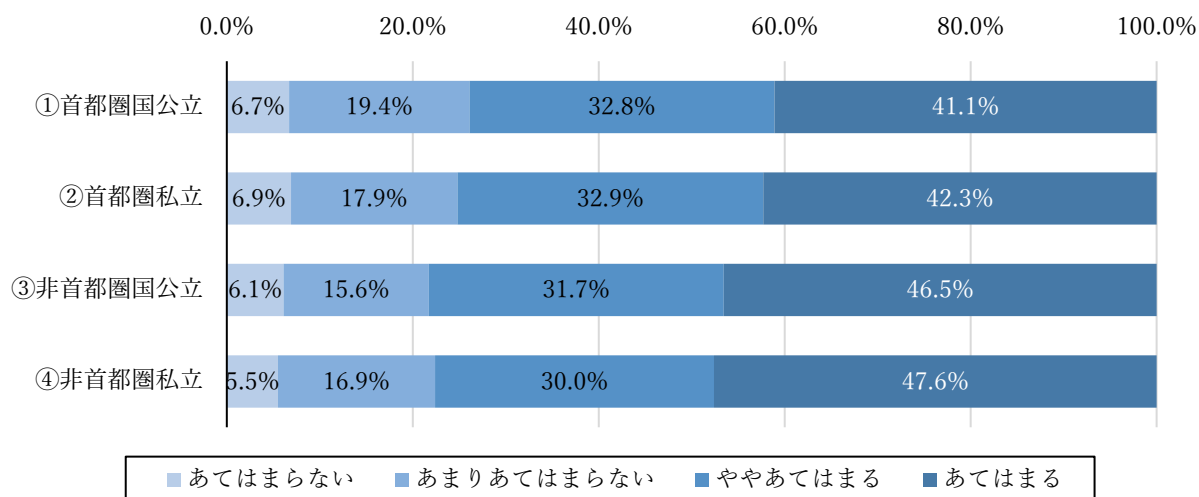


図 3-47 在学時の学び__少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ授業に出席するよう努力している

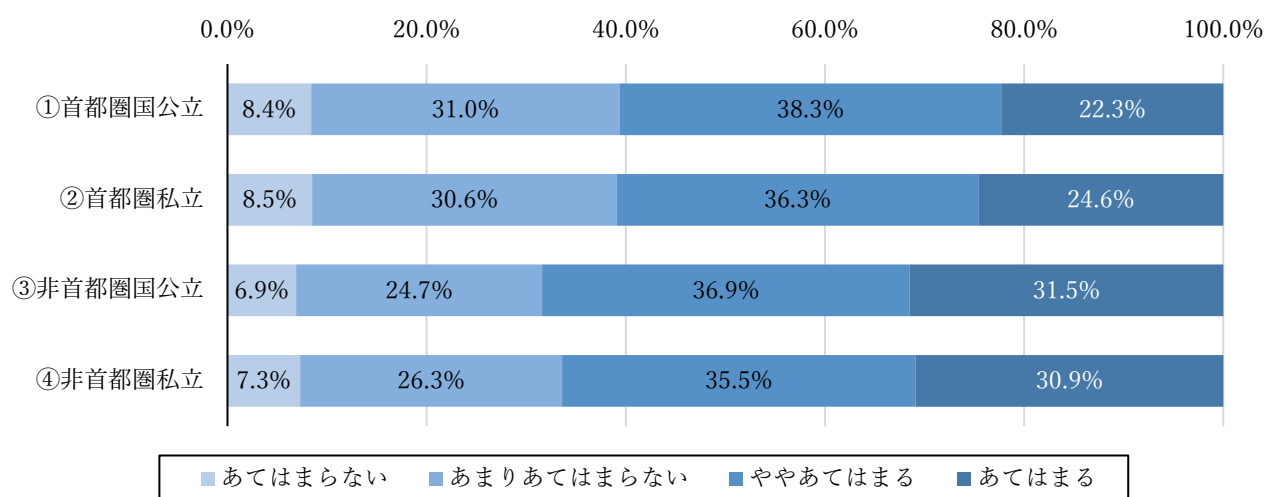


図 3-48 在学時の学び__大学の授業で、自分が好きではないものにも全力で取り組んでいる

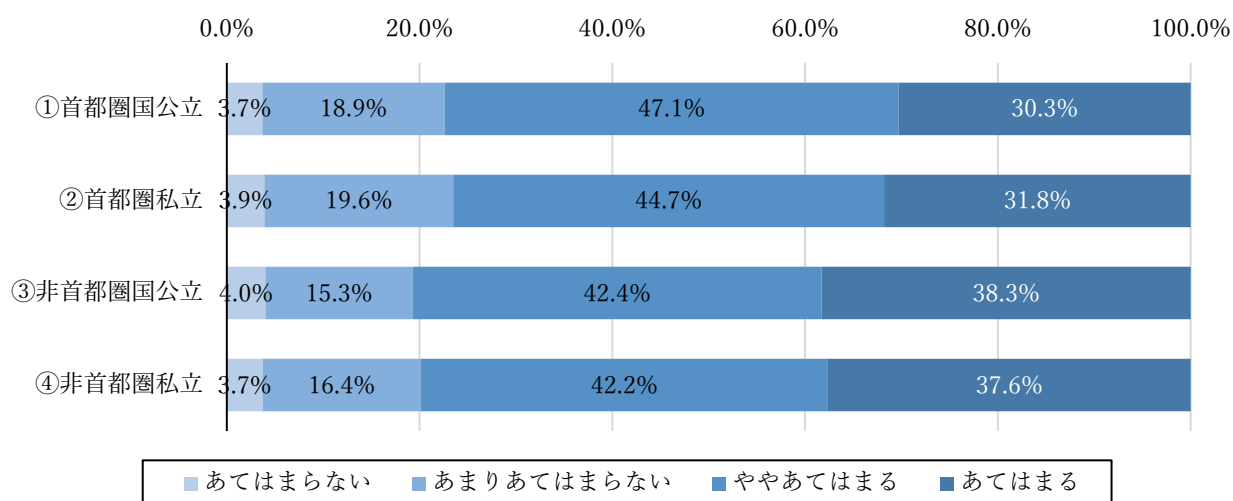


図 3-49 在学時の学び__なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかり勉強をつづけている

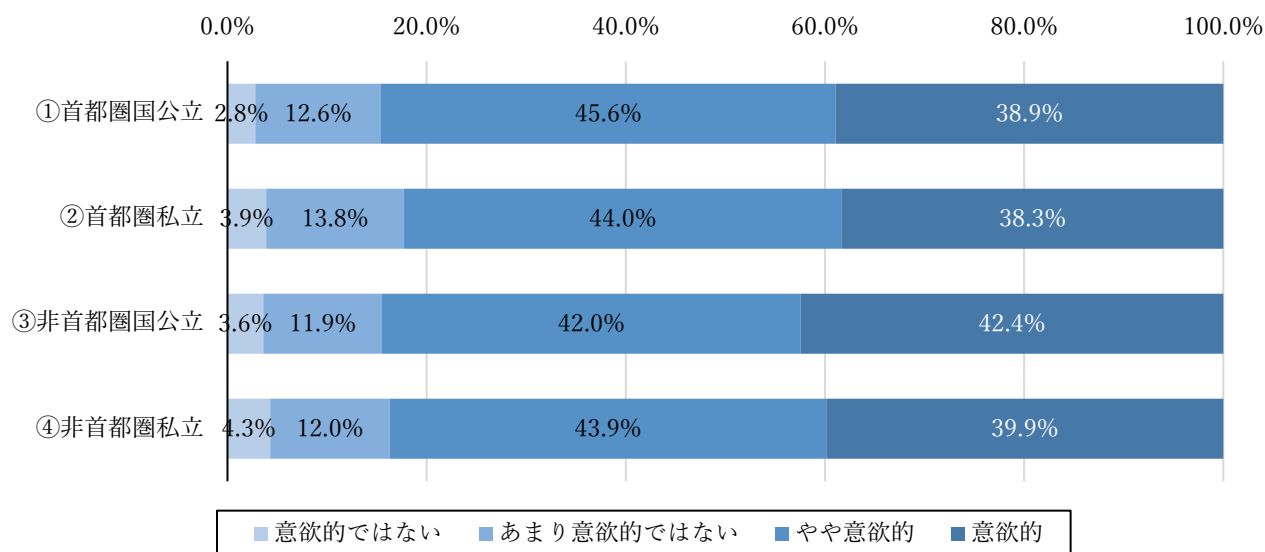


図 3-50 在学時の学び__自身の専門分野の勉強

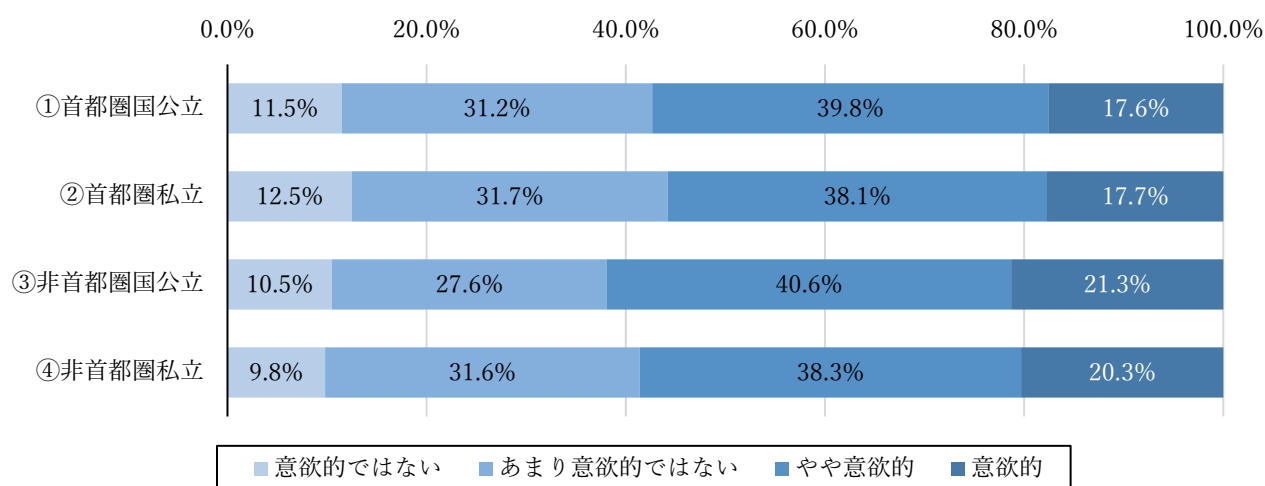


図 3-51 在学時の学び__自身の専門分野以外の勉強（グローバルエデュケーションセンターや所属学部の副専攻）

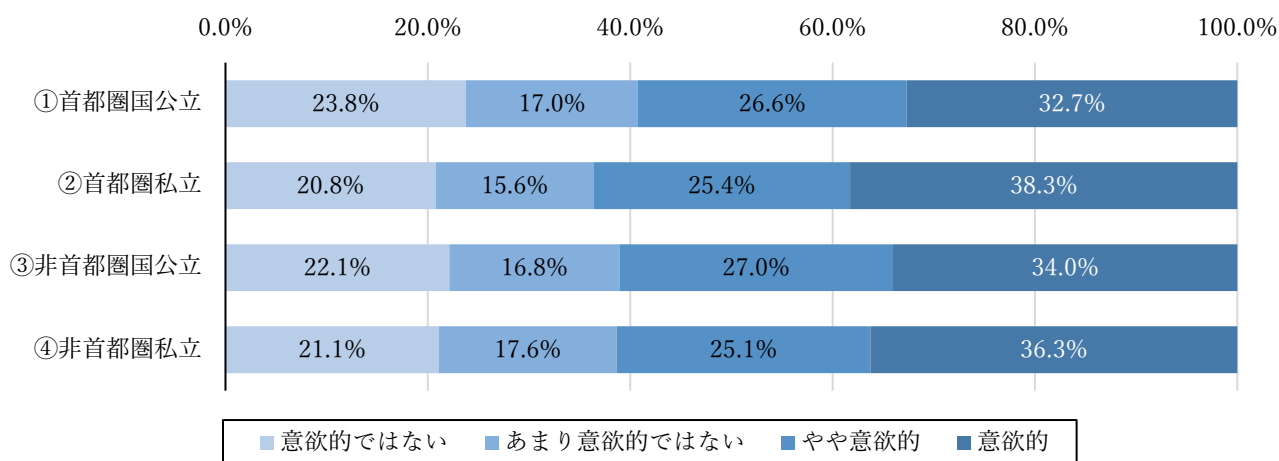


図 3-52 在学時の学び__部活動／サークル活動

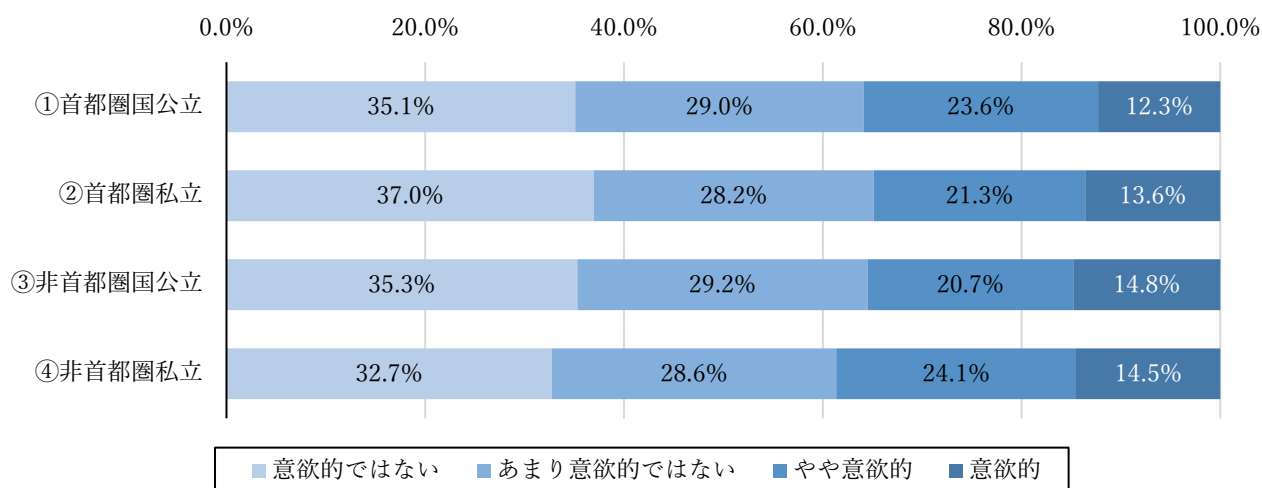


図 3-53 在学時の学び__資格試験のための勉強（塾や予備校含む）

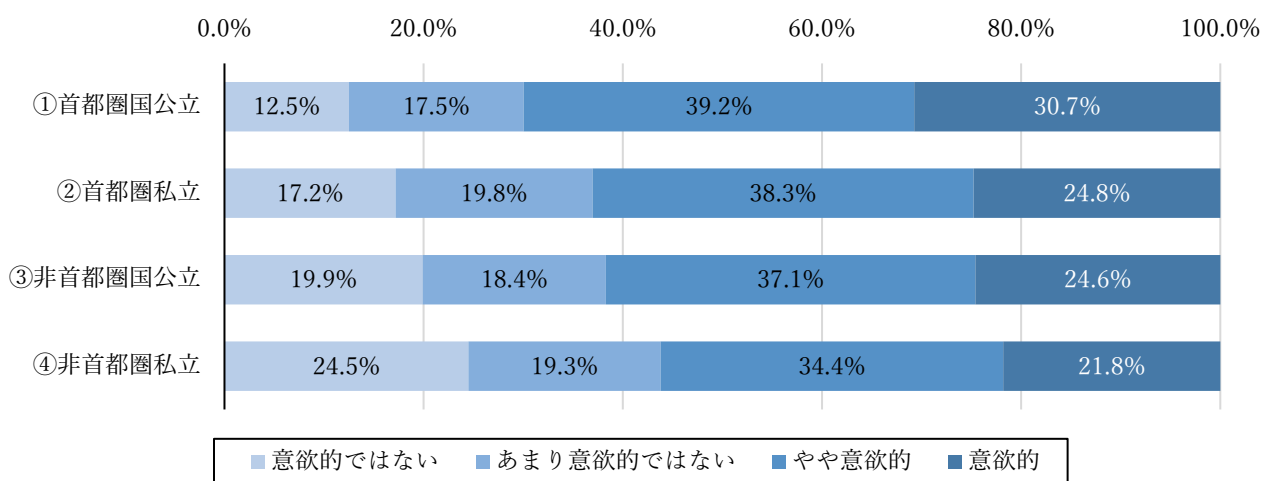


図 3-54 在学時の学び__アルバイト／定職

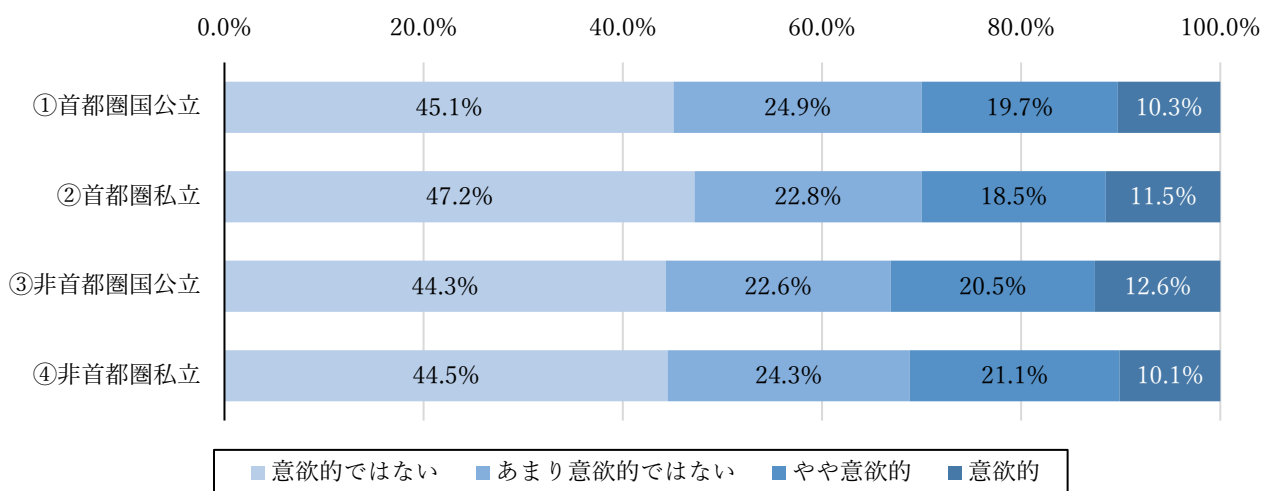


図 3-55 在学時の学び__就職に関わる活動

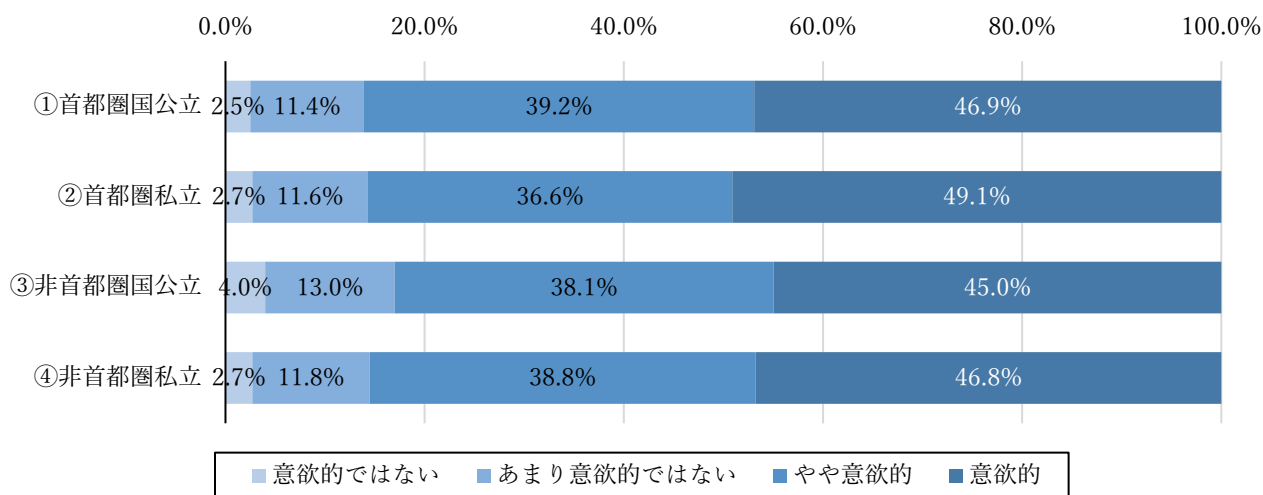


図 3-56 在学時の学び__趣味／娯楽／交友

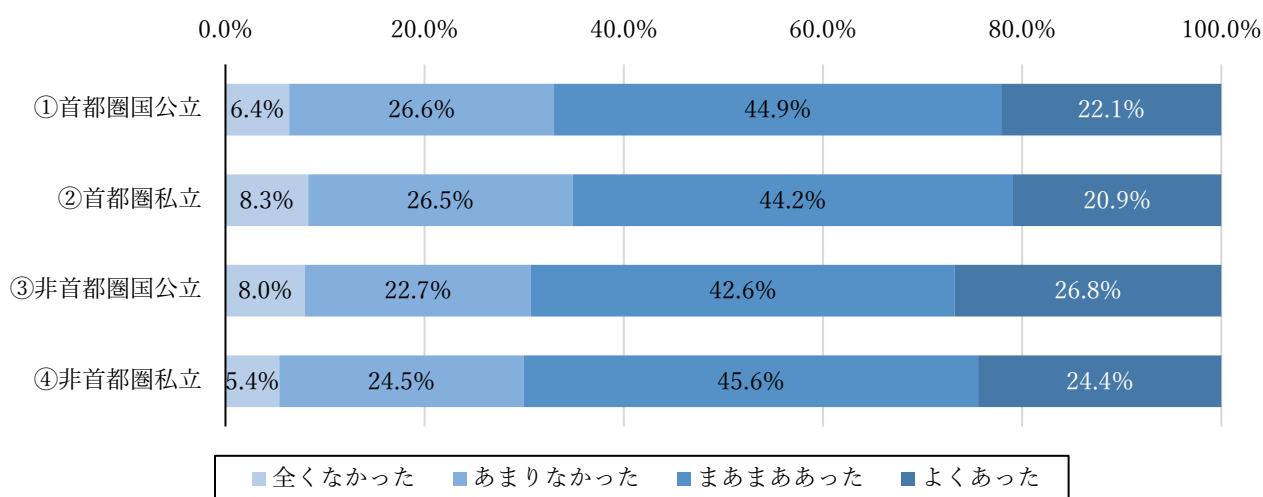


図 3-57 在学時の学び__大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ

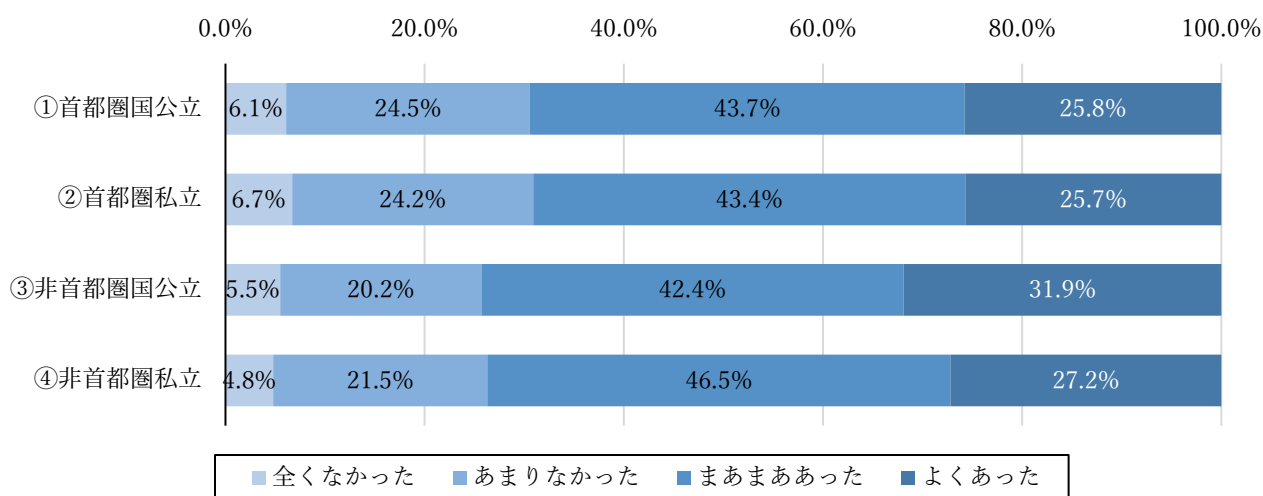


図 3-58 在学時の学び__社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ

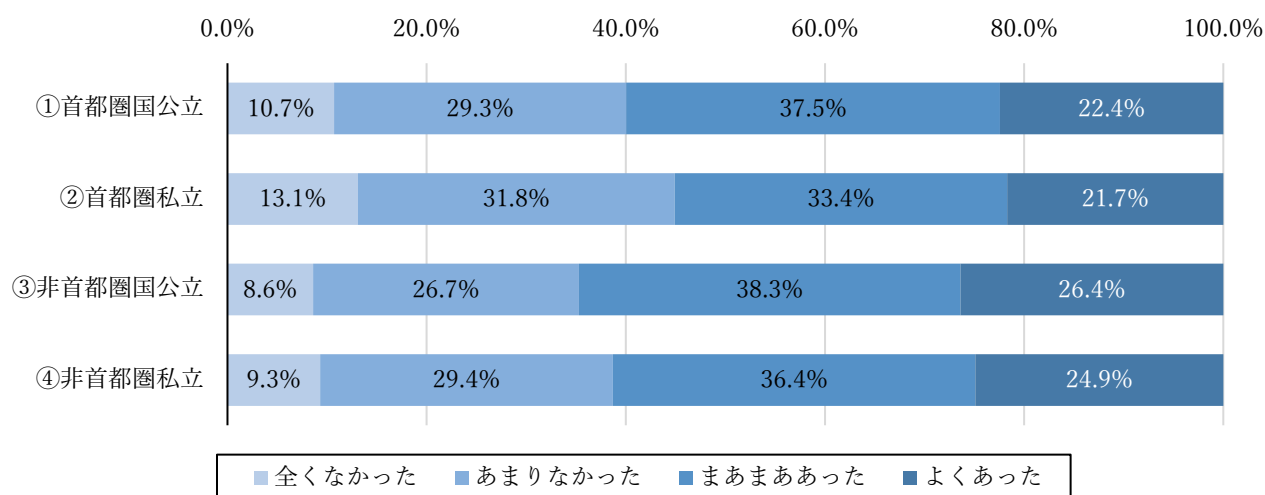


図 3-59 在学時の学び__異文化について学ぶ

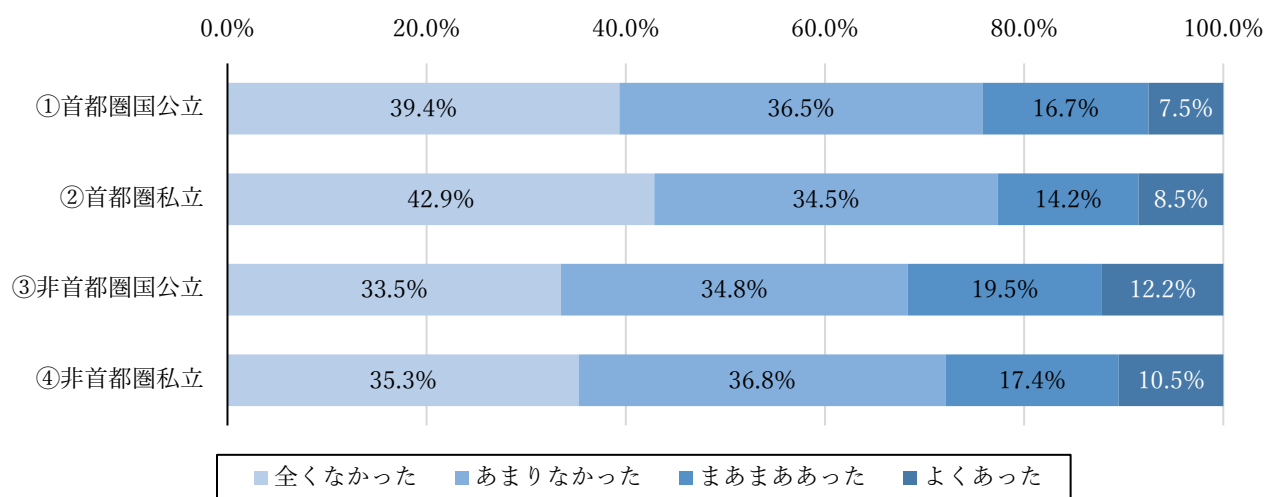


図 3-60 在学時の学び__ボランティアについて学ぶ

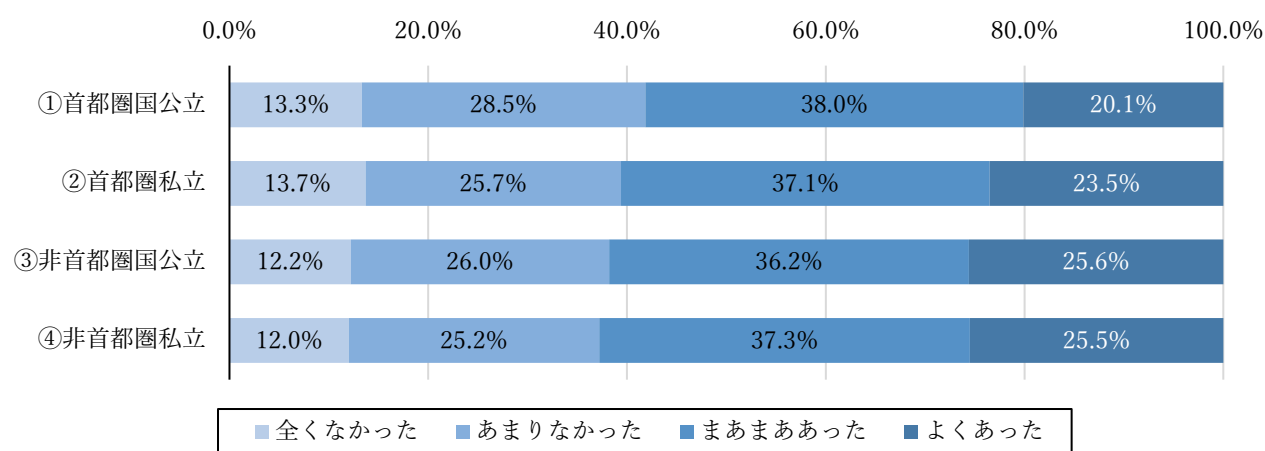


図 3-61 在学時の学び__将来に役立つ実践的な知識や技能を学ぶ（実験、実習、実技など）

3-4. 入学前経験と在学時の学びの関係

本節ではこれまで検討してきた高校時の学びと大学在学時の学び双方の関係をこれまでの分析で用いた高校タイプ別に検証し、それぞれの共通点や差異を見出したい。

被説明変数としては、大学在学時のより主体的な学びを学修行動の合成変数として用いる。この合成変数に用いたのは、表3-4で用いた⑳～㉔の7項目（㉔グループワークなどで授業に積極的に参加する、㉔授業で積極的に質問した、㉔課題は締切までに提出した、㉔分からない点は教員に質問した、㉔分からない点は友達に質問した、㉔資料を作成し、発表した、㉔理解できない点について、資料や動画を見返した）である。7項目のCronbachの α 係数は0.742であり、合成して用いることが妥当と判断した。7項目は4件法（全くなかった、あまりなかった、まあまああった、よくあった）で尋ねており、ここでは各項目の肯定的回答がより高くなるよう1～4点で得点化し、それらを足し合せ7で除した。

高校タイプ別の平均と分散は図3-62の通りである。一見して「3. 非首都圏国公立」がやや高く見えるが、統計的な有意差はない。

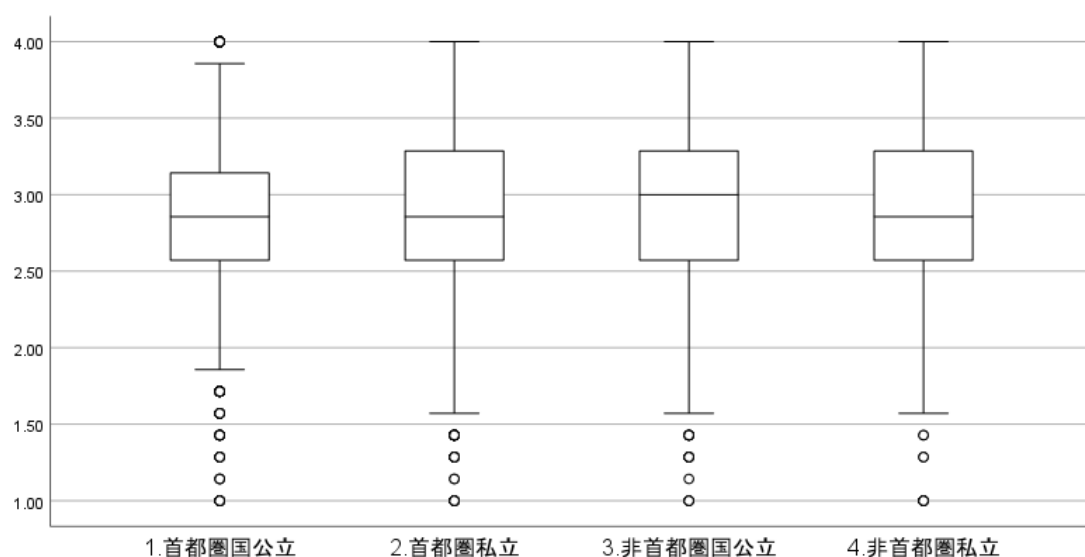


図3-62 高校タイプごとの学修行動得点の箱ひげ図

次に、学修行動得点を従属変数とした回帰分析結果を表3-5に示す。独立変数には、中項目として高校時の学習に対する構え、高校時の学習経験、（高校時の）学習時間、中高時の校内成績、進学理由を用いた。標準化係数でより係数が高いものは赤の背景色がより濃くなる。各モデルの決定係数は、3割程度であり説明力は一定以上ある。

まず高校タイプ間の共通点として、⑥や⑭～⑰の高校時の学習経験が大学在学時の主体的な学修行動に寄与していることが示される。また、進学理由の㉔自分の志望する専門分野があった、㉔教わりたい教員がいた、についてはいずれのタイプについても正に有意となっており、比較的係数も高い。この高校時の学習経験と進学理由はいずれのタイプにおいても、大学在学時の主体的な学修行動に繋がっている。また、係数は大きくないものの、いずれのタイプにおいても進学理由㉔伝統・校風が好き、が正に有意となっている。早稲田大学の文化に魅力を感じ進学した人ほど学修においてもポジティブな行動を

取りやすい。

一方で、高校時の学習時間（⑱、⑲）や校内成績（⑳、㉑）は大学在学時の主体的な学修行動とは一部を除き関連が見出だせない。いずれのタイプにおいても、高校時の主体的な学修行動が、大学在学時の主体的な学修行動に繋がっていることが示された。

タイプ別の特徴としては「2. 首都圏私立」では③なかなか成果がでなくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた、が正に有意となっている。タイプ間の比較では相対的に低い項目であったものの、「2. 首都圏私立」のなかではこの項目が在学時の主体的な学修行動に繋がっている点に特徴がある。また、「4. 非首都圏私立」では高校時に⑩キャリア形成について学ぶ経験、が他タイプに比べ主体的な学修行動に正の影響がある。高校時にキャリア形成を学んだことが当人にとってキャリアイメージを描いていく上で有用であれば、前節で述べたように、在学時に具体的な資格取得の勉強という行動で経験が活かされている可能性もある。

表 3－5 学修行動得点を従属変数とした回帰分析結果（高校タイプ別・数値は標準化係数）

		1.首都圏 国公立	2.首都圏 私立	3.非首都圏 国公立	4.非首都圏 私立
高校時の学習に対する構え	1 少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	0.022	-0.009	-0.011	-0.005
	2 学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	0.012	0.018	0.045	-0.002
	3 なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	0.045	0.103 ***	0.009	0.027
高校時の学習経験	4 勉強の方法を学ぶ	-0.023	-0.027	0.019	-0.010
	5 グループワークなどで授業に積極的に参加する	0.008	0.076 ***	0.027 *	-0.033
	6 授業中に自分の意見や考えを述べる	0.079 **	0.078 ***	0.076 *	0.116 **
	7 社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	0.038	0.023	-0.007	0.044
	8 異文化について学ぶ	0.030	0.022	0.031	0.007
	9 ボランティアについて学ぶ	0.016	0.004	0.011	0.059
	10 キャリア形成について学ぶ	-0.021	-0.004	0.01	0.093 *
	11 文系科目（国語・地歴・公民）についてしっかり学習した	0.038	0.029	0.019	0.031
	12 理系科目（数学・理科）についてしっかり学習した	0.024	0.018	0.035	0.008
	13 外国語科目（英語等）についてしっかり学習した	-0.023	0.012	0.013	0.024
	14 授業で積極的に質問した	0.107 ***	0.118 ***	0.135 ***	0.136 ***
	15 課題は締切までに提出した	0.121 ***	0.138 ***	0.058 *	0.105 **
	16 分からない点は先生に質問した	0.128 ***	0.088 ***	0.121 ***	0.081 *
	17 分からない点は友達に質問した	0.074 ***	0.084 ***	0.069 **	0.071 *
学習時間	18 平日（ふだん）	0.008	-0.005	0.034	0.021
	19 定期試験期間中	0.008	0.019 *	0.026	0.025
中高時の校内成績	20 中学3年の時	-0.035	-0.036 *	0.026	0.023
	21 高校3年の時	-0.018	-0.017	-0.055 *	-0.004
進学理由	22 自分の志望する専門分野があった	0.132 ***	0.145 ***	0.136 ***	0.146 ***
	23 教わりたい教員がいた	0.108 ***	0.088 ***	0.087 ***	0.065 *
	24 将来の進路・就職に有利	0.061 **	0.009	0.025	0.010
	25 知名度・注目度の高さ	0.016	-0.043 *	0.039	0.019
	26 学校の先生や親など周りの勧め	0.016	0.043 **	0.013	-0.006
	27 部・サークル活動が充実している	-0.001	-0.004	-0.006	-0.028
	28 伝統・校風が好き	0.080 ***	0.048 **	0.082 *	0.094 **
	29 利用可能な推薦・特別入試があった	0.021	0.015	0.035	-0.047
	30 希望した大学に入らなかった	0.032	0.028	0.015	0.048
R ²		0.275	0.310	0.306	0.311
F値		32.411 ***	57.038 ***	24.117 ***	14.371 ***

* $p < .05$ 、** $p < .01$ 、*** $p < .001$

第4章 高校と大学のリーダー経験の関係

本章では、高校時のリーダー経験と大学入学後のリーダー経験について、学習行動や到達度との関係を分析する。後半の節では、高校タイプ別や大学でのリーダーシップ開発関連授業の受講と関連させて分析する。また高校時代・大学時代を含めて、全て「学習」の表記に統一した。

高校時のリーダー経験に関しては、部活と課外活動に関するリーダー的な役割の経験の有無に関する質問項目を用い、大学入学後のリーダー経験に関しては、授業と課外活動に関するリーダー的な役割の経験の有無に関する質問項目を用いた。選択肢は「おおむね積極的に取り組まなかった」「おおむね積極的に取り組んだが、リーダー的な役割は担っていない」「おおむね積極的に取り組み、リーダー的な役割を担ったこともある」であり、リーダー的な役割を担ったという回答に1を、それ以外に0を付与し、二値の連続変数として用いた。質問項目ではリーダーシップを発揮したか否かではなく、リーダー的な役割を担ったか否かが問われており、あくまでリーダーという役割に関する検討である点に留意が必要である。また課外活動に関して、高校時の質問項目では「高校時代の学校行事・課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）」と問われ、大学時の質問項目では「部活動やサークル、学内のイベントなど、キャンパスでの課外活動」として問われており、高校時代では含まれていなかった部活動が、大学では課外活動の一環として含まれている点にも留意が必要である。また授業に関するリーダー経験に関しては、大学時においてのみ質問項目が設定された。

4-1. 高校と大学のリーダー経験の比較

高校時代のリーダー経験に関しては、部活では46.9%、課外活動では34.1%が、リーダー経験があると回答した（図4-1，表4-1）。また高校時代に、部活と課外活動の両方のリーダー経験があると回答したのは22.5%であった（図4-2，表4-3）。一方大学時代のリーダー経験に関しては、授業では19.7%、課外活動では25.1%が、リーダー経験があると回答した（図4-1，表4-2）。また大学時代に、授業と課外活動の両方のリーダー経験があると回答したのは9.0%であった（図4-2，表4-4）。

このように、高校時代では、部活では4割以上が、課外活動では3割以上が、リーダーの経験があるが、一方で大学時代になると、授業では2割程度、課外活動では4分の1程度が、リーダー経験を持つようである。またいずれか片方のリーダーを経験した者は、高校時代では合計60.8%となり、大学時代では合計36.1%であった。一方で、両方のリーダーを経験した者は、高校時代では22.5%、大学時代では9.0%であった。

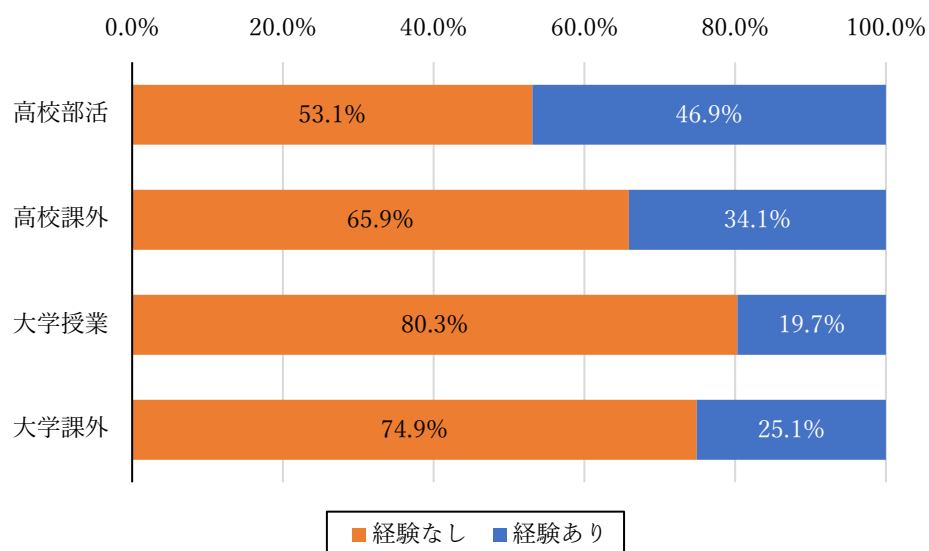


図 4-1 リーダー経験（高校・大学）

表 4-1 高校リーダー経験

		<i>n</i>	%
部活 リーダー	経験なし	6030	53.1
	経験あり	5321	46.9
課外活動 リーダー	経験なし	8760	65.9
	経験あり	4537	34.1

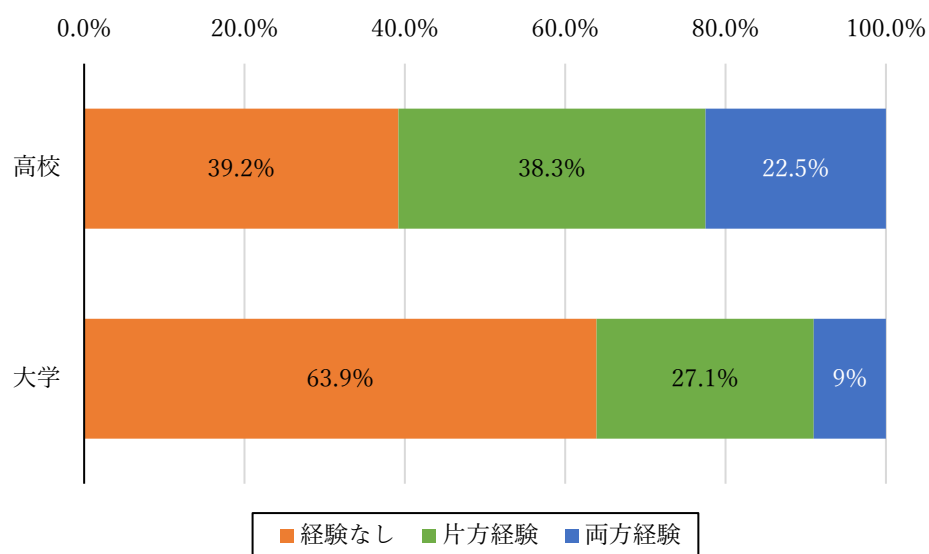


図 4-2 リーダー両方経験（高校・大学）

※大学の課外活動には、部活やサークルを含む。

※授業のリーダー経験は大学時のみ取得。

表 4-2 大学授業リーダー経験

		<i>n</i>	%
授業 リーダー	経験なし	9908	80.3
	経験あり	2437	19.7
課外活動 リーダー	経験なし	9406	74.9
	経験あり	3145	25.1

表 4-3 高校リーダー両方（部活・課外活動）経験

	<i>n</i>	%
経験なし	4439	39.2
片方経験	4342	38.3
両方経験	2549	22.5

表 4-4 大学リーダー両方（授業・課外活動）経験

	<i>n</i>	%
経験なし	7862	63.9
片方経験	3335	27.1
両方経験	1101	9.0

4-2. リーダー経験と関連項目の関係

本節では高校と大学のリーダー経験と、関連項目との相関分析をおこなう。分析する関連項目は、学習行動や教育経験については、「勉強の方法を学ぶ」など6項目を平均した「高校教育経験」（Cronbach の α : .824）、「授業で積極的に質問した」など4項目を平均した「高校学習行動」（Cronbach の α : .662）、「大学での勉強方法を学ぶ」など9項目を平均した「入学後教育経験」（Cronbach の α : .832）、「授業で積極的に質問した」など9項目を平均した「入学後学習行動」（Cronbach の α : .773）である。また到達度については、高校時代に関して、「自分の考えを論理的に構成することができた」など11項目を平均した「入学時 AP 総合」（Cronbach の α : .781）、「新しいことに挑戦できる」など13項目を平均した「入学時 DP 総合」（Cronbach の α : .889）、また現在（大学時代）に関して、「自分の考えを論理的に構成することができる」など8項目を平均した「現在 AP 総合」（Cronbach の α : .844）、「新しいことに挑戦できる」など13項目を平均した「現在 DP 総合」（Cronbach の α : .901）である。

表 4-5 は相関分析の結果である。高校と大学のリーダー経験の相関はいずれも小さいが、高大の課外活動のリーダー経験の相関が比較的大きい（ $r = .170$ ）。高校のリーダー経験と入学時 AP の相関は、課外活動のリーダー経験（ $r = .183$ ）の方が部活のリーダー経験（ $r = .118$ ）よりも大きい。高校のリーダー経験よりも、高校の教育経験（ $r = .448$ ）の方が、入学時の AP との相関が大きい。大学のリーダー経験と、入学後の学習行動及び現在の DP との相関は、授業のリーダー経験（ $r = .314$, $r = .267$ ）の方が課外活動の

リーダー経験 ($r = .102$, $r = .164$) よりも大きい。また大学入学後の教育経験 ($r = .550$) や学習行動 ($r = .520$) の方が、大学でのリーダー経験よりも、現在の DP との相関が大きい。このようにリーダー経験よりも学習行動や教育経験の方が、DP との相関は大きいことがわかる。しかしながら高校の課外活動のリーダー経験と高校の学習行動の間には、相関がないとはいえず ($r = .188$)、高校の学習行動と入学後の学習行動の相関は高く ($r = .441$)、また入学後の学習行動と現在の DP との相関が大きい ($r = .520$) ことから、高校時のリーダー経験と現在の DP は、間接的に関わっていることが予想される。

表 4-6 と 4-7 は、高校のリーダーシップ経験と、その他の関連項目との相関であり、表 4-8 から 4-10 は、大学のリーダーシップ経験と、その他の関連項目との相関である。全体的に高校や大学のリーダー経験と、大きな相関がみられる項目はなく、相関係数 (r) が .20 を超えるのは、表 4-9 の「大学の課外活動のリーダー経験」と「部活動・サークル活動に意欲的」($r = .332$) だけであった。相関係数 (r) が .15 以上の項目としては、表 4-7 の高校課外活動リーダー経験と高校生活全般の満足度 ($r = .194$)、表 4-8 の大学の授業リーダー経験と、「単位を取るのが難しくても、自分に有益な授業がよい」($r = .163$)、「なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかり勉強をつづけている」($r = .156$) という考え方、表 4-9 では特に大学授業リーダー経験と「自身の専門分野の勉強に意欲的に取り組んだ」($r = .190$)、大学課外活動リーダー経験と大学生生活全般の満足度 ($r = .158$) などであった。

表 4-5 高校・大学のリーダー経験と関連項目との相関

	高校 部活 リーダー	高校 課外 リーダー	大学 授業 リーダー	大学 課外 リーダー	高校 教育 経験	高校 学習 行動	入学時 AP 総合	入学時 DP 総合	入学後 教育 経験	入学後 学習 行動	現在 AP 総合	現在 DP 総合
高校部活 リーダー	1	.226**	.102**	.146**	.134**	.112**	.118**	.083**	.085**	.095**	.087**	.088**
高校課外 リーダー		1	.147**	.170**	.224**	.188**	.183**	.137**	.107**	.140**	.150**	.144**
大学授業 リーダー			1	.229**	.132**	.138**	.189**	.202**	.229**	.314**	.261**	.267**
大学課外 リーダー				1	.094**	.095**	.102**	.087**	.129**	.102**	.174**	.164**
高校 教育経験					1	.460**	.448**	.373**	.334**	.299**	.260**	.289**
高校 学習行動						1	.436**	.315**	.285**	.441**	.278**	.287**
入学時 AP 総合							1	.662**	.407**	.460**	.619**	.576**
入学時 DP 総合								1	.427**	.431**	.559**	.651**
入学後 教育経験									1	.582**	.490**	.550**
入学後 学習行動										1	.510**	.520**

現在 AP 総合											1	.806**
現在 DP 総合												1

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$, 青: $.4 < |r| \leq .7$, 濃青: $.7 < |r| \leq 1.0$

度数: min: 10517, max: 13297

表 4-6 高校のリーダー経験とその他の関連項目との相関①

	少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかりと勉強を続けた	「高校 2 年生の 2 学期」の頃、学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか: 平日 (ふだん)	「高校 2 年生の 2 学期」の頃、学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか: 定期試験期間中
高校部活リーダー	.037**	.091**	.078**	.017	.038**
高校課外リーダー	.057**	.105**	.102**	.031**	.082**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$

度数: min: 11237, max: 13283

表 4-7 高校のリーダー経験とその他の関連項目との相関②

	通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれくらいでしたか: 中学 3 年の時	通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれくらいでしたか: 高校 3 年の時	大学入学以前、(保護者)の海外赴任に伴う海外滞在	大学入学以前、中高時代の留学	高校生活全般について、10 点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか
高校部活リーダー	.012	.060**	-.01	.009	.114**
高校課外リーダー	.032**	.060**	.036**	.071**	.194**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$

度数: min: 10628, max: 13269

表 4-8 大学のリーダー経験とその他の関連項目との相関①

	A. 自身に有益でなくても、単位を楽に取れる授業がよい B. 単位を取るのが難しくても、自分に有益な授業がよい	A. 知識や技能を身に付けられるかは、大学や教員の責任である B. 知識や技能を身に付けられるかどうかは、学生自身の責任である	A. 幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい B. 特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい	A. 大学で知識は増やせるが、元々の賢さは変わらない B. 大学で努力すれば、それに応じて賢くなると思う	大学 (学部・大学院) での授業や研究・勉強が、あなたの今後への進路先で役に立つと思いますか	少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ授業に出席するように努力している	大学の授業で、自分が好きではないものにも全力で取り組んでいる	なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかりと勉強をつづけている	現在の授業期間中の平均的な 1 週間 (7 日間) の生活時間、授業 (実験・実習含む) への出席	現在の授業期間中の平均的な 1 週間 (7 日間) の生活時間、予習・復習・課題など授業に関する学習	現在の授業期間中の平均的な 1 週間 (7 日間) の生活時間、授業以外の学習
大学授業リーダー	.163**	.020*	.035**	.081**	.095**	.094**	.128**	.156**	.019*	.081**	.133**

大学課外 リーダー	.026**	.016	.01	.022*	.021*	-.012	-.01	.019*	-.059**	-.042**	.057**
--------------	--------	------	-----	-------	-------	-------	------	-------	---------	---------	--------

* 相関係数 (r) は 5% 水準で有意 (両側), ** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$

度数: min: 12269, max: 12534

表 4-9 大学のリーダー経験とその他の関連項目との相関②

	大学（大学 院）入学以 降、あなたの 授業平均出席 率はどれくら いですか	次のことにど れほど意欲的 に取り組んで きましたか。 自身の専門分 野の勉強	次のことにど れほど意欲的 に取り組んで きましたか。 自身の専門分 野以外の勉強	次のことにど れほど意欲的 に取り組んで きましたか。 部活動／サー クル活動	大学（大学 院）生活全般 について、10 点満点で満足 度得点をつけ るとすれば、 何点になりま すか	あなたは現 在、身体面・ 精神面で健康 ですか。身体 面	あなたは現 在、身体面・ 精神面で健康 ですか。精神 面	現在、次のよ うな不安や悩 みがあります か。大学を休 学したい	現在、次のよ うな不安や悩 みがあります か。大学を退 学したい
大学授業 リーダー	.085**	.190**	.152**	.007	.149**	.033**	.043**	-.003	-.008
大学課外 リーダー	-.046**	.054**	.067**	.332**	.158**	.075**	.081**	-.013	-.031**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$

度数: min: 11711, max: 12525

表 4-10 大学のリーダー経験とその他の関連項目との相関③

	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 1週間～数週間程度 の留学	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 1か月程度の留学	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 数か月程度の留学	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 半年程度の留学	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 1年程度の留学	大学（大学院）入学 以降の【留学経験】 1年以上の留学
大学授業 リーダー	.071**	.074**	.081**	.080**	.104**	.108**
大学課外 リーダー	.037**	.032**	.025**	.032**	.035**	.014

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .2$

度数: min: 11945, max: 12351

4-3. リーダー経験と出身高校のタイプの関係

本節では高校大学のリーダー経験と、首都圏国公立、首都圏私立、非首都圏国公立、非首都圏私立という、出身高校の4タイプとの関係を分析する。

図 4-3 と表 4-11 は、高校タイプ別での高校の部活リーダー経験であり、首都圏私立 (45.7%) が他のタイプより、「経験あり」の割合は若干少ない。図 4-4 と表 4-12 は、高校タイプ別での高校の課外活動のリーダー経験であり、非首都圏私立 (36.8%) が他のタイプより、「経験あり」の割合は若干多い。図 4-5 と表 4-13 は、高校タイプ別での大学の授業のリーダー経験であり、非首都圏国公立 (17.9%) が他のタイプより、「経験あり」の割合はわずかに少ない。図 4-6 と表 4-14 は、高校タイプ別での大学の課外活動のリーダー経験であり、首都圏私立 (27.0%) が他のタイプより、「経験あり」の割合は比較的多く、一方で非首都圏私立 (22.7%) は比較的小さい。

次に高校タイプ別における、高校と大学でのリーダー経験と、関連項目との相関分析をおこなう。表 4-15 は、首都圏国公立における、高校と大学のリーダー経験と関連項目との相関である。相関係数 (r) が.2 以上のセルは青く表示し、.15 から.2 未満のセルは黄色く表示し、特に他の高校タイプに比べて特徴的な数値は、太字にして下線を引いた。首都圏国公立では、特に高校の課外活動のリーダー経験と、大学の授業でのリーダー経験の相関 ($r = .118$) は、他の高校タイプと比較して小さい。表 4-16 は、首都圏私立における、高校と大学のリーダー経験と関連項目との相関であり、特に大学の授業のリーダー経験と、高校の教育経験との相関 ($r = .095$) は、他の高校タイプと比較して小さい。表 4-17 は、非首都圏国公立における、高校と大学のリーダー経験と関連項目との相関であり、特に高校の課外活動のリーダー経験と、大学の課外活動のリーダー経験との相関 ($r = .127$) は、他の高校タイプと比較して小さい。表 4-18 は、非首都圏私立における、高校と大学のリーダー経験と関連項目との相関であり、特に高校の課外活動のリーダー経験と、入学時（高校時）の学習行動 ($r = .144$) と、現在の DP との相関 ($r = .117$) は、他の高校タイプと比較して小さい。

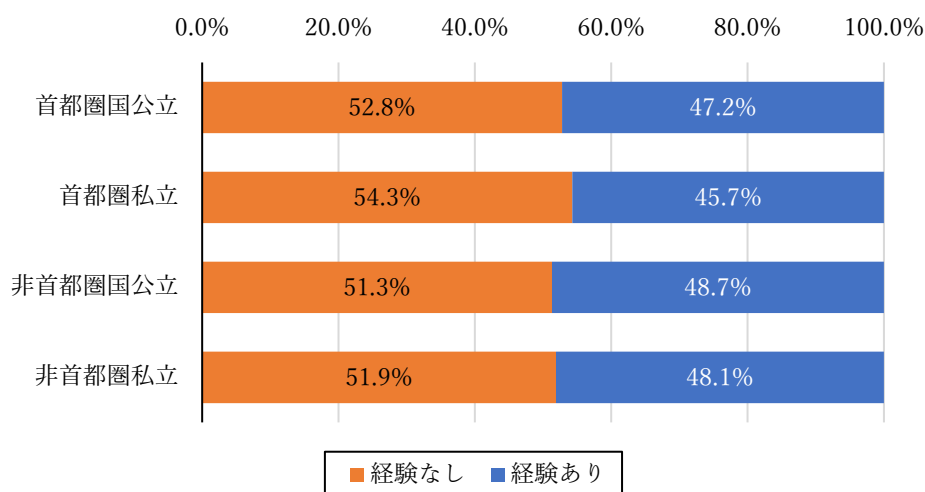


図 4-3 高校部活リーダー経験（高校タイプ別）

表 4-11 高校部活リーダー経験（高校タイプ別）

		<i>n</i>	%
首都圏国公立	経験なし	1472	52.8
	経験あり	1316	47.2
首都圏私立	経験なし	2162	54.3
	経験あり	1821	45.7
非首都圏国公立	経験なし	775	51.3
	経験あり	735	48.7
非首都圏私立	経験なし	437	51.9
	経験あり	405	48.1

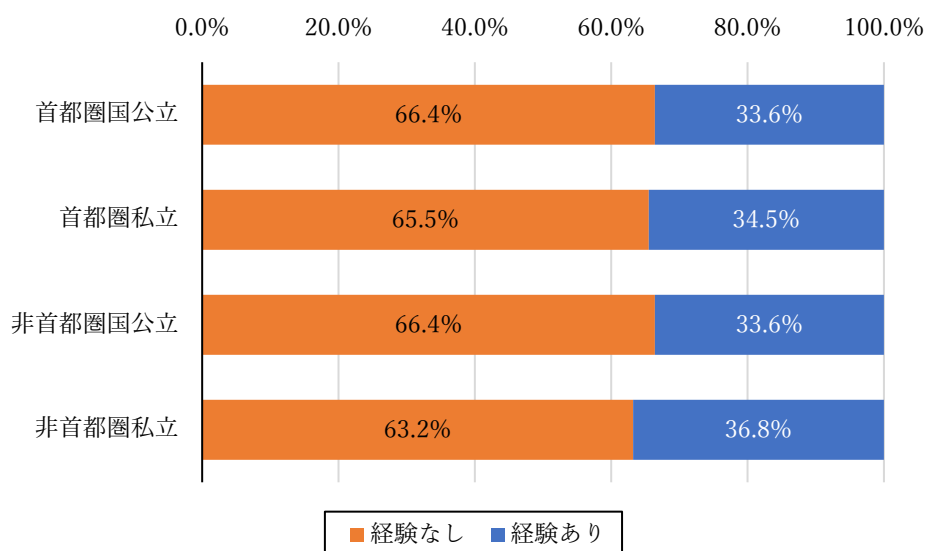


図 4-4 高校課外活動リーダー経験（高校タイプ別）

表 4-12 高校課外活動リーダー経験（高校タイプ別）

		n	%
首都圏国公立	経験なし	2142	66.4
	経験あり	1083	33.6
首都圏私立	経験なし	3041	65.5
	経験あり	1605	34.5
非首都圏国公立	経験なし	1138	66.4
	経験あり	575	33.6
非首都圏私立	経験なし	612	63.2
	経験あり	356	36.8

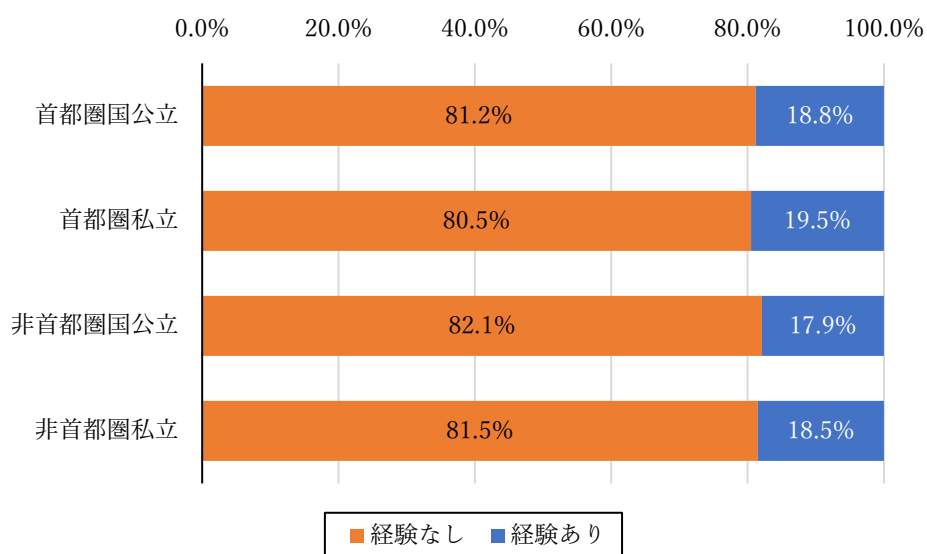


図 4-5 大学授業リーダー経験（高校タイプ別）

表 4-13 大学授業リーダー経験（高校タイプ別）

		<i>n</i>	%
首都圏国公立	経験なし	2432	81.2
	経験あり	564	18.8
首都圏私立	経験なし	3479	80.5
	経験あり	844	19.5
非首都圏国公立	経験なし	1303	82.1
	経験あり	285	17.9
非首都圏私立	経験なし	721	81.5
	経験あり	164	18.5

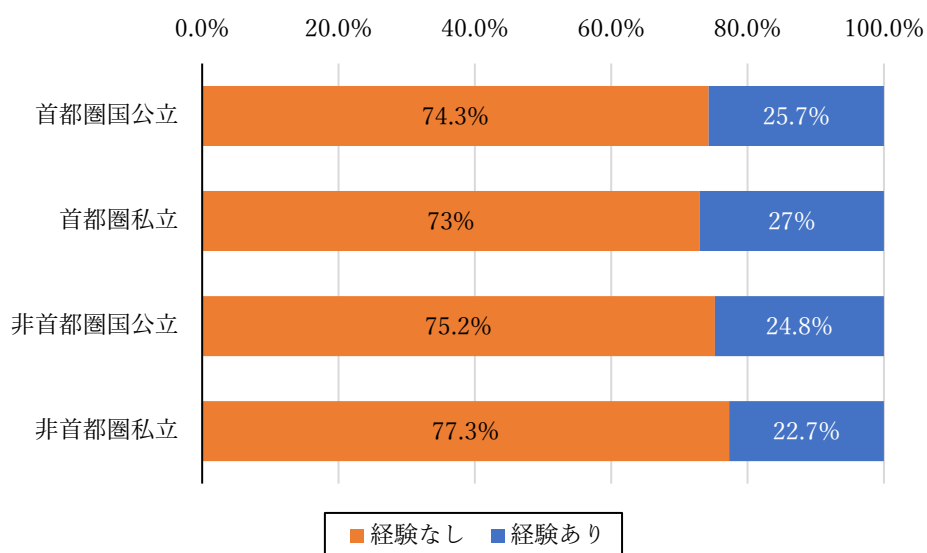


図 4-6 大学課外活動リーダー経験（高校タイプ別）

表 4-14 大学課外活動リーダー経験（高校タイプ別）

		<i>n</i>	%
首都圏国公立	経験なし	2271	74.3
	経験あり	784	25.7
首都圏私立	経験なし	3200	73.0
	経験あり	1184	27.0
非首都圏国公立	経験なし	1210	75.2
	経験あり	400	24.8
非首都圏私立	経験なし	703	77.3
	経験あり	206	22.7

表 4-15 高校・大学のリーダー経験と関連項目との相関（首都圏国公立）

	高校 部活 リーダー	高校 課外 リーダー	大学 授業 リーダー	大学 課外 リーダー	高校 教育 経験	入学時 AP 総合	入学時 学習 行動	入学時 DP 総合	入学後 教育 経験	入学後 学習 行動	現在 AP 総合	現在 DP 総合
高校部活 リーダー	1	.206**	.103**	.140**	.095**	.104**	.101**	.064**	.062**	.080**	.085**	.065**
高校課外 リーダー		1	<u>.118**</u>	.187**	.199**	.178**	.187**	.129**	.101**	.120**	.137**	.141**
大学授業 リーダー			1	.226**	.159**	.195**	.159**	.220**	.211**	.310**	.262**	.271**
大学課外 リーダー				1	.091**	.099**	.095**	.079**	.113**	.075**	.162**	.146**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$

他の高校タイプに比べて大小特徴的な数値は太字にして下線を引いた

表 4-16 高校・大学のリーダー経験と関連項目との相関（首都圏私立）

	高校 部活 リーダー	高校 課外 リーダー	大学 授業 リーダー	大学 課外 リーダー	高校 教育 経験	入学時 AP 総合	入学時 学習 行動	入学時 DP 総合	入学後 教育 経験	入学後 学習 行動	現在 AP 総合	現在 DP 総合
高校部活 リーダー	1	.238**	.087**	.141**	.156**	.138**	.139**	.099**	.095**	.110**	.099**	.097**
高校課外 リーダー		1	.161**	.168**	.234**	.189**	.192**	.145**	.112**	.148**	.167**	.153**
大学授業 リーダー			1	.221**	<u>.095**</u>	.155**	.126**	.175**	.221**	.298**	.243**	.237**
大学課外 リーダー				1	.093**	.096**	.093**	.097**	.140**	.110**	.197**	.178**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$

他の高校タイプに比べて大小特徴的な数値は太字にして下線を引いた

表 4-17 高校・大学のリーダー経験と関連項目との相関（非首都圏国公立）

	高校 部活 リーダー	高校 課外 リーダー	大学 授業 リーダー	大学 課外 リーダー	高校 教育 経験	入学時 AP 総合	入学時 学習 行動	入学時 DP 総合	入学後 教育 経験	入学後 学習 行動	現在 AP 総合	現在 DP 総合
高校部活 リーダー	1	.213**	.110**	.142**	.133**	.159**	.106**	.105**	.095**	.108**	.101**	.084**
高校課外 リーダー		1	.147**	<u>.127**</u>	.229**	.203**	.227**	.159**	.139**	.185**	.167**	.166**
大学授業 リーダー			1	.214**	.171**	.189**	.149**	.205**	.235**	.319**	.251**	.270**
大学課外				1	.084**	.103**	.122**	.092**	.113**	.116**	.169**	.180**

リーダー												
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$

他の高校タイプに比べて大小特徴的な数値は太字にして下線を引いた

表 4-18 高校・大学のリーダー経験と関連項目との相関 (非首都圏私立)

	高校 部活 リーダー	高校 課外 リーダー	大学 授業 リーダー	大学 課外 リーダー	高校 教育 経験	入学時 AP 総合	入学時 学習 行動	入学時 DP 総合	入学後 教育 経験	入学後 学習 行動	現在 AP 総合	現在 DP 総合
高校部活 リーダー	1	.261**	.105**	.162**	.144**	.086**	.093**	.062**	.084**	.087**	.073**	.103**
高校課外 リーダー		1	.149**	.188**	.228**	.141**	<u>.144**</u>	.110**	.082**	.116**	.123**	<u>.117**</u>
大学授業 リーダー			1	.261**	.136**	.226**	.127**	.207**	.249**	.333**	.294**	.300**
大学課外 リーダー				1	.109**	.111**	.091**	.087**	.155**	.120**	.159**	.157**

** 相関係数 (r) は 1% 水準で有意 (両側)

セル白: $.0 \leq |r| \leq .15$, 黄色: $.15 < |r| \leq .2$, 淡青: $.2 < |r| \leq .4$

他の高校タイプに比べて大小特徴的な数値は太字にして下線を引いた

4-4. まとめ

本章では、高校時のリーダー経験と大学入学後のリーダー経験について、学習行動や到達度との関係を分析した。第1節と第2節では全体的な分析をおこない、第3節では高校タイプ別（首都圏国公立、首都圏私立、非首都圏国公立、非首都圏私立）の分析をした。

全体的には、高校時代では部活では4割以上が、課外活動では3割以上が、リーダーの経験があり、大学時代では授業では2割程度、課外活動では4分の1程度が、リーダー経験がある。高校と大学のリーダー経験の相関はいずれも小さいが、その中では特に高校と大学の課外活動のリーダー経験の相関が、他のリーダー経験より比較的大きかった。また高校のリーダー経験よりも、高校の教育経験の方が、入学時のAPとの相関が大きかった。さらに大学入学後の教育経験や学習行動の方が、大学でのリーダー経験よりも、現在のDPとの相関が大きかった。

第3節では、高校時および大学時のリーダー経験と、出身高校の4タイプとの関係について分析した。各リーダー経験の、出身校別の割合の違いはわずかであったが、それぞれの高校タイプの特徴を表していた。例えば大学の課外活動のリーダー経験は、首都圏私立は他のタイプより、「経験あり」の割合は比較的多く、非首都圏私立は比較的小さかった。また高校タイプ別における、高校と大学でのリーダー経験と、関連項目との相関分析をしたところ、一部他の高校タイプよりも比較的小さい値がみられ、これも高校タイプの特徴を反映させていたと解釈できる。

全体的に、高校や大学のリーダー経験よりも、高大の教育経験や学習行動の方が、APやDP関連の項

目との相関が大きかった。本章で用いたリーダー経験の質問項目は、高校や大学でリーダーとしての役割を担ったことがあるかという、素朴なリーダー経験を問う指標である。本章の分析結果によると、高校や大学で、課外活動などでリーダー的な役割を担うだけでは、AP や DP への貢献は大きくないようである。

集計表

2022 年度 学生生活・学修行動調査 集計表

I. 調査概要

II. 調査項目 ※網掛け部分の自由記述は割愛

1. 大学入学前

Q01. あなたの出身高校は、次のどれにあてはまりますか。それぞれ 1 つを選択してください。

Q02. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。

Q03. あなたが「高校 2 年生の 2 学期」の頃、学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日（ふだん）」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q04. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q05. あなたは高校生の頃、どのような部活動に参加していましたか。また、その取り組み方はどのようなものでしたか。全般的なイメージで、それぞれあてはまるものを選択してください。※複数の部活動に参加していた方は、とくに力を入れていた部活動についてお答えください。

Q06. 高校時代の学校行事・課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）についてもお尋ねします。あなたはこれら学校行事・課外活動にどのように取り組んでいましたか。全般的なイメージであてはまるものを選択してください。

Q07. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q08. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれぐらいでしたか。中学 3 年生の時、そして高校 3 年生の時それぞれについて、全教科トータルでみた場合の状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q09. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q10. 大学入学以前の海外経験についてお答えください。

2. 大学（大学院）進学ならびに進学時の状況

Q11. あなたが大学（大学院）に進学する上で、早稲田大学（大学院）を選んだ理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q12. 【大学院生のみお答えください】あなたの大学院入学までのキャリアについてあてはまるものを一つ選択してください。

Q13.【大学院生のみお答えください】あなたが大学院に進学した理由は何ですか。それぞれ当てはまるものを選択してください。

Q14. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。

Q15.あなたは大学（大学院）入学前に、早稲田大学（早稲田大学大学院）、学部（研究科）のアドミッション・ポリシー（AP）を確認しましたか。

Q16. あなたは大学（大学院生の場合、大学院）入学の時点で、次のことはどの程度あてはまっていたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q17. あなたは【大学（学部・大学院）入学時】に、次のようなことは、どれくらい身に付いていたと考えていましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。

3. 大学（大学院）入学以降の学生生活

Q18.次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。大学（大学院）入学以降の状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q19.大学（大学院）教育について、「現在の」あなたの考え方に、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

Q20.あなたは大学（学部・大学院）での授業や研究・勉強が、あなたの今後の進路先で役に立つと思いますか。あてはまるもの一つを選択してください。

Q21.あなたが授業を選ぶ際に重視することは何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q22.現在の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、あてはまる時間数を選択してください。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q23.大学（大学院）入学以降、あなたの授業平均出席率はどれくらいですか。もっともあてはまるものを一つ選択してください。

Q24.あなたは大学（大学院）入学以降、次のことにどれほど意欲的に取り組んできましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q25.あなたは大学（大学院）入学以降、次のことをどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q26.大学（大学院）入学以降のあなたについて、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q27.大学（大学院）入学以降、以下のような活動に所属、参加していますか。それぞれの内容についてあてはまるものを選択してください。

Q28.「リーダー」という観点からこれまでのあなたの大学での生活を振り返ると、どのようになりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q29. 大学（大学院）入学以降の【留学経験】について、あなたの状況をお答えください。それぞれあてはまるものを

選択してください。

Q30. 留学を考えるにあたって、以下のことはどれほど気になりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q31. 大学（大学院）入学以降の【インターンシップ経験】について、あなたの状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q32. いま現在の居住形態をお答えください。あてはまるものを選択・記入してください。

4. 将来展望

Q33. 現在、あなたは学部・大学院卒業後、どのような進路を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。
内定している場合には、内定先を選択してください。

Q34. あなたは、自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。また、持っている場合は、その見通しに関するいまの状況についてもお答えください。最もあてはまるものを選択してください。

Q35. あなたは、就職するうえで、次の点はどの程度重要だと思いますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q36. あなたは、仕事や就職先にどのようなことを望みますか、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

5. 学修の成果・満足度

Q37. 【いま現在】、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q38. 【現在】あなたは、次のそれぞれについて、どれくらい身に付いたと思いますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。

Q39. これまでの大学（大学院）生活を振り返り、授業や学生生活等の満足度についてどのように評価しますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q40. 大学（大学院）生活全般について、10 点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか。また、高校生活全般についても同様に得点をつけるとすれば、何点になりますか。

6. その他

Q41. あなたは現在、身体面・精神面で健康ですか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

Q42. 現在、次のような不安や悩みがありますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

Q43. 最後に学生生活や学修環境に対する要望等がもしあれば自由に回答してください。

I. 調査概要

- ◆ **調査方法** 「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ **調査時期** 2022 年 6 月 24 日（金）～2022 年 7 月 22 日（金）
- ◆ **調査対象者** 早稲田大学の学生 45,587 名
- ◆ **回収状況** 14,535 件 回収率（31.9%）
※本報告書の集計表では一部不備のあったデータを除いて作成した。

- ◆ **調査結果引用に関するお願い**

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

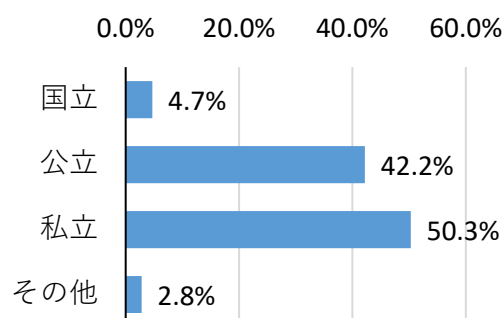
著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2022 年度 学生生活・学修行動調査

Ⅱ. 調査項目

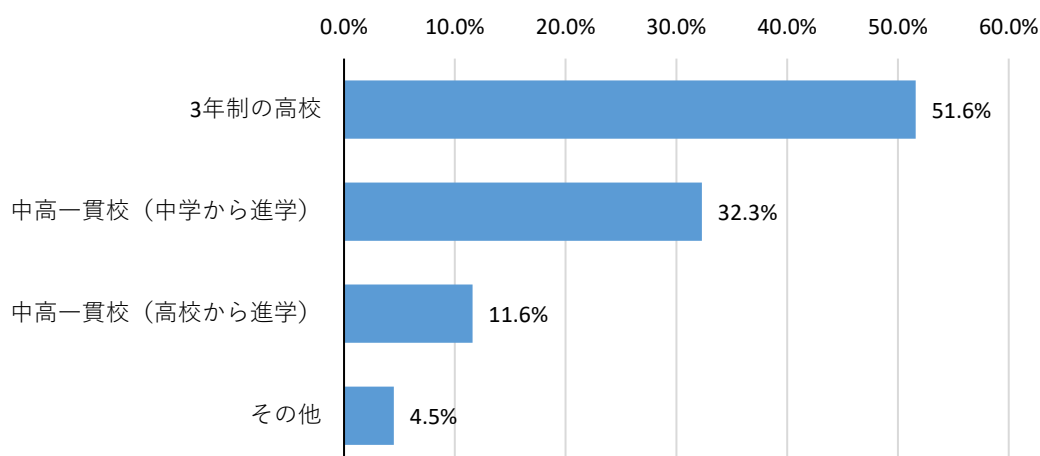
1. 基本情報・これまでの経験

Q01. あなたの出身高校は、次のどれにあてはまりますか。それぞれ1つを選択してください。



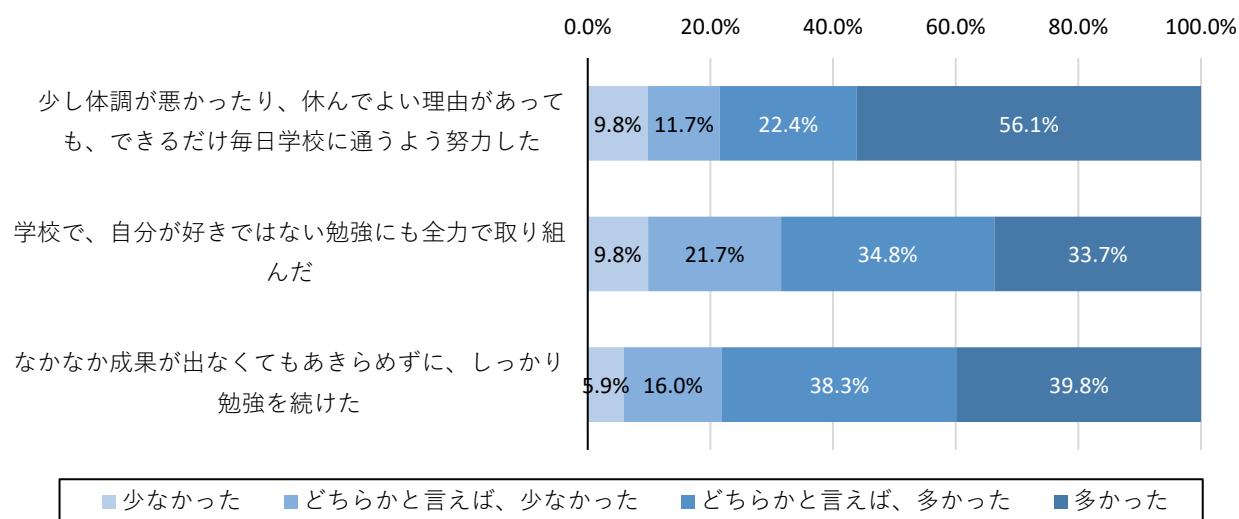
国立	621
公立	5,525
私立	6,582
その他	367

Q02. あなたの出身高校は、次のどれにあてはまりますか。それぞれ1つを選択してください- 3 年制 or 中高



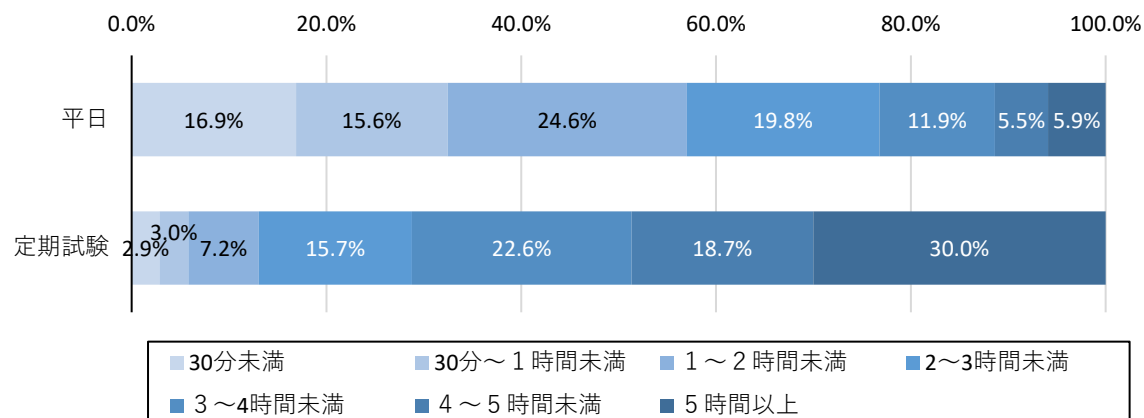
3 年制の高校	6,687
中高一貫校（中学から進学）	4,192
中高一貫校（高校から進学）	1,505
その他	583

Q03. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



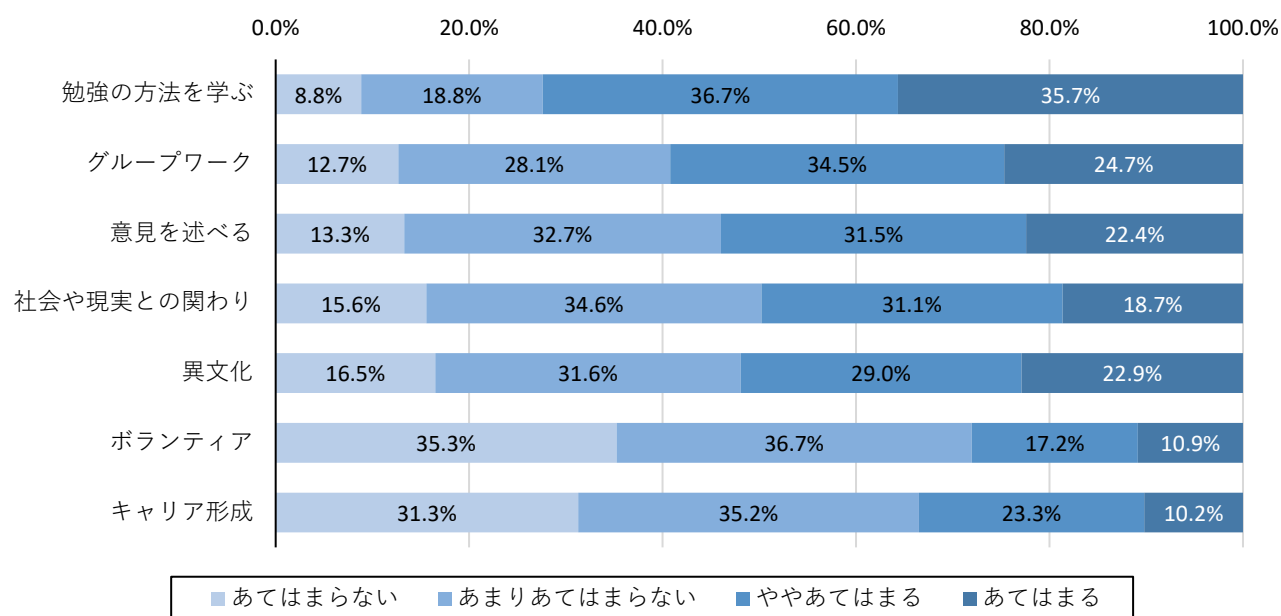
	少なかった	どちらかと言えば、少なかった	どちらかと言えば、多かった	多かった
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	1,311	1,559	2,981	7,480
学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	1,311	2,886	4,634	4,482
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	786	2,126	5,104	5,296

Q04. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日（ふだん）」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。それぞれあてはまるものを選択してください。



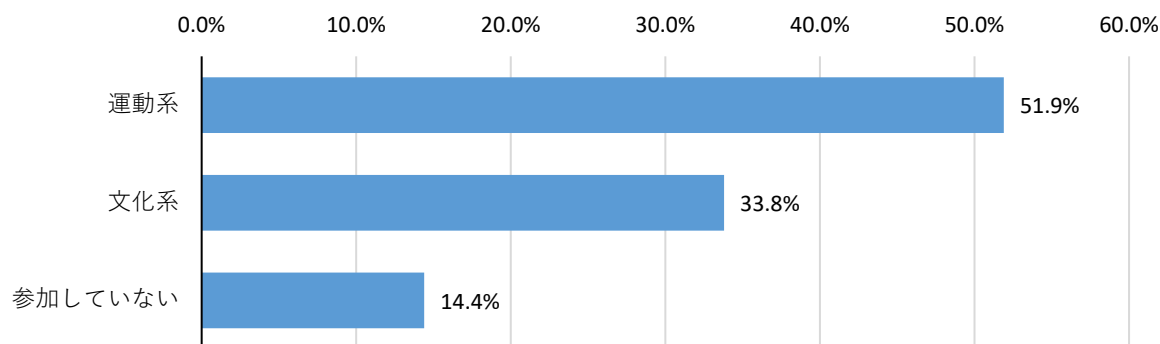
	30 分 未満	30分～ 1 時間 未満	1 ～ 2 時 間 未 満	2～3 時 間未満	3 ～ 4 時 間 未 満	4 ～ 5 時 間 未 満	5 時間 以上
中学 3 年の時	2,242	2,067	3,262	2,627	1,575	724	786
高校 3 年の時	376	392	954	2,072	2,975	2,460	3,957

Q05. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



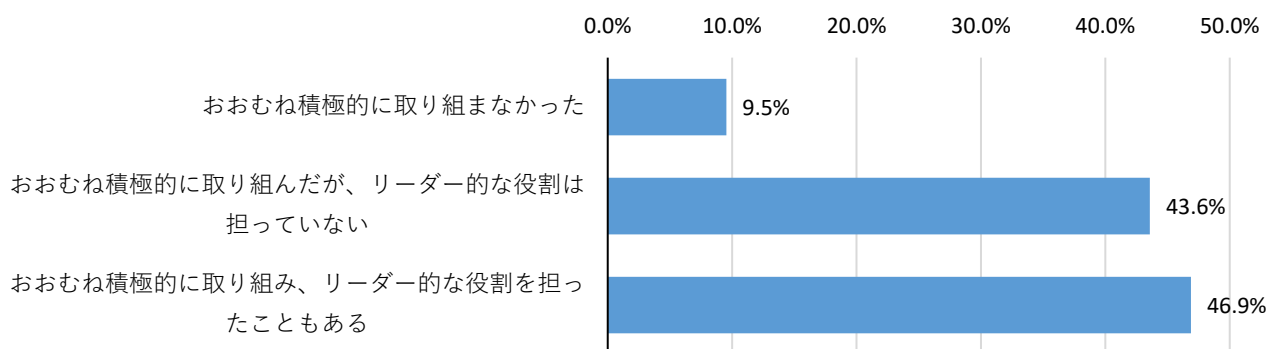
	あてはまらない	あまりあてはま らない	ややあてはまる	あてはまる
勉強の方法を学ぶ	1,176	2,493	4,884	4,741
グループワーク	1,687	3,738	4,593	3,283
意見を述べる	1,768	4,355	4,196	2,981
社会や現実との関わり	2,072	4,606	4,139	2,480
異文化	2,193	4,198	3,858	3,044
ボランティア	4,688	4,881	2,284	1,445
キャリア形成	4,160	4,682	3,098	1,358

Q06. あなたは高校生の頃、どのような部活動に参加していましたか。また、その取り組み方はどのようなものでしたか。全般的なイメージで、それぞれあてはまるものを選択してください。※複数の部活動に参加していた方は、とくに力を入れていた部活動についてお答えください。 - 部活動



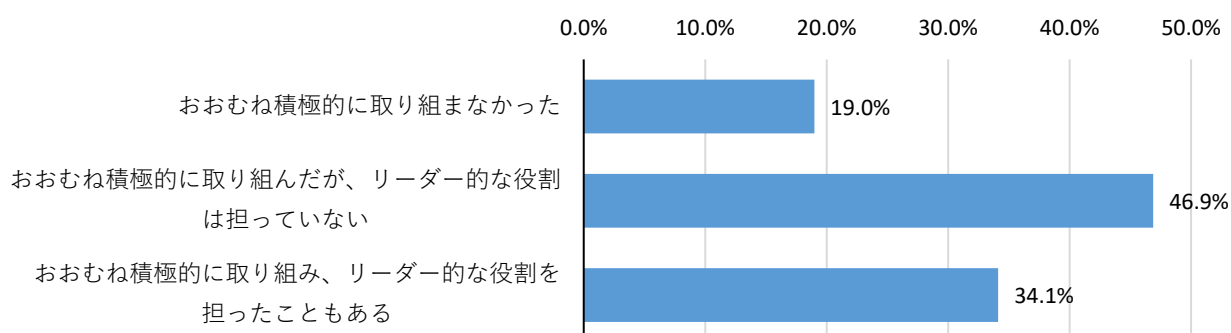
運動系	6,924
文化系	4,511
参加していない	1,915

Q07. あなたは高校生の頃、どのような部活動に参加していましたか。また、その取り組み方はどのようなものでしたか。全般的なイメージで、それぞれあてはまるものを選択してください。※複数の部活動に参加していた方は、とくに力を入れていた部活動についてお答えください。 - 取り組み方



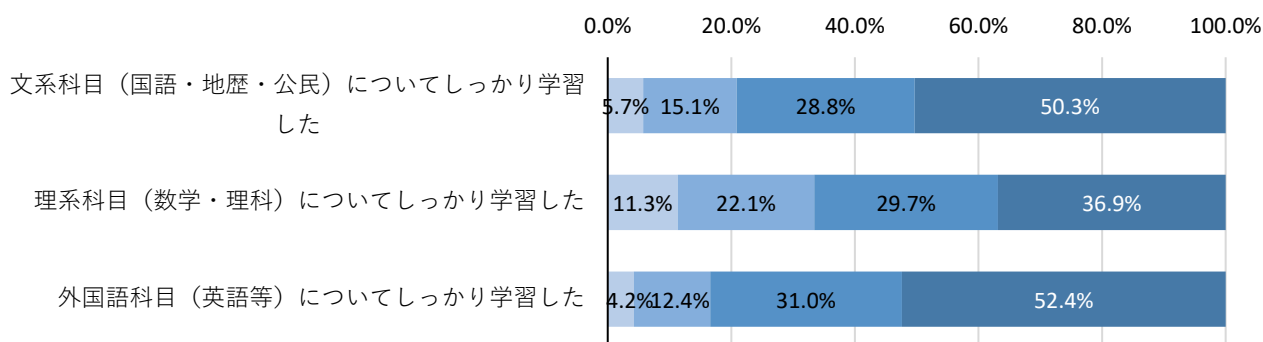
	おおむね積極的に取り組み、リーダー的な役割を担ったこともある	おおむね積極的に取り組んだが、リーダー的な役割は担っていない	おおむね積極的に取り組まなかった
部活動	5,321	4,947	1,083

Q08.高校時代の学校行事・課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）についてもお尋ねします。あなたはこれら学校行事・課外活動にどのように取り組んでいましたか。全般的なイメージであてはまるものを選択してください。



	おおむね積極的に取り組み、リーダー的な役割を担ったこともある	おおむね積極的に取り組んだが、リーダー的な役割は担っていない	おおむね積極的に取り組まなかった
学校行事・課外活動	6255	4555	2534

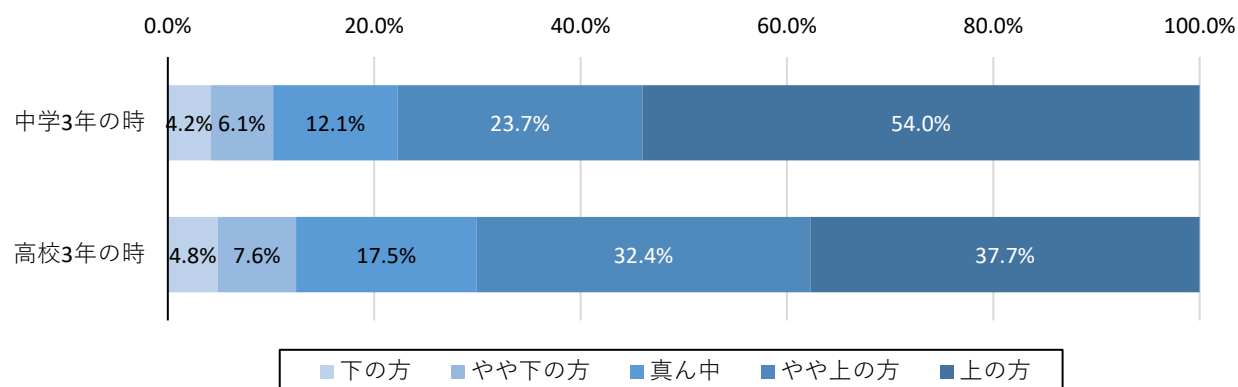
Q09. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



■ あてはまらない	■ あまりあてはまらない	■ ややあてはまる	■ あてはまる
-----------	--------------	-----------	---------

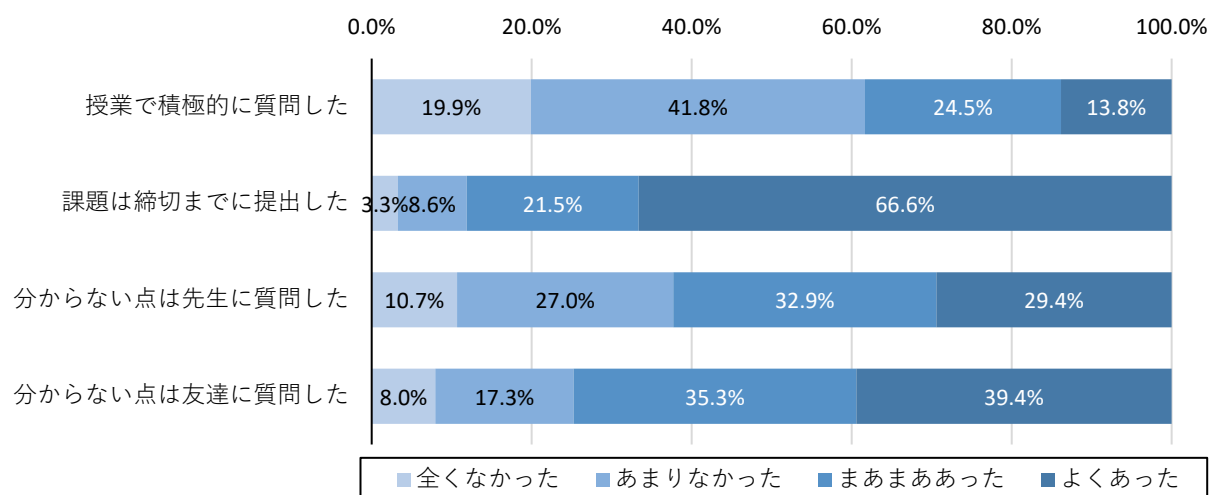
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
文系科目（国語・地歴・公民）についてしっかり学習した	764	2,012	3,834	6,694
理系科目（数学・理科）についてしっかり学習した	1,506	2,939	3,950	4,900
外国語科目（英語等）についてしっかり学習した	560	1,643	4,124	6,960

Q10. 中学 3 年の時と高校 3 年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



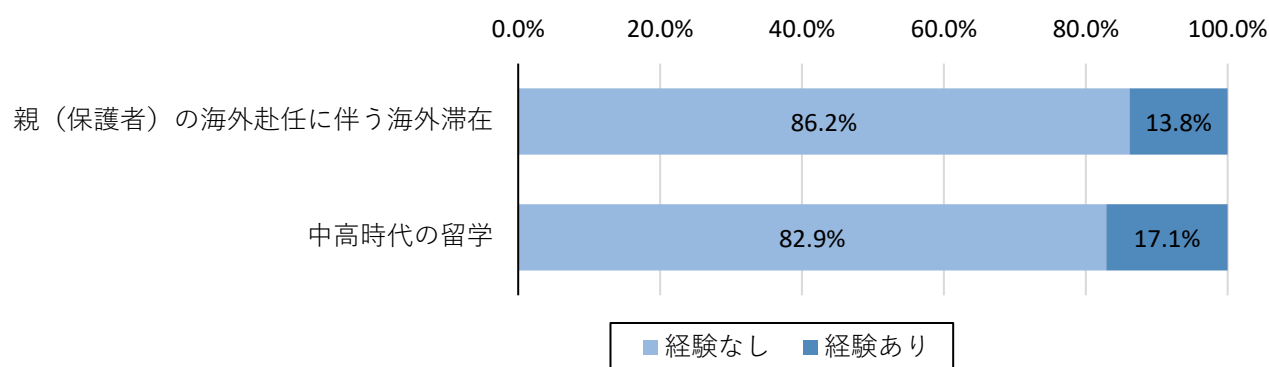
	下の方	やや下の方	真ん中	やや上の方	上の方
中学 3 年の時	552	807	1,603	3,156	7,180
高校 3 年の時	644	1,008	2,326	4,299	5,012

Q11. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



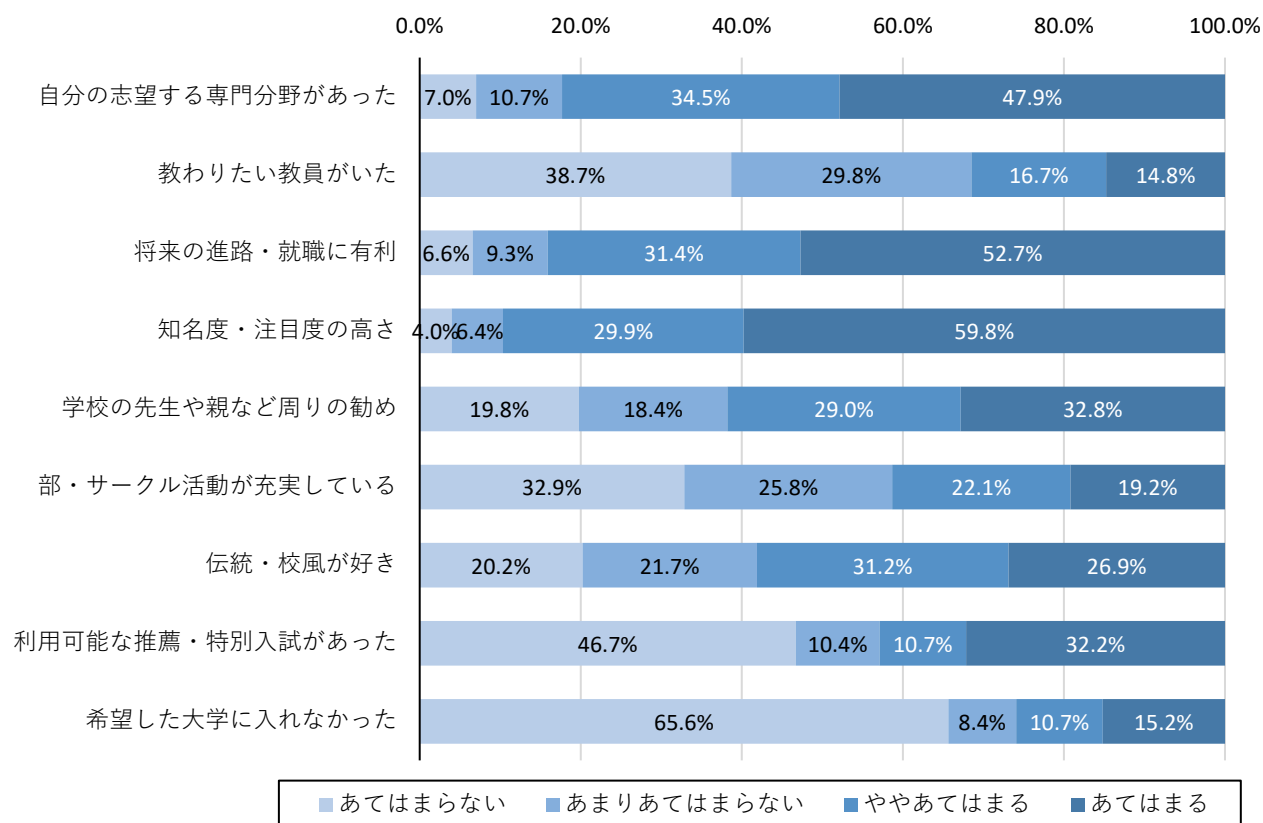
	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった
授業で積極的に質問した	2,651	5,560	3,261	1,842
課題は締切までに提出した	434	1,145	2,861	8,865
分からない点は先生に質問した	1,421	3,596	4,377	3,913
分からない点は友達に質問した	1,058	2,299	4,701	5,243

Q12. 大学入学以前の海外経験についてお答えください。



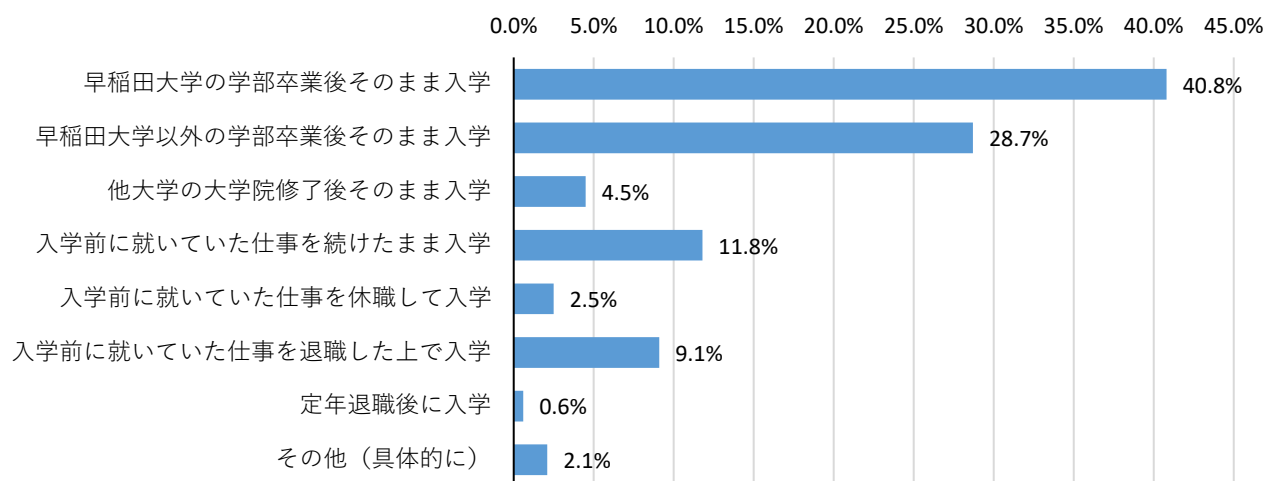
	経験なし	経験あり
親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在	11,406	1,830
中高時代の留学	10,981	2,264

Q13. あなたが早稲田大学（大学院）に進学した理由は何ですか。あてはまるものすべて選択してください。



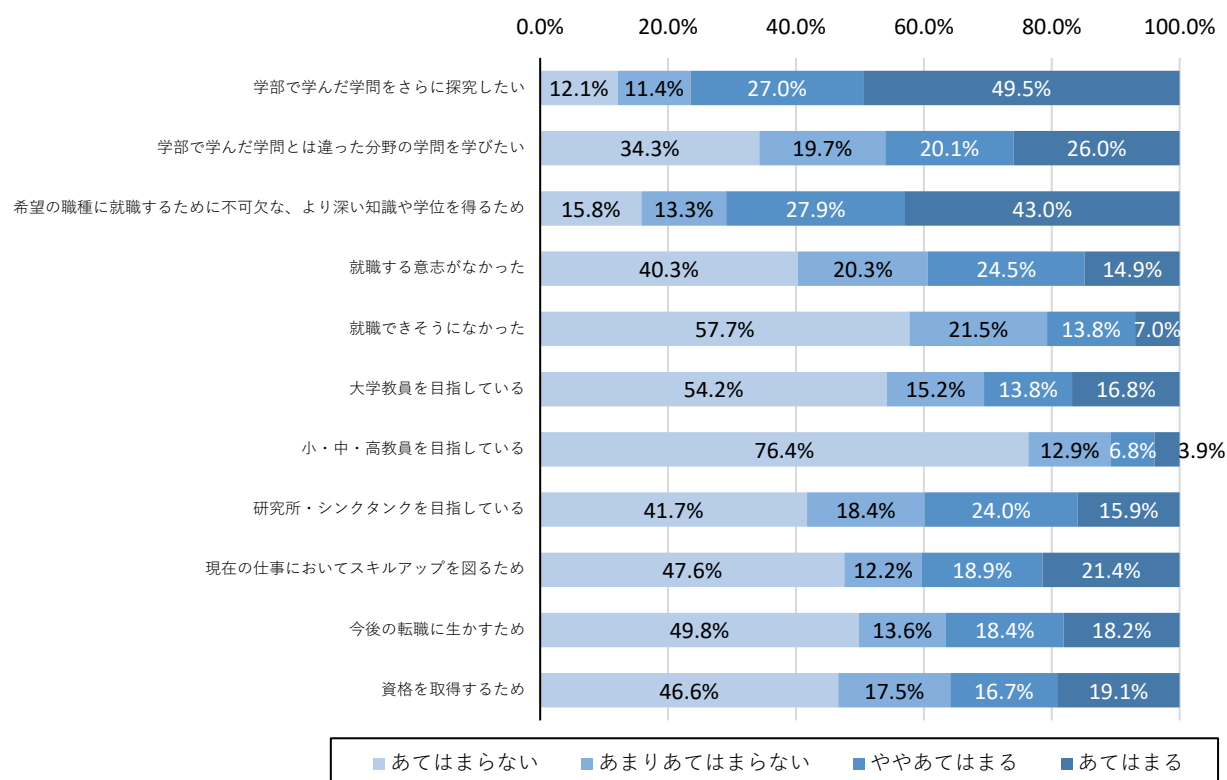
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
自分の志望する専門分野があった	915	1,393	4,497	6,248
教わりたい教員がいた	5,032	3,882	2,178	1,920
将来の進路・就職に有利	856	1,216	4,096	6,878
知名度・注目度の高さ	518	831	3,901	7,800
学校の先生や親など周りの勧め	2,574	2,401	3,772	4,275
部・サークル活動が充実している	4,277	3,358	2,882	2,496
伝統・校風が好き	2,629	2,818	4,062	3,496
利用可能な推薦・特別入試があった	6,090	1,355	1,401	4,192
希望した大学に入れなかった	8,543	1,098	1,397	1,976

Q14. (大学院生のみ) あなたの大学院入学までのキャリアについてあてはまるものを一つ選択してください。



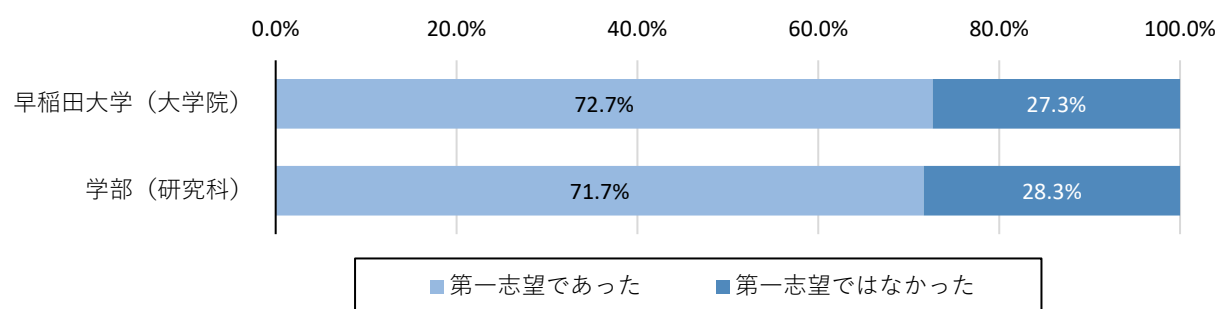
早稲田大学の学部卒業後そのまま入学	1,108
早稲田大学以外の学部卒業後そのまま入学	778
他大学の大学院修了後そのまま入学	123
入学前に就いていた仕事を続けたまま入学	319
入学前に就いていた仕事を休職して入学	69
入学前に就いていた仕事を退職した上で入学	246
定年退職後に入学	15
その他（具体的に）	56

Q15. (大学院生のみ) あなたが大学院に進学した理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。



	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
学部で学んだ学問をさらに探究したい	326	308	727	1,333
学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい	919	528	538	696
希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識や学位を得るため	426	357	752	1,156
就職する意志がなかった	1,080	545	657	398
就職できそうになかった	1,543	575	368	186
大学教員を目指している	1,454	407	369	451
小・中・高教員を目指している	2,041	345	182	105
研究所・シンクタンクを目指している	1,120	493	643	428
現在の仕事においてスキルアップを図るため	1,276	326	506	575
今後の転職に生かすため	1,336	366	493	487
資格を取得するため	1,249	470	448	513

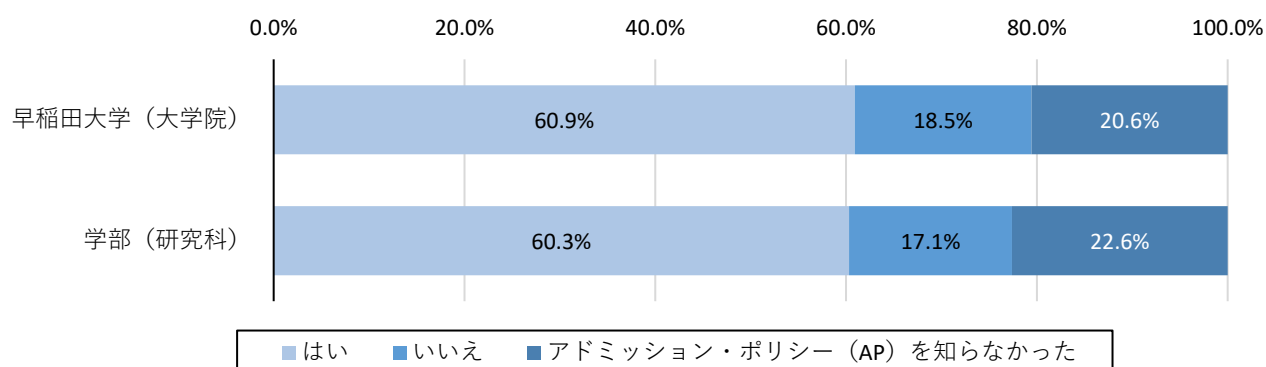
Q16. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



	第一志望であった	第一志望ではなかった
早稲田大学（大学院）	9,391	3,535
学部（研究科）	9,257	3,662

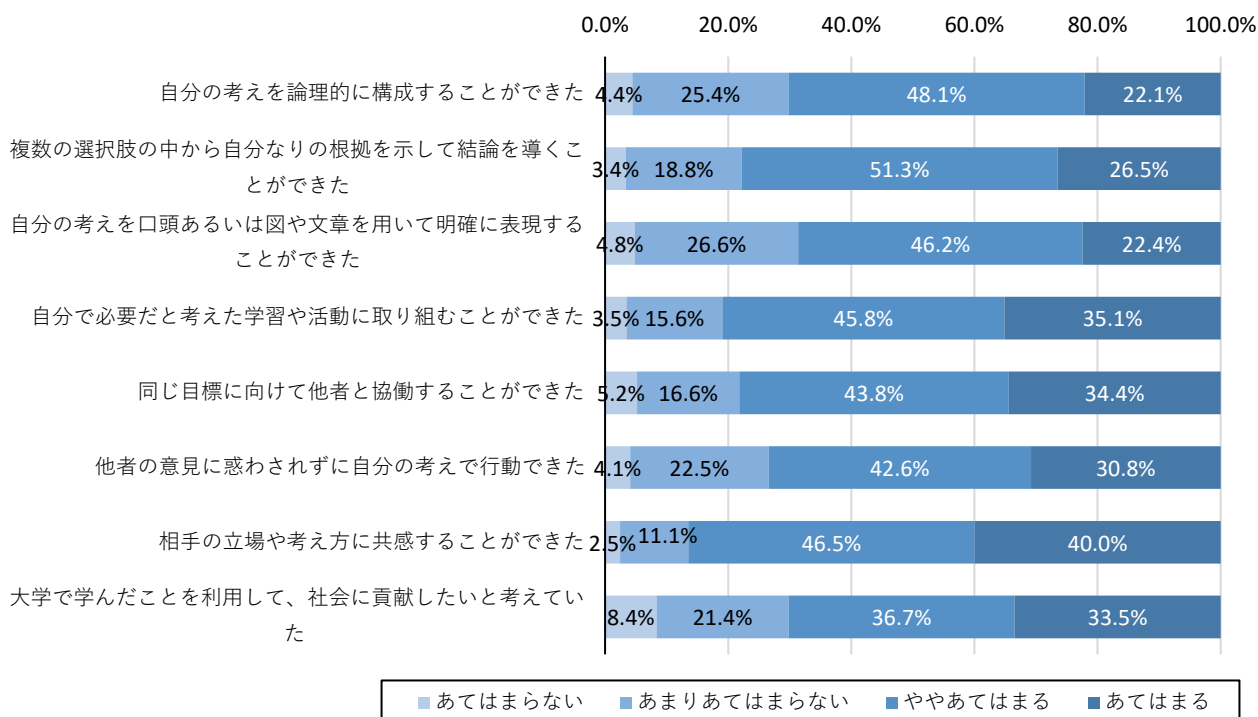
2. 学修状況

Q17. (学部 1 年生のみ) あなたは入学前に、早稲田大学のアドミッション・ポリシー (AP) を確認しましたか。



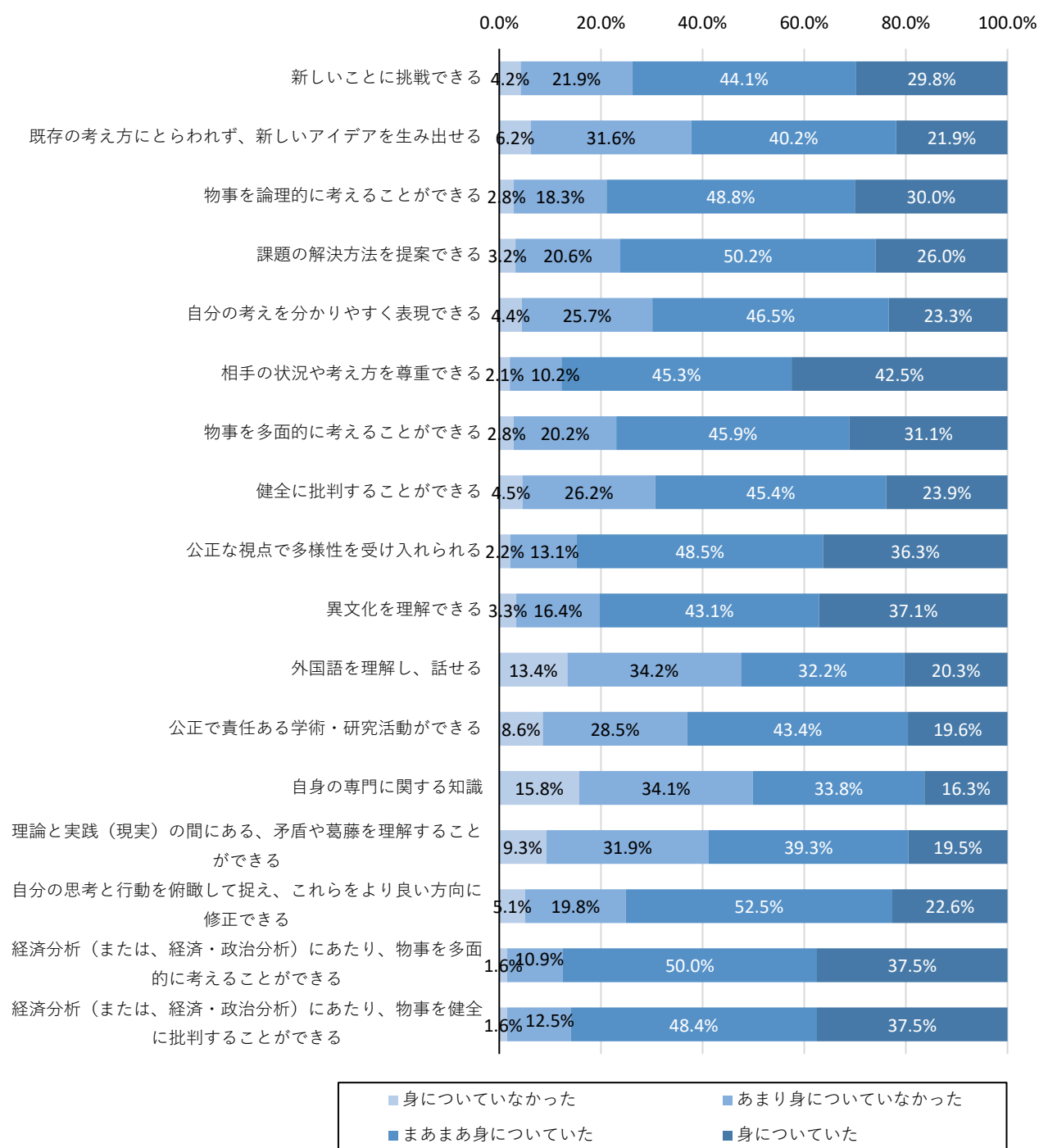
	はい	いいえ	アドミッション・ポリシー (AP) を知らなかった
早稲田大学 (大学院)	2,643	804	892
学部 (研究科)	2,575	729	965

Q18. あなたは大学 (大学院生の場合、大学院) 入学の時点で、次のことはどの程度あてはまっていたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



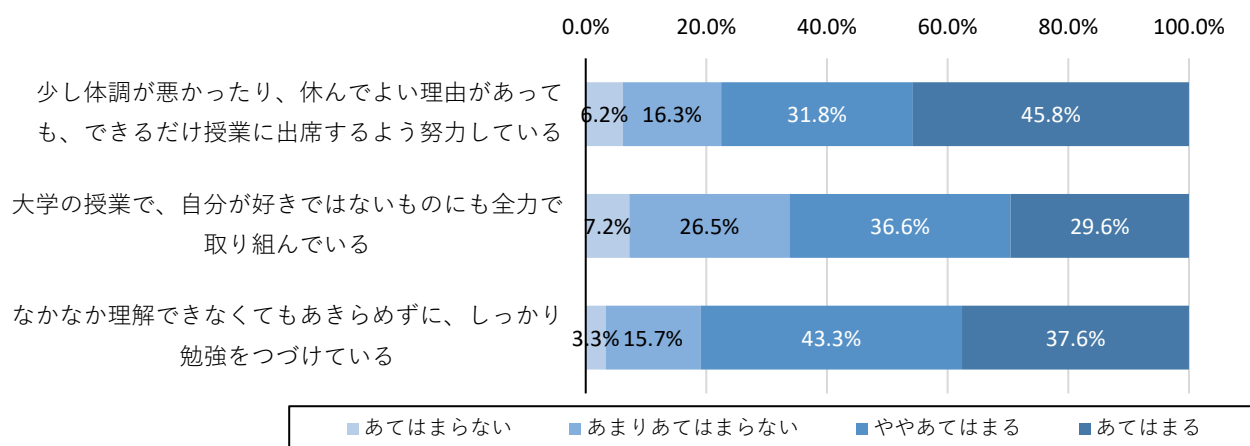
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
自分の考えを論理的に構成することができた	580	3,305	6,272	2,880
複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	441	2,447	6,686	3,451
自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	625	3,461	6,019	2,916
自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	454	2,027	5,967	4,574
同じ目標に向けて他者と協働することができた	675	2,165	5,696	4,481
他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	530	2,928	5,549	4,011
相手の立場や考え方に共感することができた	319	1,441	6,054	5,203
大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	1,091	2,791	4,784	4,359

Q19. 【大学（学部・大学院）入学時】に、次のようなことは、どれくらい身に付いていたと考えていましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



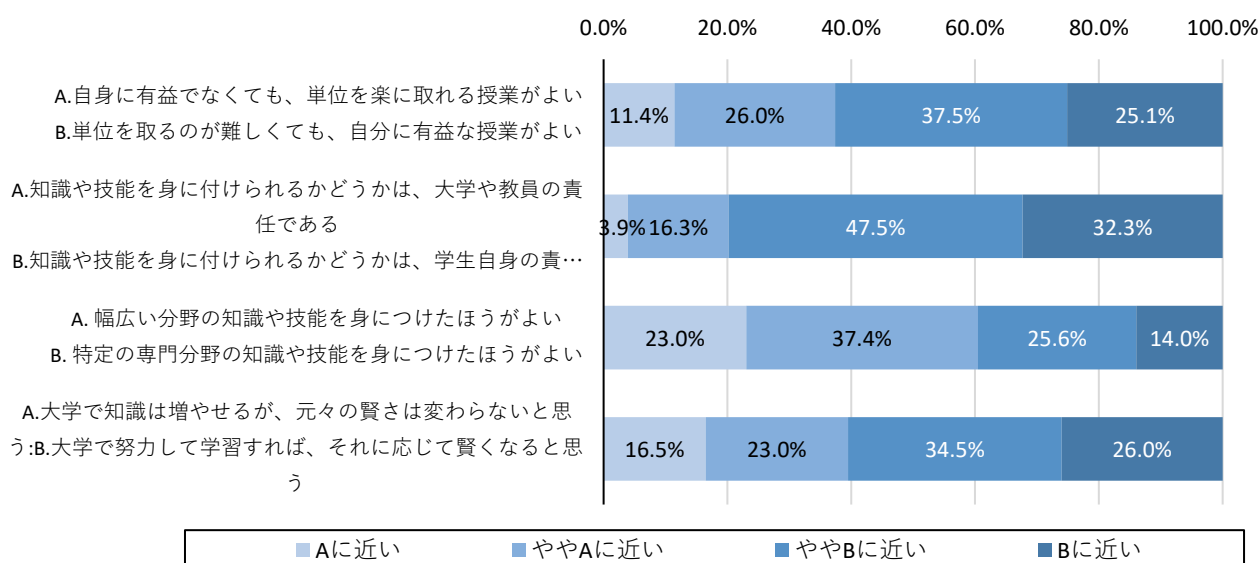
	身についていなかった	あまり身についていなかった	まあまあ身についていた	身についていた
新しいことに挑戦できる	553	2,867	5,762	3,894
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	807	4,136	5,260	2,868
物事を論理的に考えることができる	372	2,389	6,381	3,925
課題の解決方法を提案できる	416	2,690	6,556	3,386
自分の考えを分かりやすく表現できる	578	3,358	6,079	3,049
相手の状況や考え方を尊重できる	270	1,329	5,911	5,545
物事を多面的に考えることができる	371	2,639	5,998	4,061
健全に批判することができる	594	3,416	5,936	3,116
公正な視点で多様性を受け入れられる	282	1,709	6,330	4,741
異文化を理解できる	437	2,146	5,635	4,843
外国語を理解し、話せる	1,749	4,460	4,199	2,647
公正で責任ある学術・研究活動ができる	1,117	3,717	5,671	2,557
自身の専門に関する知識	2057	4456	4414	2131
理論と実践（現実）の間にある、矛盾や葛藤を理解することができる	58	200	246	122
自分の思考と行動を俯瞰して捉え、これらをより良い方向に修正できる	32	124	329	142
経済分析（または、経済・政治分析）にあたり、物事を多面的に考えることができる	1	7	32	24
経済分析（または、経済・政治分析）にあたり、物事を健全に批判することができる	1	8	31	24

Q20. 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。大学（大学院）入学以降の状況をお答えください。
それぞれあてはまるものを選択してください。



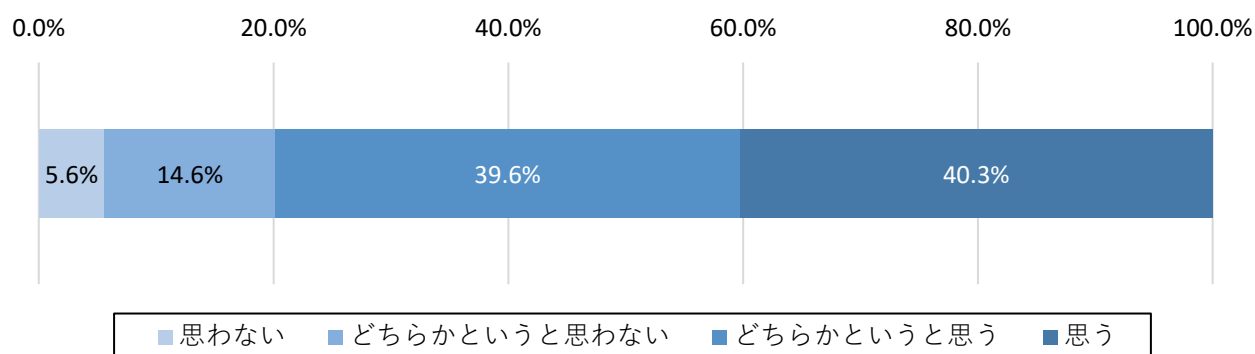
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ授業に出席するよう努力している	778	2,061	4,014	5,784
大学の授業で、自分が好きではないものにも全力で取り組んでいる	912	3,353	4,628	3,737
なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかり勉強をつづけている	416	1,987	5,475	4,752

Q21. 大学教育について、「現在の」あなたの考え方で、A、B により近い方をそれぞれ一つ選択してください。



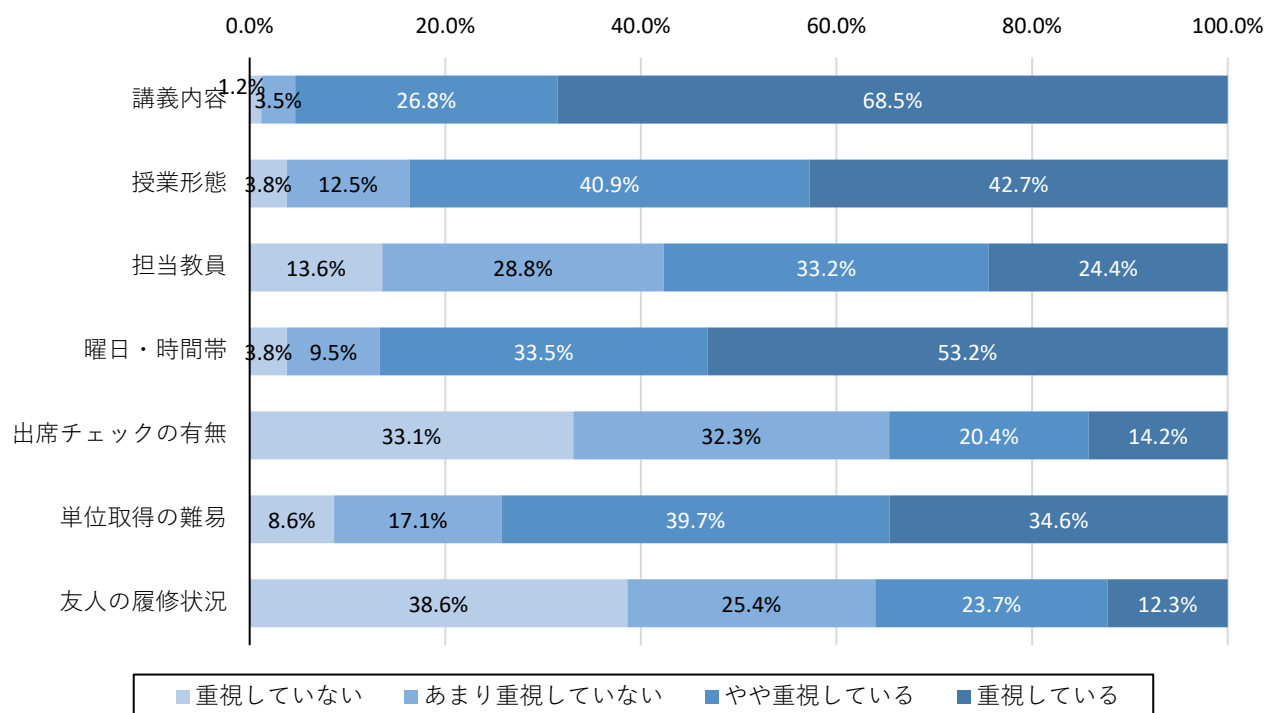
	Aに近い	やや A に 近い	やや B に 近い	Bに近い
A.自身に有益でなくても、単位を楽に取れる授業がよい B.単位を取るのが難しくても、自分に有益な授業がよい	1,445	3,279	4,734	3,175
A.知識や技能を身に付けられるかどうかは、大学や教員の責任である B.知識や技能を身に付けられるかどうかは、学生自身の責任である	495	2,057	5,996	4,082
A.幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい B.特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい	2,909	4,728	3,228	1,763
A.大学で知識は増やせるが、元々の賢さは変わらないと思う B.大学で努力して学習すれば、それに応じて賢くなると思う	2081	2905	4357	3282

Q22. あなたは大学（学部・大学院）での授業や研究・勉強が、あなたの今後の進路先で役に立つと思いますか。あてはまるもの一つを選択してください。



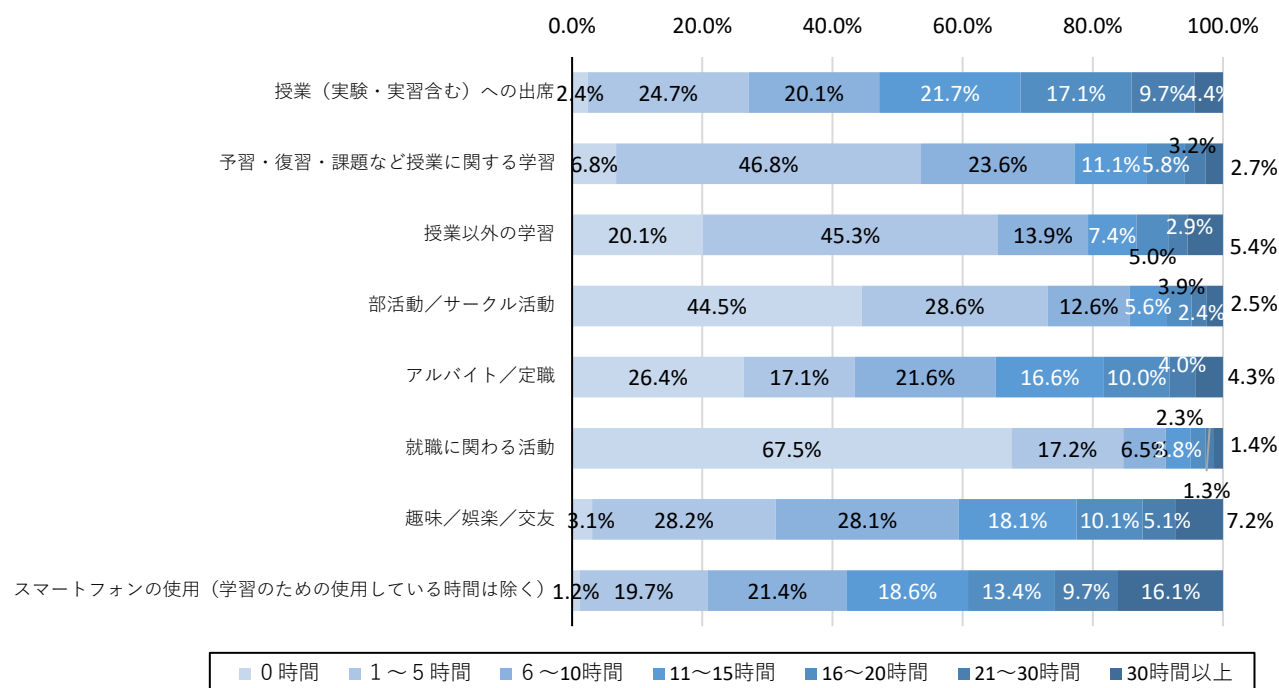
思わない	どちらかというと思わない	どちらかというと思う	思う
702	1,840	5,004	5,087

Q23. あなたが授業を選ぶ際に重視することは何ですか。あてはまるものすべて選択してください。



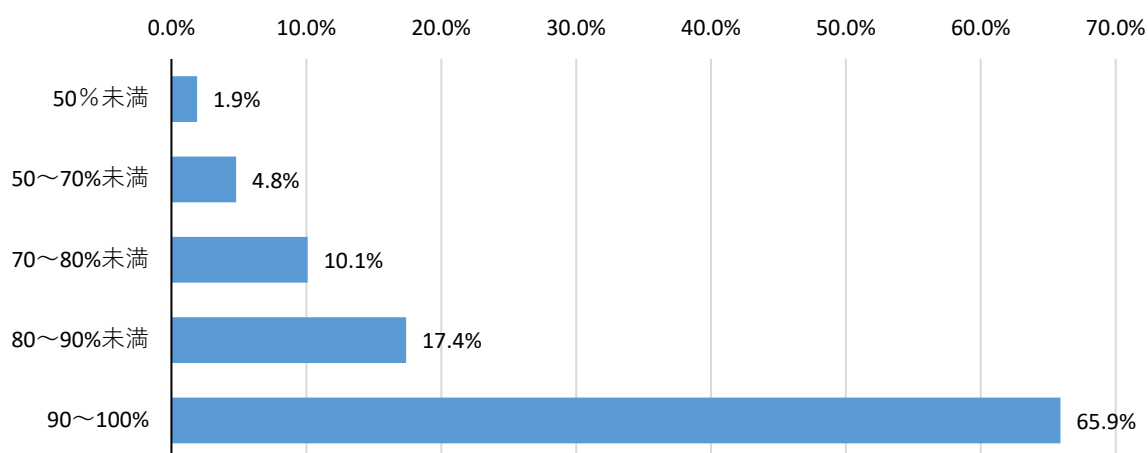
	重視してい ない	あまり重視 していない	やや重視 している	重視してい る
講義内容	150	437	3,389	8,651
授業形態	480	1,580	5,164	5,390
担当教員	1,711	3,630	4,191	3,082
曜日・時間帯	483	1,196	4,226	6,711
出席チェックの有無	4,177	4,077	2,572	1,796
単位取得の難易	1,090	2,162	5,009	4,366
友人の履修状況	4,872	3,199	2,994	1,550

Q24. 現在の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、あてはまる時間数を選択してください。それぞれあてはまるものを選択してください。



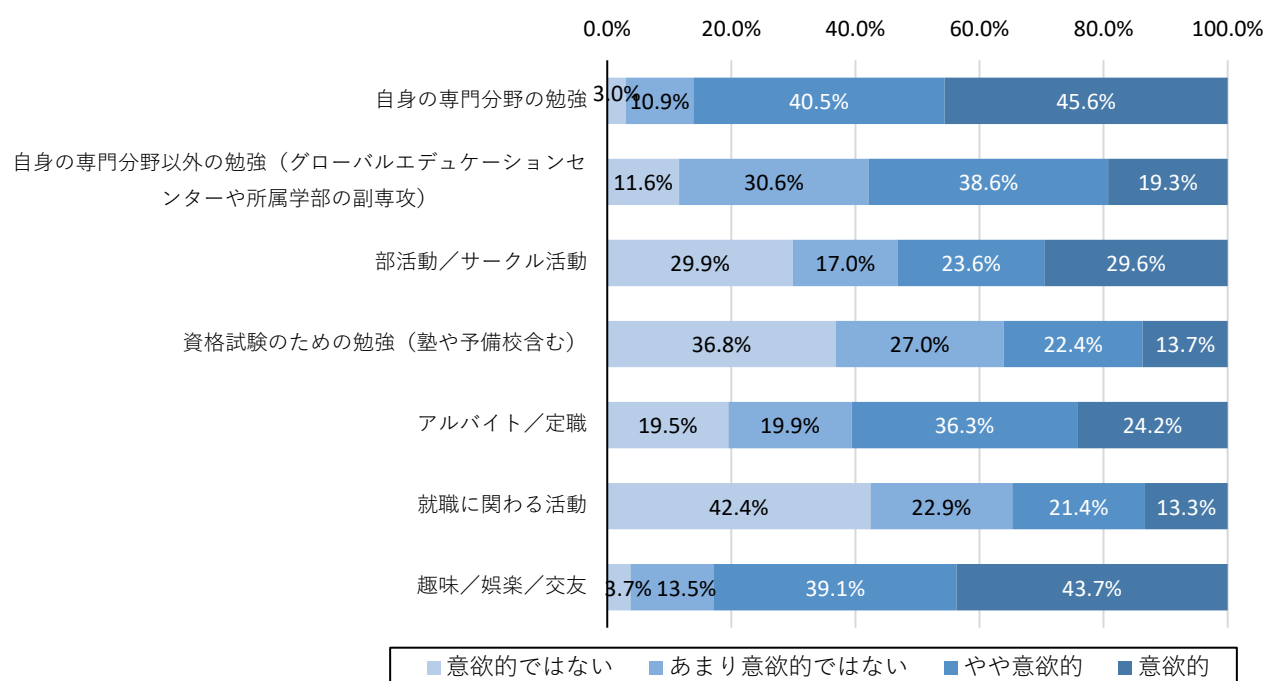
	0時間	1～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	21～30時間	30時間以上
授業（実験・実習含む）への出席	303	3,117	2,532	2,737	2,153	1,219	553
予習・復習・課題など授業に関する学習	853	5,902	2,971	1,404	734	397	340
授業以外の学習	2,526	5,693	1,742	932	625	363	683
部活動／サークル活動	5,592	3,594	1,586	702	490	296	312
アルバイト／定職	3,319	2,152	2,721	2,096	1,264	501	537
就職に関わる活動	8,476	2,158	817	475	291	166	174
趣味／娯楽／交友	386	3,545	3,538	2,273	1,275	644	910
スマートフォンの使用 （学習のための使用している時間は除く）	145	2,474	2,694	2,342	1,682	1,219	2,029

Q25. 大学（大学院）入学以降、あなたの授業平均出席率はどれくらいですか。もっともあてはまるものを一つ選択してください。



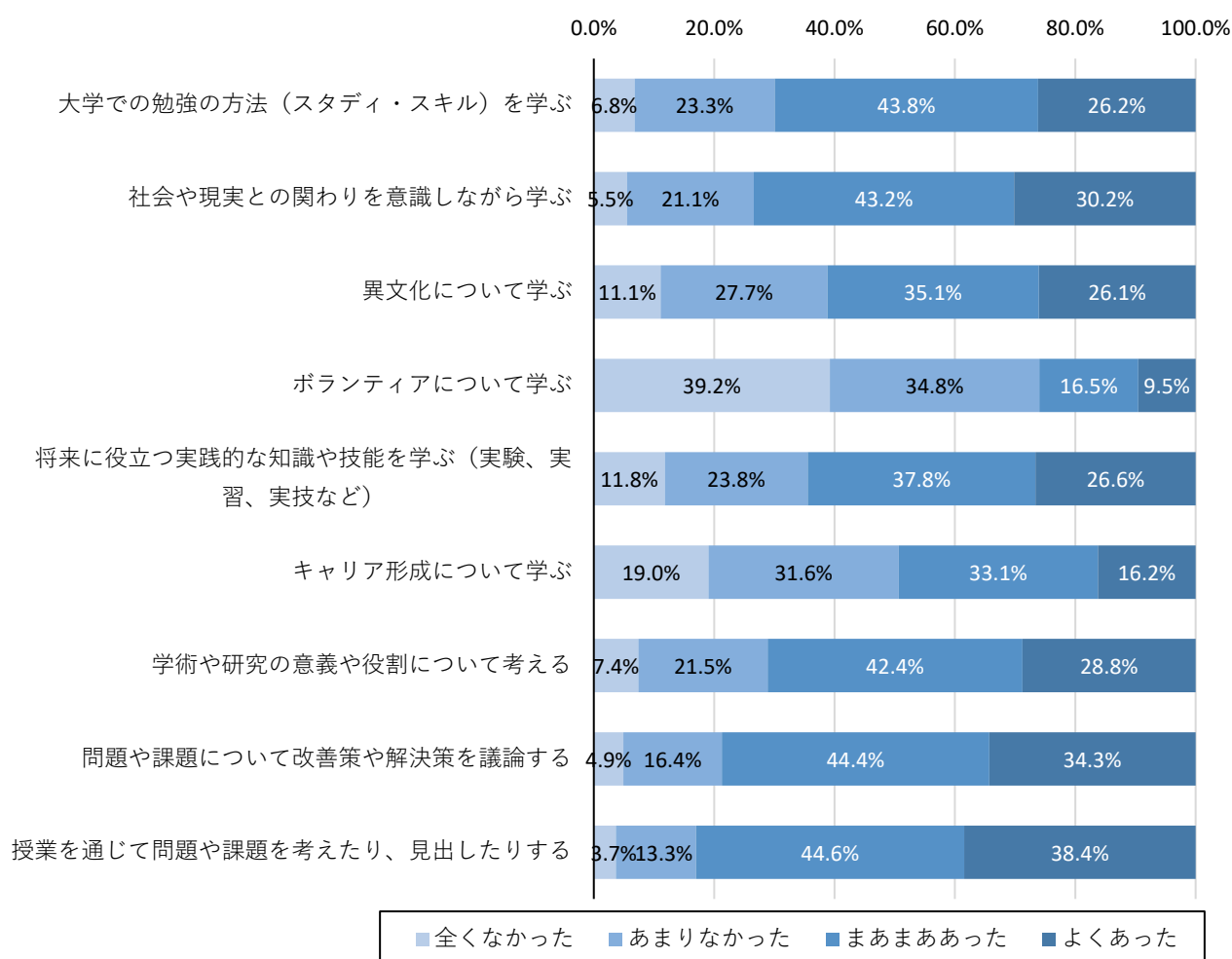
50%未満	243
50～70%未満	604
70～80%未満	1,269
80～90%未満	2,193
90～100%	8,309

Q26. あなたは大学（大学院）入学以降、次のことにどれほど意欲的に取り組んできましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



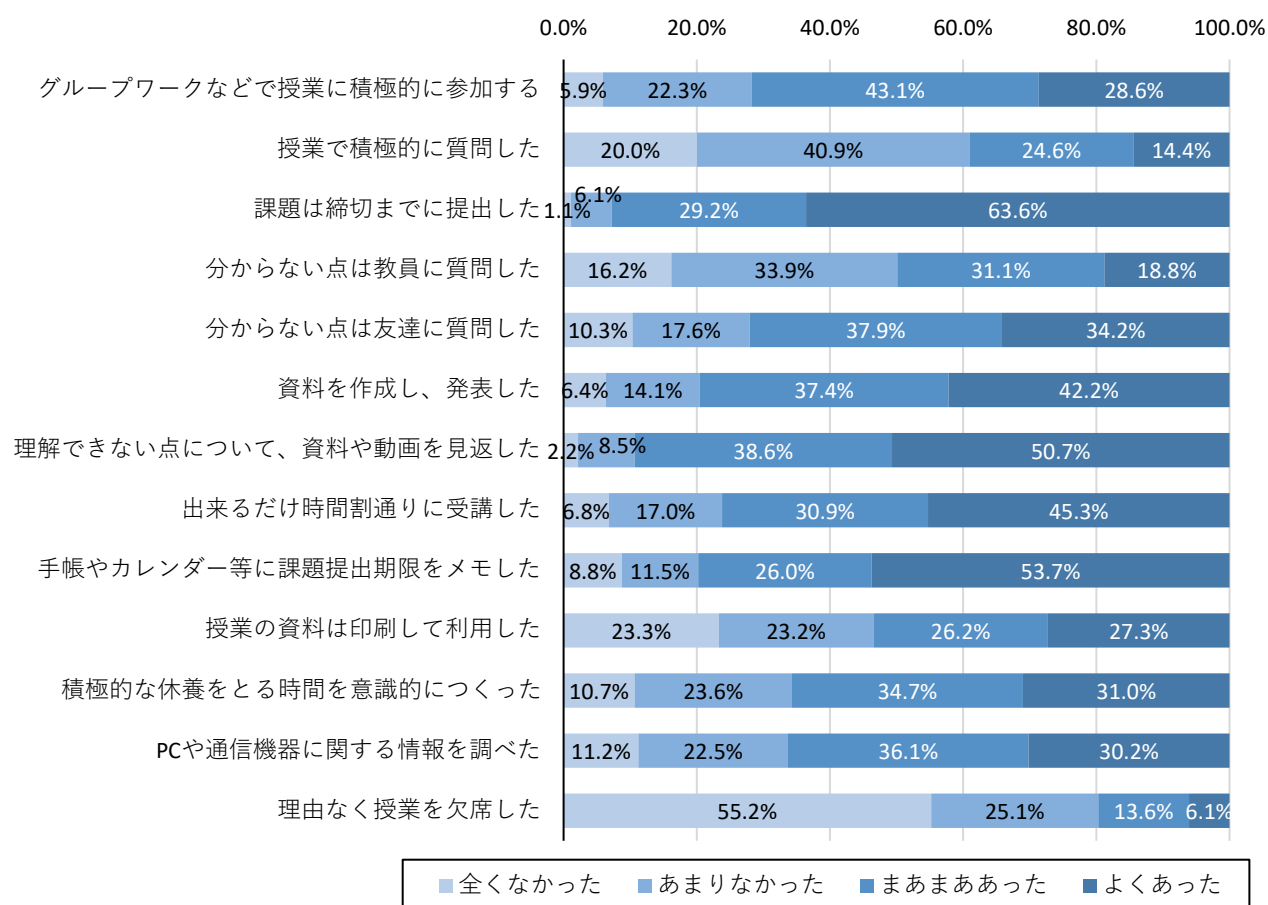
	意欲的ではない	あまり意欲的ではない	やや意欲的	意欲的
自身の専門分野の勉強	380	1,367	5,104	5,748
自身の専門分野以外の勉強（グローバルエデュケーションセンターや所属学部の副専攻）	1,459	3,853	4,856	2,427
部活動／サークル活動	3,758	2,134	2,967	3,716
資格試験のための勉強（塾や予備校含む）	4,633	3,401	2,819	1,722
アルバイト／定職	2,455	2,502	4,572	3,050
就職に関わる活動	5,331	2,874	2,685	1,676
趣味／娯楽／交友	470	1,697	4,922	5,503

Q27. あなたは大学（大学院）入学以降、次のことをどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



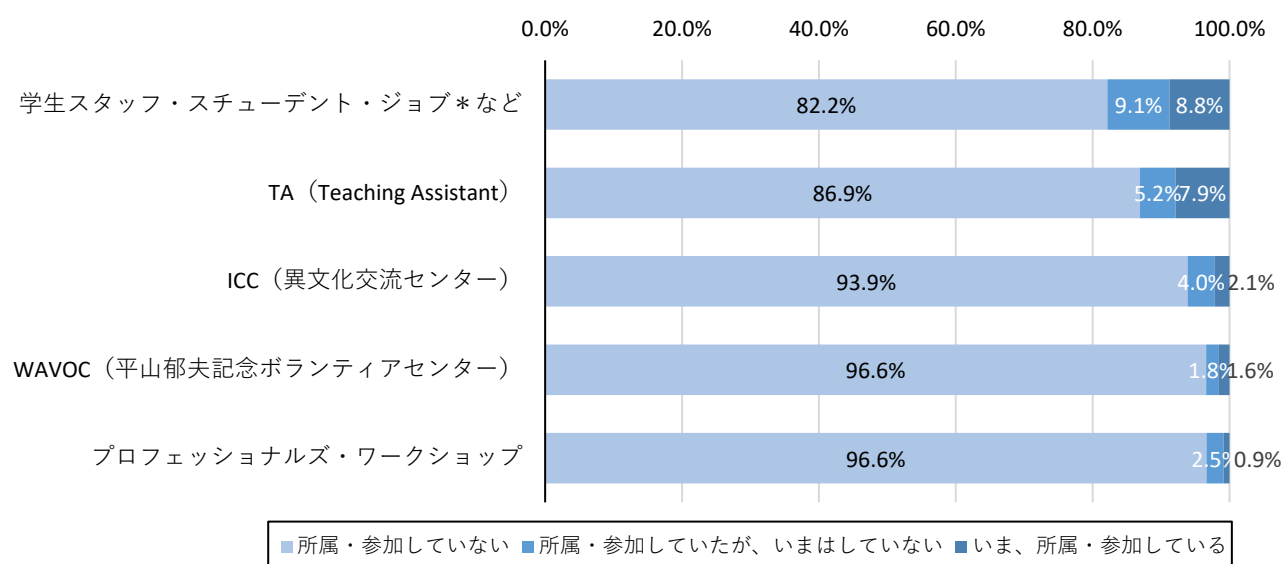
	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ	853	2,936	5,516	3,301
社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	695	2,653	5,449	3,802
異文化について学ぶ	1,398	3,489	4,423	3,281
ボランティアについて学ぶ	4,938	4,378	2,071	1,199
将来に役立つ実践的な知識や技能を学ぶ（実験、実習、実技など）	1,485	2,993	4,765	3,351
キャリア形成について学ぶ	2,398	3,983	4,167	2,045
学術や研究の意義や役割について考える	932	2,704	5,331	3,620
問題や課題について改善策や解決策を議論する	619	2,060	5,596	4,319
授業を通じて問題や課題を考えたり、見出したりする	460	1,678	5,612	4,841

Q28. 大学（大学院）入学以降のあなたについて、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



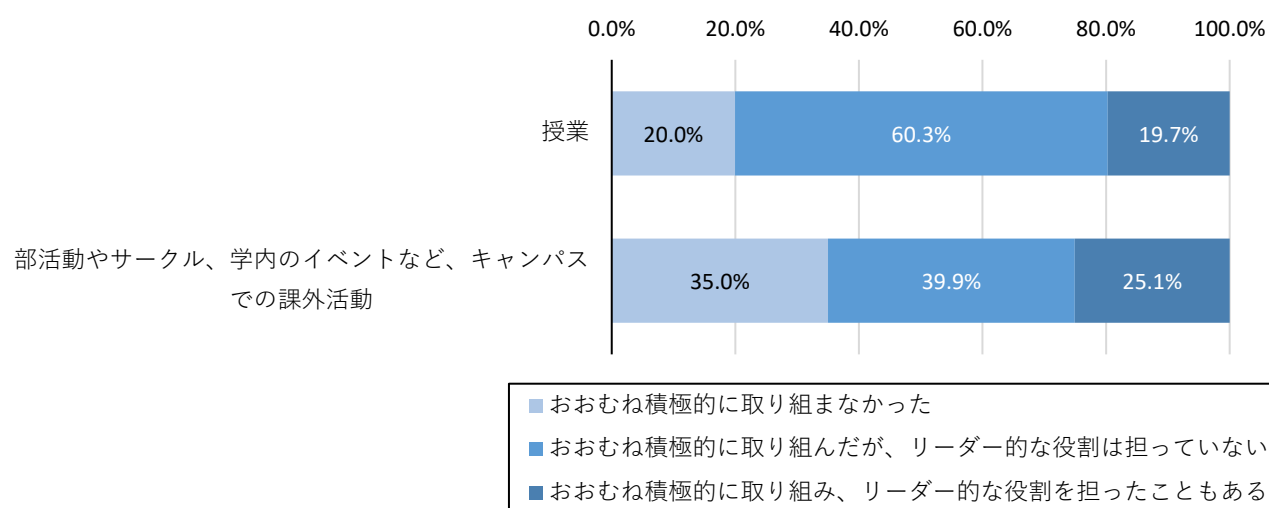
	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった
グループワークなどで授業に積極的に参加する	744	2,811	5,435	3,607
授業で積極的に質問した	2,522	5,155	3,098	1,818
課題は締切までに提出した	141	769	3,675	8,005
分からない点は教員に質問した	2,037	4,275	3,915	2,366
分からない点は友達に質問した	1,300	2,216	4,769	4,300
資料を作成し、発表した	800	1,774	4,702	5,309
理解できない点について、資料や動画を見返した	273	1,072	4,864	6,381
出来るだけ時間割通りに受講した	855	2,143	3,894	5,699
手帳やカレンダー等に課題提出期限をメモした	1,103	1,443	3,277	6,764
授業の資料は印刷して利用した	2,932	2,920	3,296	3,429
積極的な休養をとる時間を意識的につくった	1,340	2,974	4,363	3,901
PC や通信機器に関する情報を調べた	1,412	2,830	4,545	3,797
理由なく授業を欠席した	6,946	3,158	1,713	766

Q29. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動に所属、参加していますか。それぞれの内容についてあてはまるものを選択してください。



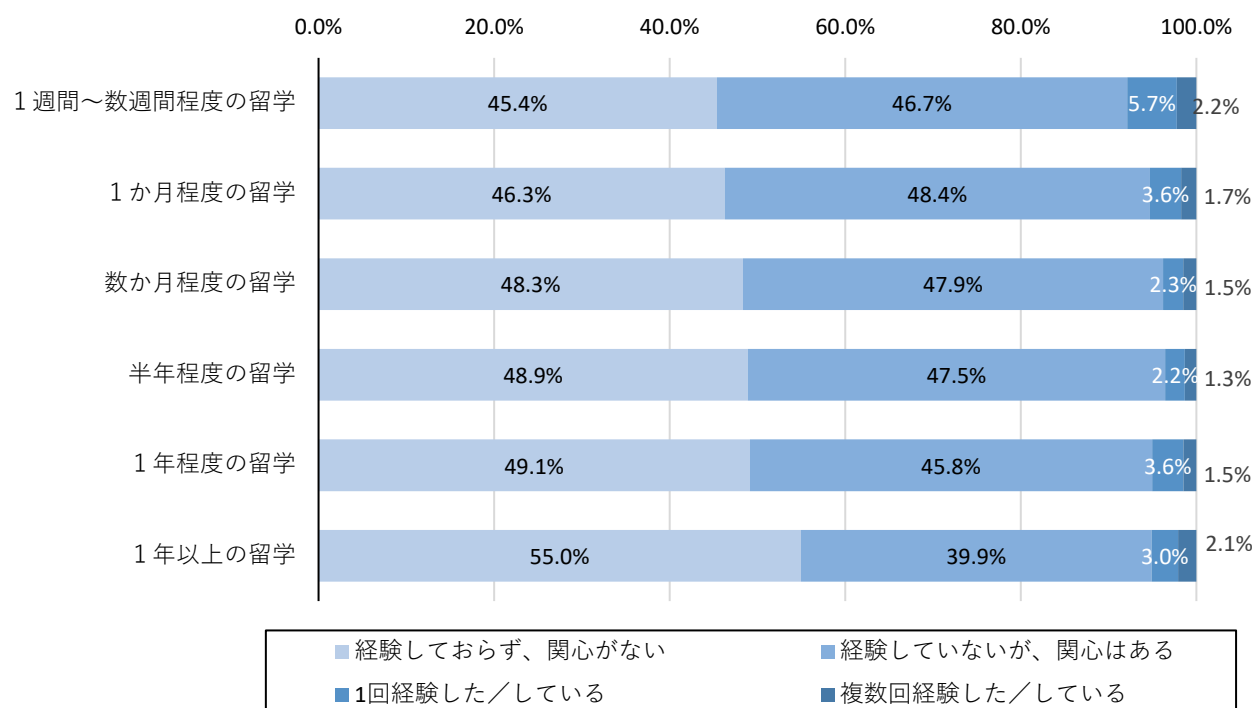
	所属・参加し ていない	所属・参加し ていたが、いま はしていない	いま、所属・ 参加している
学生スタッフ・スチューデント・ジョブ＊など	10,153	1,120	1,083
TA（Teaching Assistant）	10,567	635	959
ICC（異文化交流センター）	11,398	483	261
WAVOC（平山郁夫記念ボランティアセンター）	11,691	217	197
プロフェッショナルズ・ワークショップ	11,598	298	105

Q30. 「リーダー」という観点からこれまでのあなたの大学での生活を振り返ると、どのようになりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



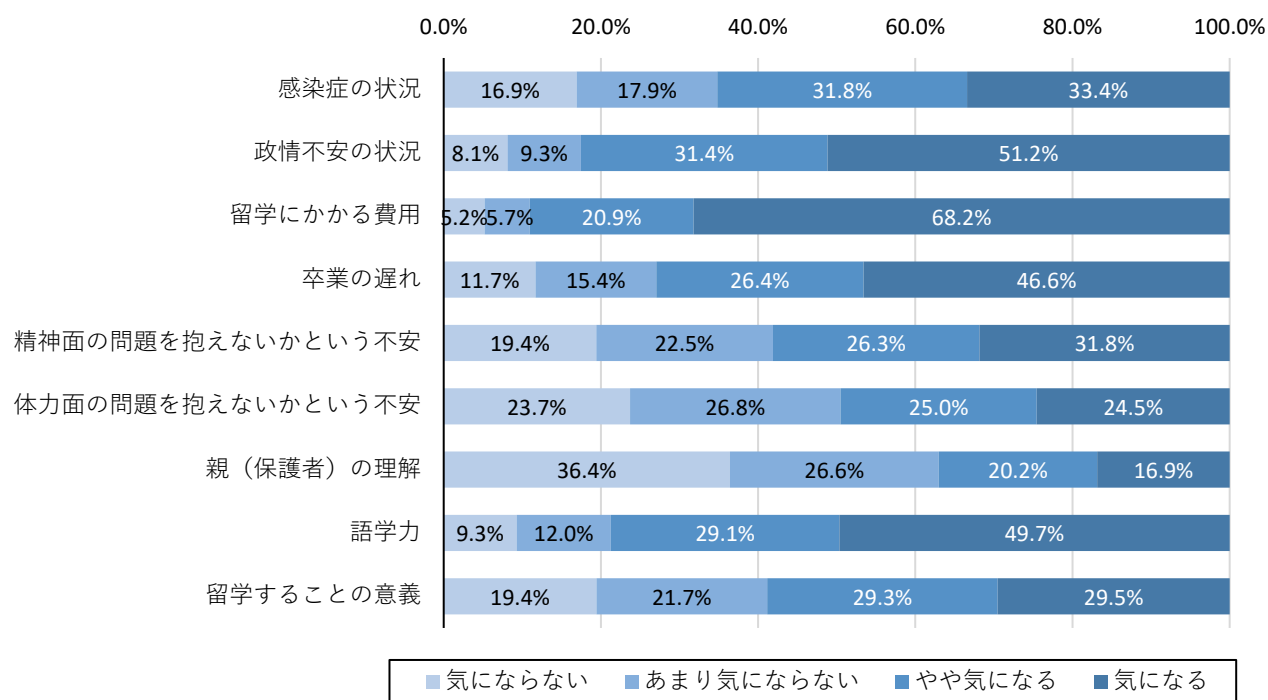
	おおむね積極的 に取り組まなかつ た	おおむね積極的 に取り組んだが、 リーダー的な役割 は担っていない	おおむね積極的 に取り組み、リー ダー的な役割を 担ったこともある
授業	2,465	7,443	2,437
部活動やサークル、学内のイベントなど、キャンパスでの 課外活動	4,394	5,012	3,145

Q31. 大学（大学院）入学以降の【留学経験】について、あなたの状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。



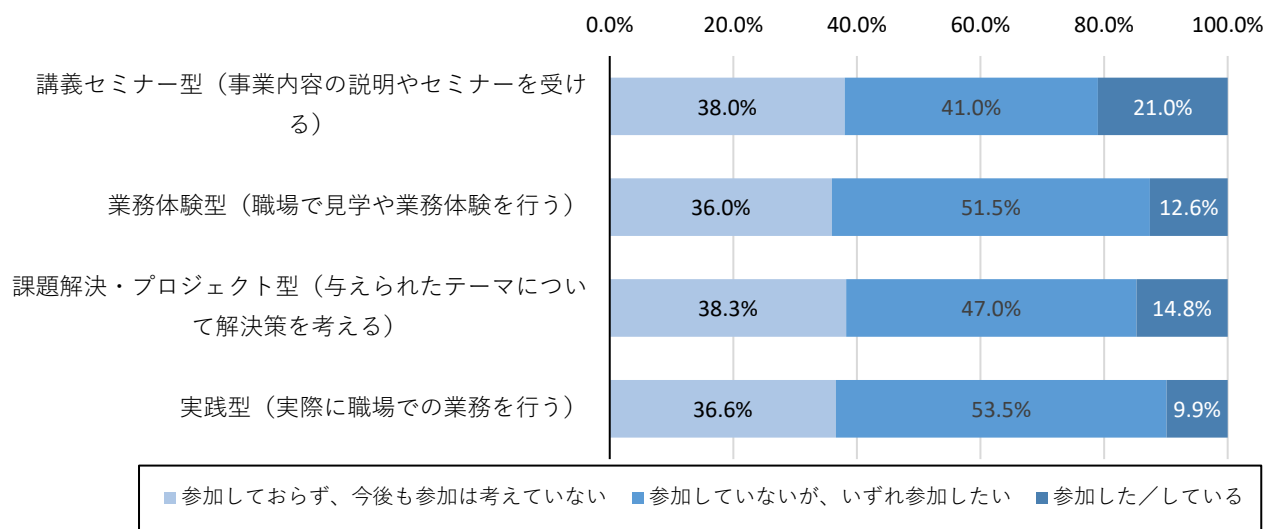
	経験しておらず、 関心がない	経験していない が、関心はある	1回経験した／ している	複数回経験した ／している
1週間～数週間程度の留学	5,634	5,802	703	276
1か月程度の留学	5,709	5,976	439	213
数か月程度の留学	5,952	5,893	282	184
半年程度の留学	6,004	5,837	275	161
1年程度の留学	6,034	5,626	438	181
1年以上の留学	6,712	4,878	370	253

Q32. 留学を考えるにあたって、以下のことはどれほど気になりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



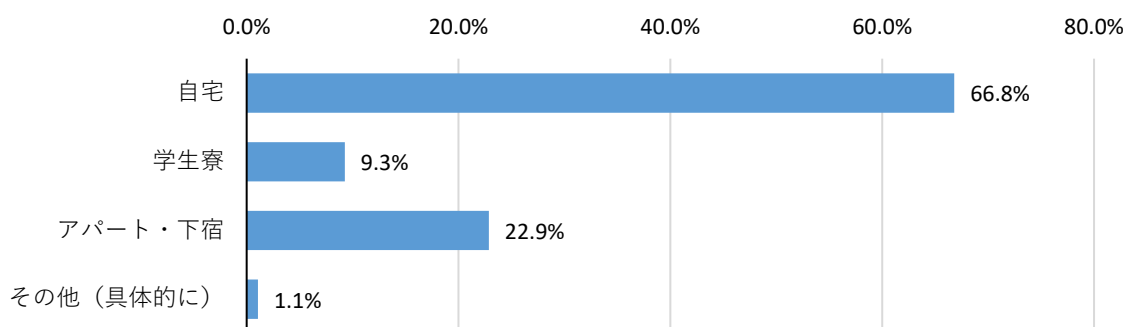
	気にならない	あまり気にならない	やや気になる	気になる
感染症の状況	2,123	2,248	3,989	4,194
政情不安の状況	1,019	1,171	3,937	6,419
留学にかかる費用	652	721	2,617	8,558
卒業の遅れ	1,463	1,926	3,305	5,839
精神面の問題を抱えないかという不安	2,434	2,819	3,295	3,994
体力面の問題を抱えないかという不安	2,974	3,361	3,132	3,079
親（保護者）の理解	4,566	3,331	2,529	2,113
語学力	1,163	1,506	3,647	6,230
留学することの意義	2,438	2,726	3,676	3,703

Q33. 大学（大学院）入学以降の【インターンシップ経験】について、あなたの状況をお答えください。
 それぞれあてはまるものを選択してください。



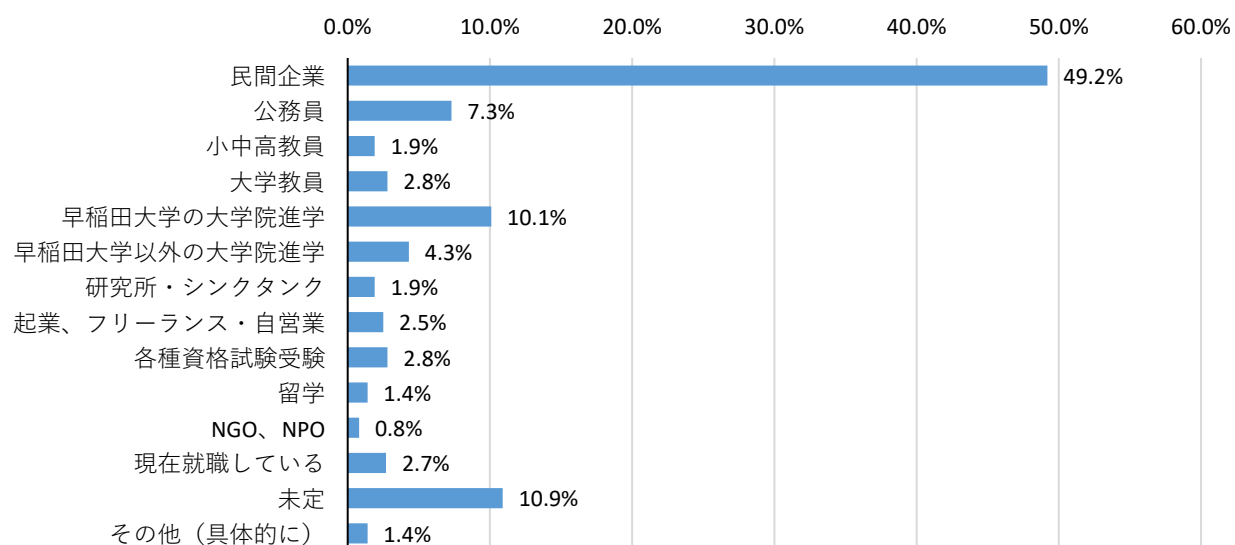
	参加しておらず、今後も参加は考えていない	参加していないが、いずれ参加したい	参加した／している
講義セミナー型（事業内容の説明やセミナーを受ける）	4,768	5,139	2,633
業務体験型（職場で見学や業務体験を行う）	4,493	6,429	1,573
課題解決・プロジェクト型（与えられたテーマについて解決策を考える）	4,772	5,859	1,840
実践型（実際に職場での業務を行う）	4,524	6,615	1,221

Q34. いま現在の居住形態をお答えください。あてはまるものを選択・記入してください。



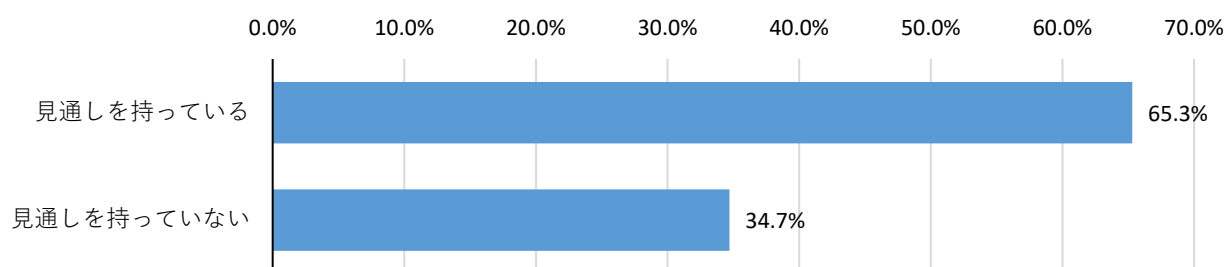
	自宅	学生寮	アパート・下宿	その他（具体的に）
現在の居住形態	8,439	1,171	2,889	135

Q35. 現在、あなたは学部・大学院卒業後、どのような進路を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。内定している場合には、内定先を選択してください。



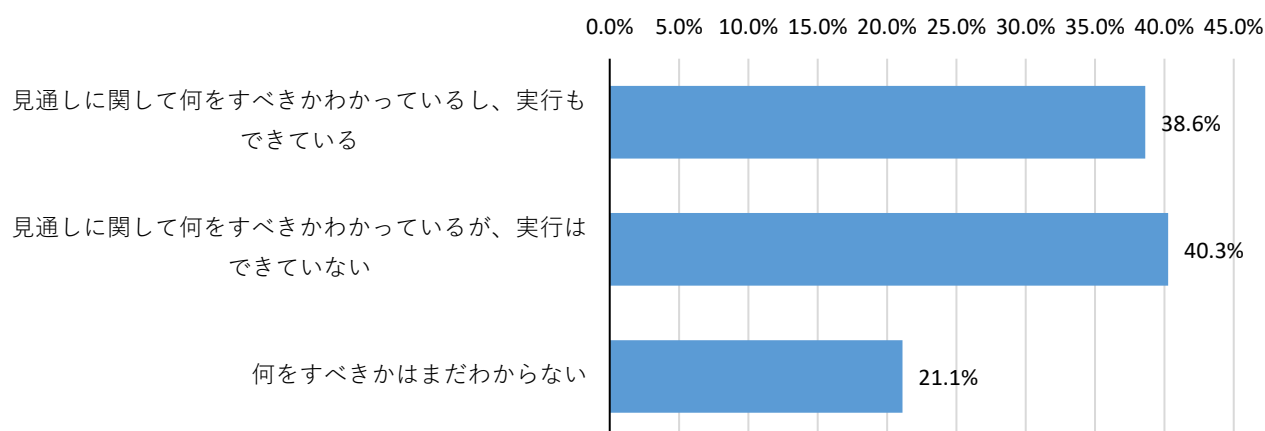
民間企業	6,207
公務員	925
小中高教員	240
大学教員	355
早稲田大学の大学院進学	1,269
早稲田大学以外の大学院進学	549
研究所・シンクタンク	237
起業、フリーランス・自営業	315
各種資格試験受験	355
留学	178
NGO、NPO	97
現在就職している	343
未定	1,373
その他（具体的に）	178

Q36. あなたは、自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。また、持っている場合は、その見通しに関するいまの状況についてもお答えください。最もあてはまるものを選択してください。-見通し



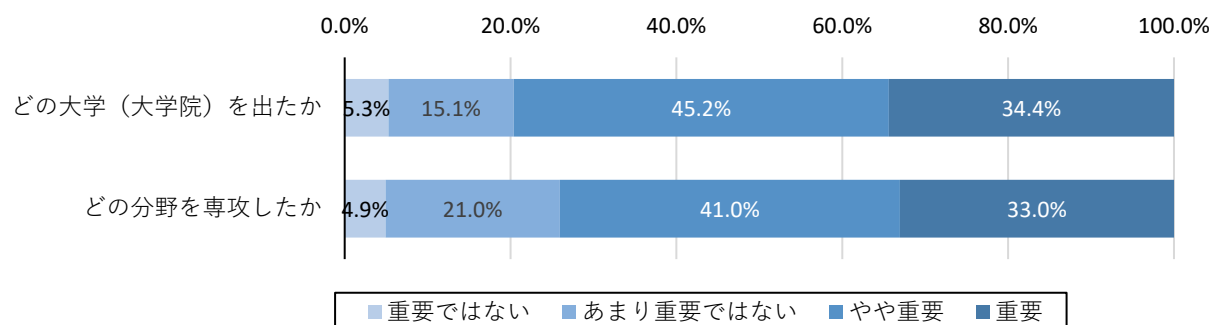
見通しを持っている	8,206
見通しを持っていない	4,353

Q37. あなたは、自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。また、持っている場合は、その見通しに関するいまの状況についてもお答えください。最もあてはまるものを選択してください。-見通しの状況



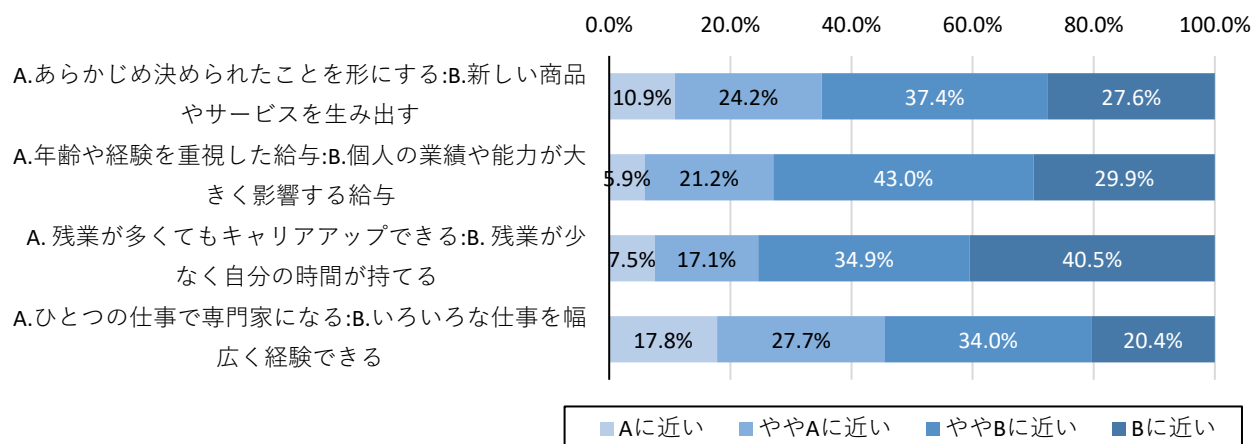
見通しに関して何をすべきかわかっているし、実行もできている	3,148
見通しに関して何をすべきかわかっているが、実行はできていない	3,283
何をすべきかはまだわからない	1,721

Q38. あなたは、就職するうえで、次の点はどの程度重要だと思いますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



	重要ではない	あまり重要ではない	やや重要	重要
どの大学（大学院）を出たか	665	1,903	5,697	4,330
どの分野を専攻したか	621	2,646	5,161	4,160

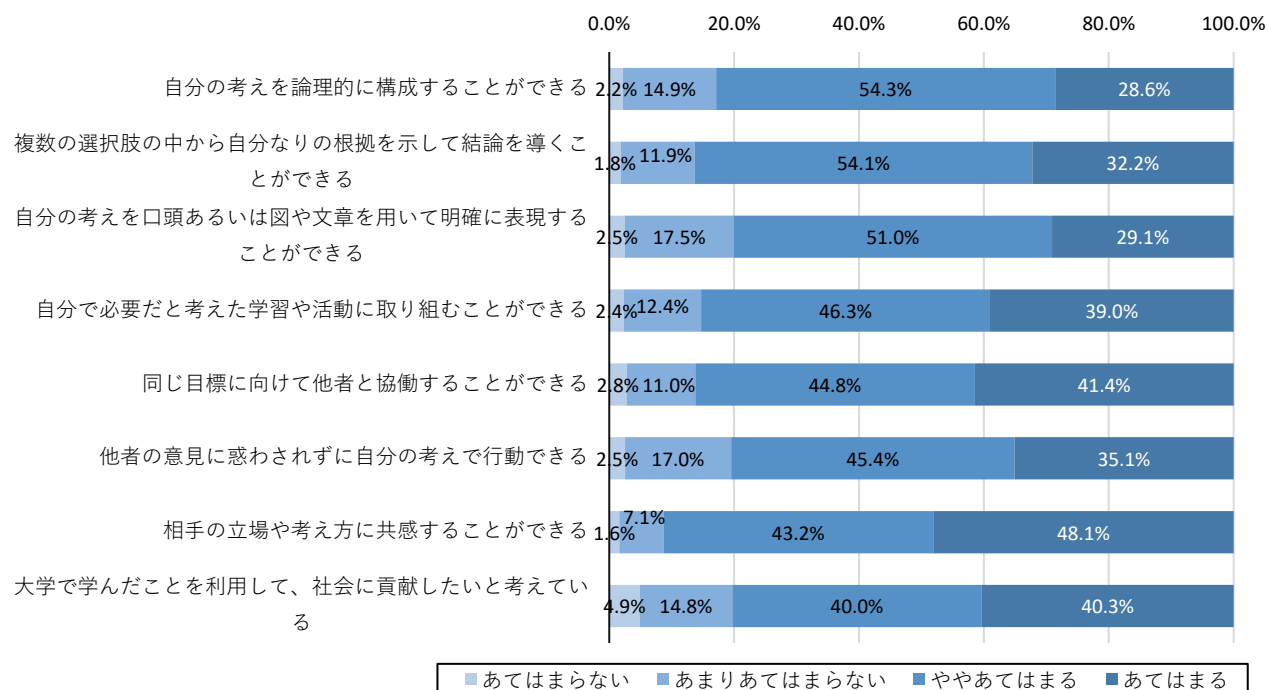
Q39. あなたは、仕事や就職先にどのようなことを望みますか、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。



	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い
A.あらかじめ決められたことを形にする:B.新しい商品やサービスを生み出す	1,367	3,047	4,703	3,472
A.年齢や経験を重視した給与:B.個人の業績や能力が大きく影響する給与	737	2,675	5,413	3,770
A. 残業が多くてもキャリアアップできる:B. 残業が少なく自分の時間が持てる	945	2,154	4,392	5,102
A.ひとつの仕事で専門家になる:B.いろいろな仕事を幅広く経験できる	2,245	3,492	4,289	2,571

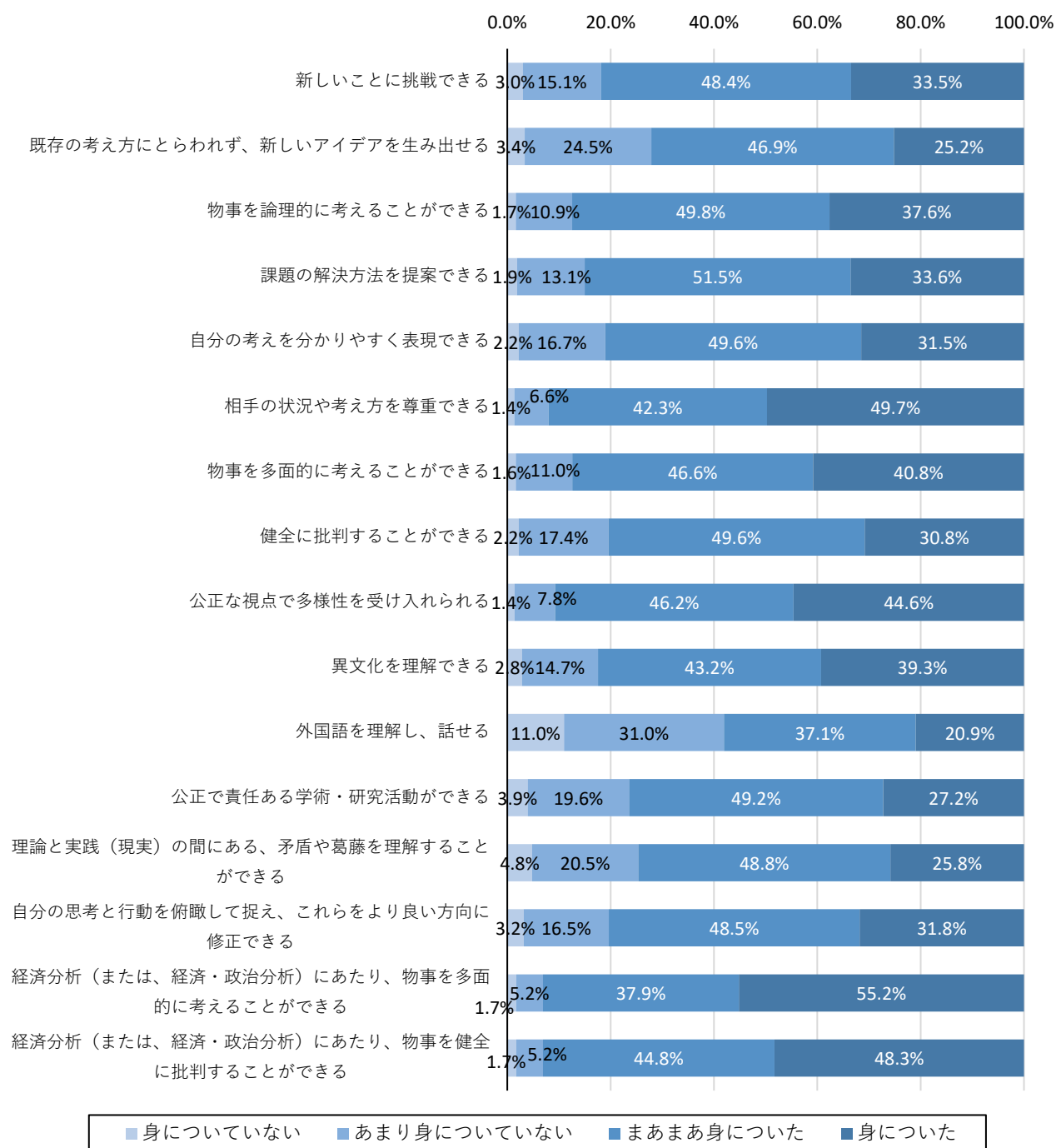
4. 学修成果・満足度等

Q40. 【いま現在】、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



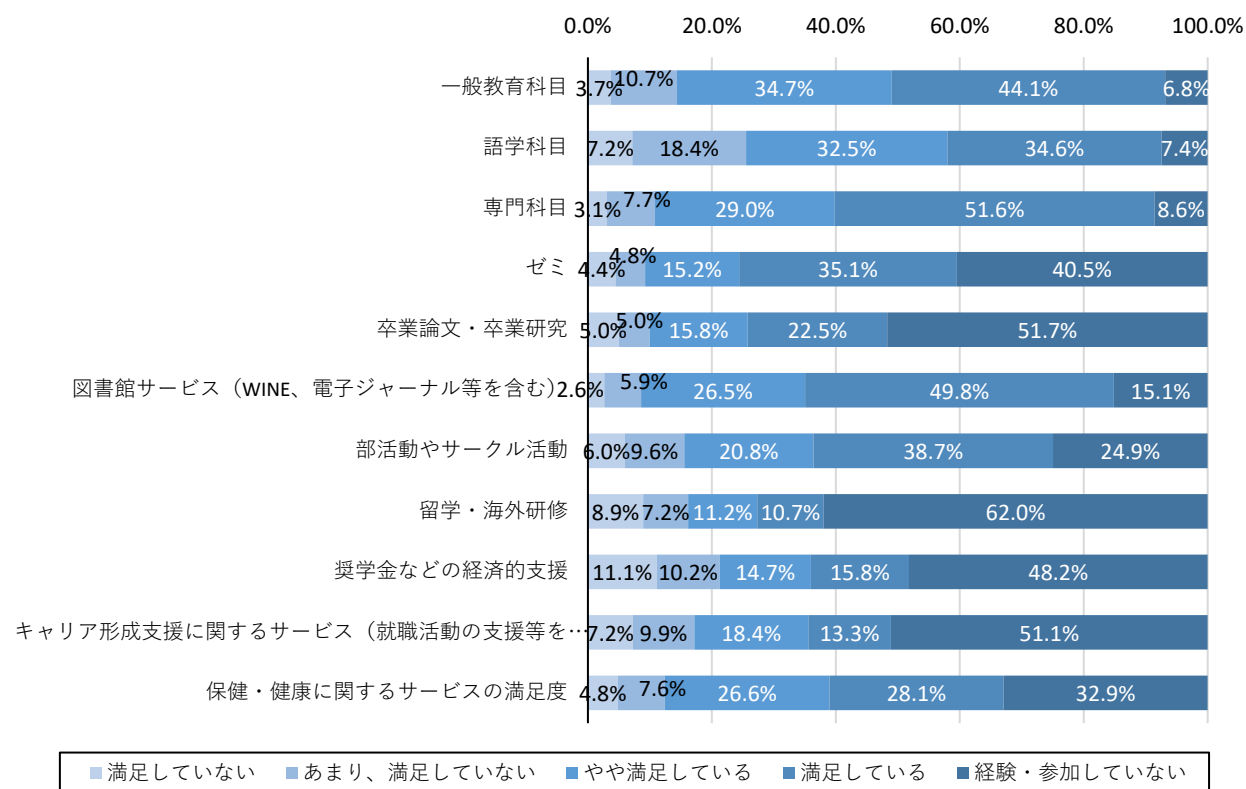
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
自分の考えを論理的に構成することができる	277	1,873	6,821	3,590
複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができる	229	1,489	6,786	4,045
自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができる	311	2,190	6,399	3,650
自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができる	296	1,549	5,803	4,894
同じ目標に向けて他者と協働することができる	350	1,378	5,617	5,196
他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できる	317	2,132	5,696	4,403
相手の立場や考え方に共感することができる	204	885	5,418	6,033
大学で学んだことを利用して、社会に貢献したいと考えている	612	1,860	5,013	5,059

Q41. 【現在】あなたは、次のそれぞれについて、どれくらい身に付いたと思いますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



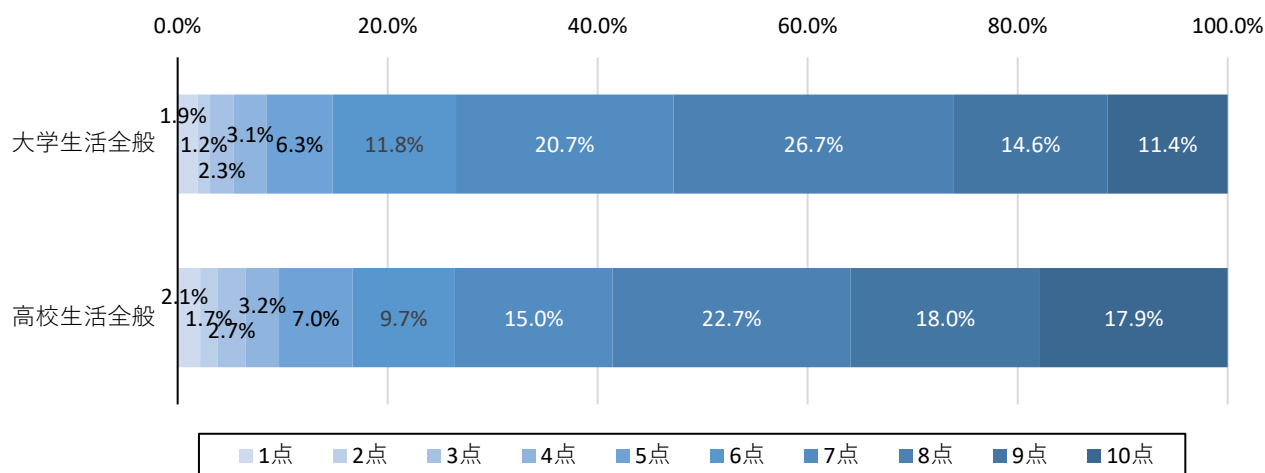
	身についていない	あまり身についていない	まあまあ身についた	身についた
新しいことに挑戦できる	380	1,899	6,066	4,197
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	423	3,076	5,887	3,159
物事を論理的に考えることができる	207	1,367	6,245	4,719
課題の解決方法を提案できる	237	1,640	6,451	4,208
自分の考えを分かりやすく表現できる	278	2,094	6,209	3,946
相手の状況や考え方を尊重できる	172	829	5,297	6,231
物事を多面的に考えることができる	206	1,372	5,840	5,111
健全に批判することができる	277	2,174	6,215	3,861
公正な視点で多様性を受け入れられる	177	983	5,785	5,588
異文化を理解できる	356	1,845	5,406	4,918
外国語を理解し、話せる	1,375	3,880	4,650	2,624
公正で責任ある学術・研究活動ができる	494	2,462	6,166	3,413
理論と実践（現実）の間にある、矛盾や葛藤を理解することができる	58	248	589	312
自分の思考と行動を俯瞰して捉え、これらをより良い方向に修正できる	38	198	583	382
経済分析（または、経済・政治分析）にあたり、物事を多面的に考えることができる	1	3	22	32
経済分析（または、経済・政治分析）にあたり、物事を健全に批判することができる	1	3	26	28

Q42. これまでの大学（大学院）生活を振り返り、授業や学生生活等の満足度についてどのように評価しますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



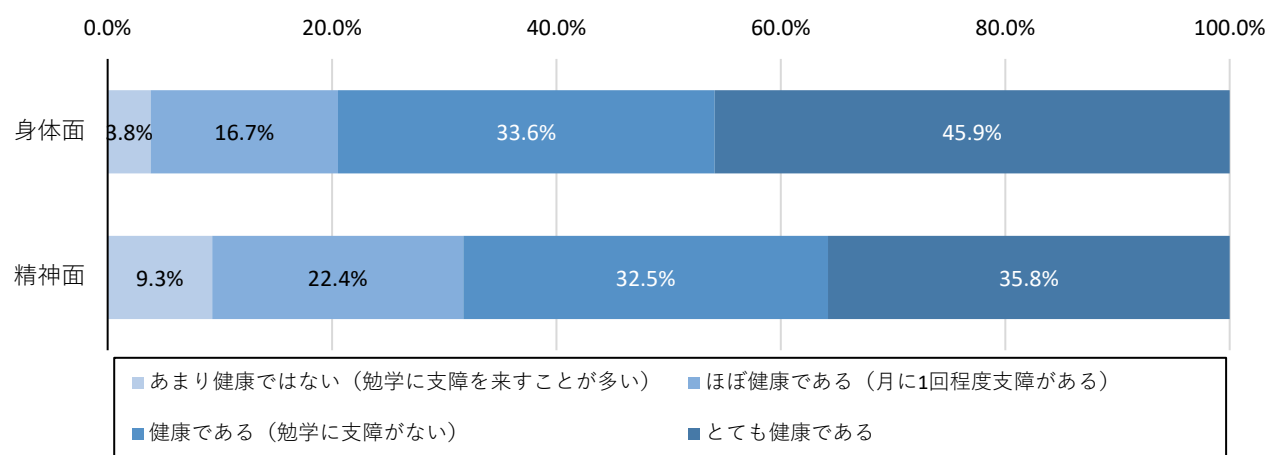
	満足してい ない	あまり、満足 していない	やや満足して いる	満足している	経験・参加し ていない
一般教育科目	460	1,337	4,340	5,525	857
語学科目	896	2,297	4,065	4,327	928
専門科目	384	963	3,610	6,425	1,067
ゼミ	550	594	1,879	4,348	5,013
卒業論文・卒業研究	617	616	1,959	2,788	6,399
図書館サービス（WINE、電子ジャーナル等を含む）	331	740	3,309	6,225	1,892
部活動やサークル活動	746	1,197	2,601	4,826	3,115
留学・海外研修	1,106	898	1,383	1,325	7,676
奨学金などの経済的支援	1,377	1,260	1,829	1,964	5,981
キャリア形成支援に関するサービス（就職活動の支援等を含む）	898	1,233	2,283	1,655	6,343
保健・健康に関するサービスの満足度	598	946	3,305	3,495	4,095

Q43. 大学（大学院）生活全般について、10 点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか。また、高校生活全般についても同様に得点をつけるとすれば、何点になりますか。



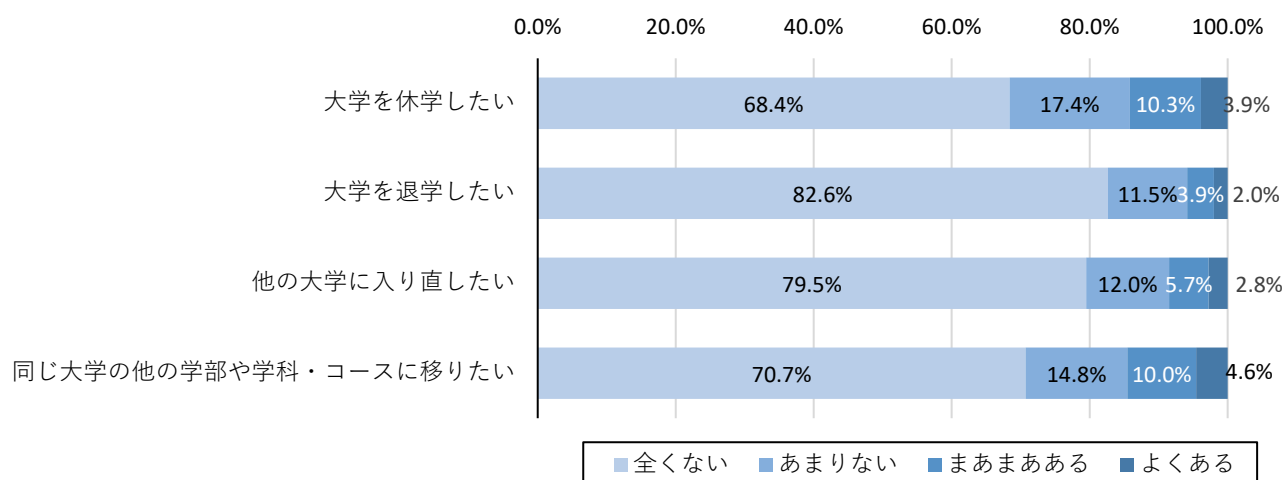
	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点
大学生生活全般	240	148	283	395	786	1,478	2,600	3,354	1,839	1,436
高校生活全般	267	209	332	396	875	1,214	1,874	2,825	2,250	2,228

Q44. あなたは現在、身体面・精神面で健康ですか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。



	あまり健康ではない （勉学に支障を来すことが多い）	ほぼ健康である（月に 1 回程度支障がある）	健康である（勉学に 支障がない）	とても健康である
身体面	468	2,037	4,095	5,599
精神面	1133	2,722	3,953	4,352

Q45. 現在、次のような不安や悩みがありますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。



	全くない	あまりない	まあまあある	よくある
大学を休学したい	8,215	2,094	1,238	464
大学を退学したい	9,919	1,382	464	239
他の大学に入り直したい	9,537	1,440	688	331
同じ大学の他の学部や学科・コースに移りたい	8,485	1,770	1,195	548

2022 年度 早稲田大学 学生生活・学修行動調査報告書

2023 年 3 月

早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (7 号館 4F)